

秘



法律
取調
委員
會

民法草案再調査案議事筆記 第參卷

日本學術振興會

民法再調査按筆記

第三

日本學術振興會

XB300	
N	2
5	C

日本學術振興會

(栗塚)本條確實ナルト云フ文字ハ刪除シタシ可決ス

第六十四條 如何ナル場合ニ於テモ賃借人ノ權利ノ存スル一切ノ收穫物ヲ收去スル前ニ賃貸借ノ終了シタルトキハ賃貸人又ハ新賃借人ハ前賃借人ノ之ヲ收去スルニ委ヌルコトヲ要ス

又賃借人ハ土地ノ收穫物ヲ收去シタル部分ニ於テ賃貸借ノ終了前ニ急要ノ作業ヲ爲スコトヲ賃貸人又ハ新賃借人ニ許スコトヲ要ス但賃借人此カ爲メ確實ノ妨害ヲ受ク可キトキハ此限ニ在ラス

(栗塚)本條モ確實ト云フ文字ハ必要ナシトス(村田)本條ハ確實ト云フ文字ヲ存在セシメタシ(栗塚)此點ハ確カト云フ意味ニアラス尤モナルト云フ義ナリ(松岡)刪除スルモ不可ナシ

第六十五條 賃借人カ賃貸物ヲ讓渡サントシ又ハ自己ノ爲メ若クハ他ノ特別ナル原因ノ爲メ之ヲ回收サントスルトキハ期間ノ滿了前ト雖トモ賃貸借ヲ解除スルコトヲ得ルノ權能ヲ留存シタル場合

又賃借人カ賃貸借ノ無用ト爲ル可キ未定事故ヲ慮カリテ同一ノ權能ヲ留存シタル場合ニ於テハ各自ニ前數條ニ定メタル時期ニ於テ豫メ解約申入ヲ爲スコトヲ要ス

(栗塚)本條ハ回收ヲ取戻トシ留存ハ留保トスヘシ可決ス(松岡)解除ハ銷除トスヘキヤ(栗塚)然リ

第二節 永借權及ヒ地上權
第一款 永借權

第六十六條 永賃借トハ期時二十个年ヲ超エル不動産ノ賃貸借ヲ謂フ

永賃借ハ五十个年ヲ超ユルコトヲ得ス此期間ヲ超ユル賃借ハ之ヲ五十个年ニ短縮ス

永賃借ハ常ニ之ヲ更新スルコトヲ得然レトモ其更新ノ時ヨリ五十个年ヲ超ユルコトヲ得ス

當事者カ永賃借契約ナルコトヲ明示シ其期間ヲ定メサルトキハ其賃借ハ四十个年ニシテ終了ス

本法頒布以前ニ期間ヲ定メテ爲シタル不動産ノ賃借ハ五十个年ヲ超ユルモノト雖モ其全期間有效ナリ

本法頒布以前ニ期間ヲ定メスシテ爲シタル荒蕪地又ハ未耕地ノ賃借及ヒ永小作ト稱スル賃借ノ終了ノ時期及ヒ條件ハ日後特別法ヲ以テ之ヲ規定ス

(渡) 最初永賃借權トアリシニ永借權ト修正シタルカ(栗塚) 賃借權永借權トセリ權ト云ハサルトキハ永賃借ト三字ヲ連用セリ(元尾崎) 永賃借ハ五十个年ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ストシタル以上ハ其期間ヲ定メサルトキモ五十个年トスルヲ當然トス(北畠) 期間ノ定メナキ爲メ永賃借ノ最長期ヲ服守セシメントスルハ不可ナリ

第六十七條 永賃借ハ永賃借契約ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ設定スルコトヲ得ス其贈遺又ハ豫約ニ付テハ第二百二十四條ノ規定ニ從フ

本條ハ贈遺トアルヲ遺贈トセリ

第六十八條 當事者相互ノ權利及ヒ義務ハ永賃借ノ設定契約ヲ以テ之ヲ定ム

特別ノ約束ナキトキハ下ノ規定ニ從フノ外通常賃借ノ規則ニ從フ

(栗塚) 設定契約トアルハ設定名義トシ約束ハ合意トスヘシ(箕作) 設定名義ト云フコトハ允當ヲ失スルニ付キ契約トスヘシ可決ス

第六十九條 永借人ハ永借地ノ形質ヲ變スルコトヲ得但永久ノ毀損ヲ生セシメサルコトヲ要ス

永借人ハ常ニ沼澤ヲ乾涸スルコトヲ得又永借地ノ作業ニ益ス可キ
トキハ其土地ヲ通過スル水流ヲ變轉スルコトヲ得

(村田)形質トアルハ性質トシテハ如何(渡)形狀ト性質トチ
包含シタルヘシ(清岡)假令ハ圃地ヲ角地トスルモ畑地ヲ耕地
トスルモ妨ケナシト云フニアリ

第七十條 永借人ハ原野ヲ開墾スルコトヲ得然レトモ所有者ノ承
諾アルニ非サレハ輪伐ニ供ヘタル小木材ヲ取除クコトヲ得ス輪伐
ニ供ヘサル樹木ト雖モ既ニ二十年ヲ過キ且其成長ノ年期カ貸借
ノ期間ヲ超ユ可キモノハ亦同シ

(栗塚)原野ト云ヘルヲ叢棘トシタシ(松岡)叢棘トスヘカラ
ス(栗塚)原野ト云ヘハ曠野ト云フカ如キ意味トナレハナリ(笑作)
那須野原ノ如キハ如何(栗塚)那須野原ノ如キチモ包含
スヘシト雖モ多クハ荆棘ト云フ意味ナレハナリ(清岡)輪伐ト

云ハ順伐ノ義ニシテ定期採伐ノ云ヒニアラス(渡)定期採伐ト
シタシ(松岡)小樹林ハ定期採伐ニ供セサルヘシ定期採伐ニ供
ヘタルモノハ大樹林ニ限ルヘシ(村田)小樹林ハ定期採伐ニ供
ヘタル部分ヲ取除クヲ得サレトモ定期採伐ニ供シタル外ハ隨意
ニ採伐スルヲ得ヘシ(榎村)小樹林ト云ヘハ定期採伐ニ供ヘタ
ルモノト云フヲ得ルカ(松岡)然リ(清岡)小樹林ト云フハ定
期採伐スルヲ得ト云フ限リナシ小樹林ト云ヘハ生木ノ短小ナル
ヲ云フヘシ(松岡)輪伐ニ供ヘタルト云フ文字ハ删除シ小木材
ト云ヘル文字ニテハ採伐スヘキト云フ義ヲ顯著ナラシメサレハ
小木材ト云フ文字ヲ改正スルヲ要ス(栗塚)日本ニ於テハ年々
小稚木ヲ採伐スヘキ山林ヲ如何稱呼スルヤ(元尾崎)牧山或ハ
薪山トモ云フヘシ(北畠)薪林トシテハ如何(栗塚)起案者ノ
註釋ニハ薪炭ノ必需ニ供フル爲メトアリ(元尾崎)小木材ハ採

伐林トスヘシ(南部)採伐林トスルヲ得ス何トナレハ林ト云ヘ
ハ採伐セサルモノナキカ故ナリ(元尾崎)末文「亦同シ」ト云
フハ取除ヲ得サルモ採伐スルヲ得ト云フ結果トナルヘシ(南部)
小木林トシテ可ナリ(樺村)輪伐ニ供ヘタルト云ヘルハ定期採
伐ニ供サルトスヘシ可決ス(箕作)樹木ト雖トモトアルハ樹木
ニシテトスルヲ可トス可決ス(渡)「亦同シ」ト云フハ採伐ス
ルヲ得サルノ義ナルヘシ(栗塚)採取又ハ採伐スルヲモ得サル
義ナリ(樺村)採伐ニ供ヘサル樹木ト雖トモ二十个年ヲ過キサ
ルトキハ採伐スルヲ得ヘキヤ(南部)二十个年以下ト雖トモ採
伐スルヲ得サルヘシ(栗塚)二十个年以下ノ樹木ハ之ヲ採伐ス
ヘキモ差支ナシトス(南部)二十个年以内ニ於テハ採取スルヲ
得ルモ伐取スルヲ得サルヘシ(栗塚)採取スルヲ得ルモノトセ
ハ伐取スルニ妨ナキハ言ヲ缺タサルナリ(清岡)二十个年以下

民再調三ノ五

ノ樹木ヲ伐取スルヲ得ルト云フ旨ヲ明スハ不可ナリ(南部)取
除クトアルハ採取ルトスヘシ可決ス(元尾崎)「亦同シ」ハ
伐採スルコトヲ得ス」トスヘシ可決ス

第七十一條 永借人ハ如何ナル場合ニ於テモ所有者ノ承諾アルニ
非サレハ主タル建物ヲ取除クコトヲ得ス從タル建物ト雖トモ其存
立ノ時期カ貸借ノ期間ヲ超ユ可キモノハ亦同シ

無異議

第七十二條 前二條ニ從ヒ永借人カ建物又ハ樹木ヲ取除キタルト
キハ其物料及ヒ材木ハ所有者ニ屬ス

無異議

第七十三條 永借人ハ其分限ヲ以テ地底ニ在ル礦物ノ採掘ヲ繼續
スルコトヲ得ス

永借人ハ採掘ノ特許ヲ得タル者ヨリ所有者ニ拂ヘル償金ニ付キ何

等ノ權利ヲモ有セス然レトモ右特許ヲ得タル者ノ地表ニ加ヘタル
損害ノ爲メ賠償ヲ受クルノ權利ヲ有ス

無異議

第七十四條 永借地ニ既ニ採掘ヲ始メ且特別法ニ從フテ要セサル
石類、石灰類其他ノ物ノ石坑アルトキハ永借人ハ其收益ヲ繼續ス
其石坑ヲ未タ採掘セス又ハ其採掘ヲ廢止シタルトキハ永借人ハ永
借地ノ改良ノ爲メ石其ノ他ノ物料ヲ採取スルコトヲ得

(栗塚)本條ハ採掘ヲ始メトアルヲ採掘ヲ始メタルトシ且特別
法ニ從フテ要セサルト云フ文字及ヒ「類」ヲ刪リタシ(松岡)
原案ノ儘ヲ可トス(栗塚)石坑ニ關スル閣令ノ發布アレハナリ
(南部)行政上ノ令達ニ依リ法文ヲ動カスハ不可ナリ(栗塚)
改良ノ爲メトアルハ改良ノミノ爲メトシタシ(元尾崎)「ノミ」
ハ記入スルニ及ハス

民再調三ノ六

第七十五條 永貸人ハ永貸借契約ノ當時ノ現狀ニテ永貸物ヲ引渡
スモノトス

永貸人ハ貸借ノ期間大小修繕ヲ負擔セス

無異議

第七十六條 意外ノ事又ハ不可抗ノ力ニ因リテ貸借ノ期間ニ起リ
タル毀損ハ借賃ヲ減スルノ理由ト爲ラス但第七十一條ニ定メタ
ル解除ノ權利ヲ妨ケス

(清岡)貸借ノ期間内ニ起リタル毀損ヲ等閑ニ附シ置クハ所有
者ノ忍ビサルモノナレハ借賃ヲ減シ借主ヲシテ其修繕ヲ爲サシ
ムヘシ(榎村)永貸借ハ地目ヲモ變換スルヲ得ヘシ故ニ貸借期
間内ハ永借人自己ノ收益ヲ害セサルヲ限り修繕スヘシ故ニ永貸
人ハ其修繕ヲ負擔セサルモノトス

第七十七條 永借物ニ賦セラル、通常又ハ非常ノ租稅其他ノ公課

ハ永借人之ヲ負擔ス租税法ニ依リテ永貸人ヨリ徵收スルトキハ永借人ハ之ヲ償還スルコトヲ要ス

(清岡)租税法ト云ヘル上ニ「若シ」ト云フ文字ヲ挿入シタシ
(元尾崎)租税ハ永貸人ヨリ徵收サルヘキモノナレハ本條ニ於テ永借人之ヲ負擔スト云フヲ示シタルヘシ

第七十八條 數人カ一箇ノ契約ヲ以テ一箇ノ不動産ヲ永借シタルトキハ借賃ヲ拂フノ義務ハ各永借人又ハ其相續人ニ在テハ連帶ニシテ且不可分ナリ

(栗塚)本條ハ第四百四十六條ノ次ニ移スノ建議アルモ此儘ニ附シタシ(元尾崎)建議案可ナリ(村田)建議案ハ動産中ニ入ルヲ以テ不可ナリ(松岡)一個ノ物体ヲ數人ニ貸借スルトキハ連帶スルヲ可トス(栗塚)本條ヲ連帶トスレハトテ尋常ノ賃貸借ニモ連帶ノ性質ヲ帶ハシメントスルハ不都合ト云フヘシ(清岡)

民再調三ノ七

一尋常貸借ト永貸借トハ差別ヲ附シ置クヲ可トス(栗塚)本條ノ連帶ヲ採ラサルハ可ナルモ此ニ連帶トセシテ以テ尋常貸借ノ場合ニモ連帶セシムルト云フハ暴論ナリ數人ノ永貸借ハ恰モ會社ノ如キヲ以テ連帶義務トスルニ差支ナキモ之ヲ尋常貸借ノ場合ニ及サントスルハ殆ント其理由ノ存スル所ヲ知ラス(村田)本條ヲ前ニ移スニ於テハ不動産ト云フ字ハ如何スルヤ之ヲ動産ニ適用スルヲ得サルヘシ(元尾崎)動産不動産トシテハ如何(松岡)建議ノ如ク二個ノ永字ヲ質トシ第四百四十六條ノ次ニ移ストシタシ可決ス(村田)動産上ノ措置ニ適用スルヲ得サルカ(松岡)動産ノ文字ナキ以上ハ之ヲ動産處分ニ適用スルヲ得サルナリ

第七十九條

起案者刪除ス

第百八十條 永貸人ハ三个年間引續キ貸賃ノ拂入ヲ受ケサルトキハ
永賃借ノ解除ヲ請求スルコトヲ得

又永借人カ他ノ債權者ノ追訴ニ因リテ破産者又ハ無資力者ト宣言
セラレタルトキハ永貸人ハ拂入ノ不足ノ多少ニ拘ハラズ解除ヲ請
求スルコトヲ得但其債權者カ借賃ヲ規約ニ依リテ拂入ル、コトヲ
擔保スルトキハ此限ニ在ラス

(松岡) 本條ハ拂入ノ有無ニ拘ハラズ解除ヲ請求スルヲ得ヘキ
ヤ(村田) 拂入ノ有無ト云フ義ニアラス拂入ヲ爲スモ些少ノ不
足アルモ解除スルヲ得ヘキ義ニシテ拂入完済シタル場合ヲ云フ
ニアラス(元尾崎) 三个年間引續貸賃ノ拂入ヲ受ケサルニアラ
サレハ永賃借ノ解除ヲ請求スルヲ得サルニ假令無資力ト宣言セ
ラレタルトキト雖トモ拂入残リアルトキニアラサレハ之ヲ解除
スヘカラスト云フヲ至當トス(栗塚) 規約ニ依リテトアルヲ延

民再調三ノ八

怠ナリトスヘシ(笑作) 現時拂入ニ些少ノ不足ヲ生セサルモ到
底後時拂入ヲ爲スヲ得サルモノナレハ即チ以テ解除ヲ請求スヘ
シ(元尾崎) 拂入完済シタルニ無資力ト爲リタル爲メ其契約ヲ
解除サル、ト云フハ苛酷ト云フヘシ(松岡) 破産無資力ト云フ
モノ解除ノ要件ト云フヘシ(松岡) 厘毛ノ拂残アリタルトキハ
解除スルヲ得完済シタルトキハ解除スルヲ得スト云フ理由ヲ發
見セス(南部) 解釋上各異ナレハ之ヲ起案者ニ質問スヘシ(清
岡) 永貸人租稅ヲ上納シタルモ賃借人之ヲ償還セサルトキハ如
何(松岡) 政府ハ一期分上納ヲ欠クモ公賣處分ヲ爲スニ永貸人
ハ三个年間期間ヲ待タサルヘカラストハ不可ナリ(村田) 貸賃
ノ未拂三个年間引續カサレハ解除スルヲ得サルニ一期間租稅ノ
償還ヲ得サルヲ以テ其契約ヲ解除サル、ハ酷ナリ(南部) 租稅
ハ一期ノ不納アリト雖トモ之ヲ公賣處分ニ附セラル、モノナレ

ハ其償還ヲ爲サ、ルトキハ假令ヒ一期タリトモ銷除サルヘシ（
渡一第一項永貸人ハトアル下ニ第七十七條ノ償還ヲ受ケスト
云フ文字ヲ記入スヘシ永借人ノ負擔ト云フハ永借人ニ對スル負
擔ナラサレハ現行ノ租税法ニ反スレハナリ（尾崎一第七十七
條ハ前議ニ從ヒタシ（元尾崎一呈書案ノ儘ニスヘシ（栗塚一第
百七十七條ノ前議ハ此呈書案ト意味ヲ異ニセサルナリ結局第百
七十七條ハ永借物ニ賦セラル、通常又ハ非常ノ租稅其他ノ公課
ハ永貸人ヨリ之ヲ徵收スト雖トモ永借人ハ之ヲ償還スルコトヲ
要ストシ本條ハ第一項永貸人ハノ下「前條ノ償還ヲ受ケス又ハ」
ト云ヘル數字ヲ挿入スルニ可決ス

第百八十一條 永借人ハ意外ノ事又ハ不可抗ノ力ニ因リテ三箇年間
引續キ全ク不動産ノ收益ヲ得ル能ハス又ハ其一分ノ毀損ニ因リテ
將來ノ收益カ借賃ノ年額ヲ超エ可キ見込ナキトキハ永貸借ノ解除

ヲ請求スルコトヲ得

無異議

第百八十二條 永借人カ永借地ニ加ヘタル改良及ヒ栽植シタル樹林
ハ永貸借ノ終了又ハ其言渡サレタル取消ニ當リ賠償ナクシテ之ヲ
殘置クモノトス
建物ニ付テハ通常賃、賃借ニ關シ第百五十六條ニ記載シタル規定
ヲ適用ス

（栗塚一）本條ハ永借地ニ加ヘタルトアルヲ永借地ニ爲シタルト
シ栽植シタル樹木ハトアルヲ栽植ハトシ終了ヲ滿期トシ其言渡
サレタル取消トアルヲ其銷除トスヘシ（清岡一）栽植ト云ヘルノ
ミニテハ米麥ノ如キヲモ意味セラル、カ如シ（笑作一）栽植シタ
ル樹木トスルカ（栗塚一）此點ハ報告委員ノ修正ヲ採用セラレサ
レハ樹林ヲ樹木トセサルヘカラス

第二款 地上權

第八十三條 地上權トハ他人ノ所有ニ屬スル土地ノ上ニ於テ建物

又ハ樹林ノ完全ノ所有權ヲ以テ所有スルノ權利ヲ謂フ

(栗塚)樹林ハ樹木トシ所有スルトアルヲ占有スルトスヘシ可

決ス

第八十四條 地上權設定ノ時其土地ニ建物又ハ樹林ノ既ニ存スル

ト否トヲ問ハス設定ノ基本、方式及ヒ公示ハ有償又ハ無償名義ノ

不動産讓渡ノ通則ニ從フ

(栗塚)本條ハ設定ノ基本トアルヲ設定行爲ノ基本トシ「有償

又ハ無償名義ノ」ヲ圖リ通則ヲ一般ノ規則トスヘシ可決ス

第八十五條 地上權者カ讓受ケタル建物又ハ樹林ノ存スル土地ノ

面積ニ應シテ土地ノ所有者ニ定期ノ納額ヲ拂フ可キトキハ其權利

及ヒ義務ハ其拂フ可キ納額ニ付テハ通常賃貸借ニ關スル規則ニ從

ヒ其繼續スル期間ニ付テハ第八十八條ノ規定ニ從フ

右納額ニ付テハ新ニ建物ヲ築造シ又ハ樹林ヲ栽植スル爲メ土地ヲ

賃借シタルトキモ亦同シ

(栗塚)本條ハ其拂フ可キ納額ニ付テハトアルヲ此事ニ付キト

スヘシ(笑作)此事ト云ヘルハ納額ヲ指スヘケレハ原案ノ儘ヲ

可トス(清岡)舊案第八十四條ハ刪除サレシヤ(栗塚)再調

査員ニテ刪除シタリ

第八十六條 既ニ存セル建物又ハ樹林ニ於ケル地上權ノ設定ニ際

シ從トシテ之ニ屬ス可キ周邊ノ地面ヲ明示セサルトキハ左ニ掲ク

ル規定ニ從フ

建物ニ付テハ地上權者ハ其建坪ノ全面積ニ均シキ地面ヲ得ルノ權

利ヲ有ス此配置ハ鑑定人ヲシテ土地及ヒ建物ノ周圍ノ形狀ト建物

ノ各部ノ用方トヲ斟酌セシメテ之ヲ爲ス

樹林ニ付テハ地上權者ハ其最長大ナル外部ノ枝ノ蔭蔽ス可キ地面
ヲ得ルノ權利ヲ有ス

無異議

第百八十七條 地上權設定後ニ築造シタル建物又ハ栽植シタル樹林
ニ付テハ地上權者ハ此種ノ物ノ爲メニ法律ヲ以テ相隣者ノ爲メニ
規定シタル距離及ヒ條件ヲ遵守ス可シ縱令其相隣者カ地上權ノ設
定者ナルモ亦同シ

又地上權者ハ働方又ハ承方ニテ其他ノ地役ノ規則ニ從フ

(果塚)此種ノ物ノ爲メトアルヲ此種ノ作業ノ爲メト相隣者
ノ爲メニトアルヲ相隣者ニ命シタルトシタシ(樺村)作業ト云
フハ可ナリ相隣者ニ命シタルハ不可ナリ其議ニ決ス

第百八十八條 既ニ存セル建物又ハ地上權者ノ築造ス可キ建物ニ付
キ設定名義ヲ以テ地上權ノ繼續期間ヲ定メサルトキハ右建物ノ存

民再調三ノ一一

立ニ均シキ時期間其權利ヲ設定シタルモノト推定ス但其大修繕ハ
土地ノ所有者ノ承諾アルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

既ニ存セル樹林又ハ地上權者ノ栽植ス可キ樹林ニ付テハ其地上權
ハ樹林ヲ採伐スル時期マテ又ハ其有用ナル最長大ニ至ル可キ時期
マテ之ヲ設定シタリト推定ス

地上權者ハ一个年前ニ豫告ヲ爲シ又ハ未タ拂期限ノ至ラサル納額
ノ一个年分ヲ拂フトキハ常ニ解約申入ヲ爲スコトヲ得

其他地上權ハ通常賃貸借權ト同一ノ原因ニ因リテ消滅ス但所有者
ノ爲ス解約申入ハ此限ニ在ラス

(果塚)本條末項其他地上權ハ云々ハ前項地上權者云々ト相轉
置スヘシ其他ト云フハ解約申入ヲ指スニアラス採伐スル時期及
ヒ最長大ニ至ル可キ時期ヲ指シタレハナリ可決ス

第百八十九條 建物又ハ樹林ハ契約前ヨリ存スルト否トテ問ハス土

地ノ所有者カ鑑定人ノ評價ニ從ヒ其讓渡ヲ要求セサルニ非サレハ
地上權者之ヲ收去スルコトヲ得ス

地上權者ハ土地ノ所有者ニ先買權ヲ行フヤ否ヲ述フ可キノ催告ヲ
一个月前ニ爲シタルニ非サレハ右建物又ハ樹林ヲ收去スルコトヲ
得ス

右先買權ニ付テハ此他尙ホ第七十三條ノ規則ニ從フ

(村田)本條ハ建物又ハ樹木ハ契約前ヨリ存スルト否トヲ問ハ
ストアル以下チ地上權者ハ云々ト連接セシメ兩項ノ區別ヲ廢止
シタシ第七十三條ト對照シテ斯ク修正セサルヘカラストス(元
尾崎)賣ルコトヲ得スト云フ意義ナラハ可ナリト雖トモ收去ス
ルコトヲ得スト云フヲ禁スルハ不可ナリ(箕作)地上權者トア
ル下ニ之ヲ賣ラントスルトキハト云フ文字ヲ加入スレハ可ナリ
(元尾崎)一个月前ニ爲シタルトキ云々トアルチ一个月前ニ爲

スコトヲ要ストスヘシ可決ス

第九十條 本法頒布ノ時ニ存スル地上權ハ左ノ規定ニ從フ

期限ヲ立テ、設定シタル地上權ハ其期限ニ至リ當然消滅ス

期限ヲ立テスシテ設定シタル地上權ハ第八十八條ニ從ヒ建物ノ

存立ト同シク繼續ス

右兩様ノ地上權ハ共ニ第八十九條ニ規定シタル先買權ニ服ス

(元尾崎)期限ニ至リ當然消滅スト云ヘルハ習慣ニ背反スヘシ

(栗塚)習慣ニ背反スルニアラス(元尾崎)契約上何時タリト
モトアルトキハ如何(南部)何時タリトモト云ヘルハ期限ニア
ラス(栗塚)第八十九條トアルハ前條トスヘシ可決ス

○(栗塚)第二十三章畜類ノ貸貸借ニ關シ農商務省ニ問合セシニ
農務局長ノ返答ニハ三但州杯ニ於テハ羊ノ貸借ハアラサルモ牛
馬ニ付テハ貸借ノ習慣アリテ其貸借ハ或ハ分娩ヲ目的ニスルモ

ノアリ或ハ使用ヲ目的ニスルアリ使用ヲ目的トスル貸借ハ貸主
他ノ牛馬ヲ貸付シテ初貸ノ牛馬ト換替スルヲ得ルモ分婉ヲ目的
トスル貸借ハ期限中他ノ牛馬ヲ以テ之ニ換替スルヲ得スト右領
承ノ儘之ヲ讓場ニ報告スト

債權擔保編

總則

第一千條 債務者ノ總財產ハ動產ト不動產ト現在ノモノト將來ノモノトヲ問ハス其債權者ノ共同ノ擔保ナリ但法律ノ規定又ハ人ノ處分ニテ差押ヲ禁シタル物ハ此限ニ在ラス

差押ヘタル財產カ債務者ノ總テノ義務ヲ辨濟スルニ足ラサル場合ニ於テハ其債額ハ債權ノ目的、原由、體様ノ如何ト日附ノ前後トニ拘ハラス其債權額ノ割合ニ應シテ之ヲ各債權者ニ分與ス但其債權者ノ間ニ優先ノ正當ナル原因アルトキハ此限ニ在ラス

財產ノ差押、賣却及ヒ其代價ノ順序又ハ共分ノ配當方式ハ民事訴訟法ヲ以テ之ヲ規定ス

(粟塚) 原由トアルハ原因ノ誤ニシテ又總テノ義務トアルヲ總義務トスヘキモ本員ハ敢テ之ヲ贊成セサルナリ(松岡) 差押タ

ル財産トアル「差押ヘタル」ノ五字ハ必要ヲ見ス（元尾崎）總義務ト云フハ不可ナリ又差押ヘタル財産ト云ヘルハ其財産トスルヲ可トス（栗塚）債務者ノ財産カ總テノ義務ヲ辨濟スルニ足ラサル場合ニ於テハトシテハ如何可決ス（元尾崎）體様ハ方式トスルヲ得サルヤ（栗塚）方式ト云フ文字ハ證書ノ方式ト云ヒ之ニ使用シ來レハナリ（箕作）末項代價ノ順序トアル下ニ配當ノ二字ヲ挿入シ共分ノ配當方式トアルヲ共分配當ノ方式ハトシタシ可決ス

第一千二條 義務履行ノ特別ノ擔保ハ對人ノモノ有リ物上ノモノ有リ

對人擔保ハ左ノ如シ

- 第一 保證
- 第二 債務者間又ハ債權者間ノ連帶
- 第三 任意ノ不可分

物上擔保ハ左ノ如シ

- 第一 留置權
- 第二 動産質權
- 第三 不動産質權
- 第四 先取特權
- 第五 抵當權

（村田）對人擔保ト云ヘルハ奇異ノ感ナキニアラス（栗塚）以下各個ノ定解ヲ與ヘタルモノナレハ本條ハ此儘ニ經過シタシ

第一部 對人擔保

第一章 保證

第一千三條 保證ハ任意ノモノアリ法律上ノモノ有リ又裁判上ノモノ有リ

下ノ第一節乃至第三節ノ規定ハ右三種ノ保證ニ共通ナリ

(村田) 本條ハ最初別項ヲ刪除シタルニアラスヤ(栗塚)最
初附録ノ部分ヲ節ニ改メタルヲ以テ斯ク示シ置クヲ可トス

第一節 保證ノ目的及ヒ性質

第千四條 保證ハ或ル人カ第三者ノ其義務ヲ履行セサルニ於テハ之
ヲ履行スルコトヲ諾約スル契約ナリ此義務ハ債務者ノ過失ニ歸ス
可キ不履行ノ場合ニ於テハ債權者ニ賠償スルノ義務ヲ暗ニ包含ス
(村田) 諾約スル契約ナリトアルハ約スル契約ナリトシテハ如
何(南部) 此義務ハトアルヲ此約務ハトスヘシ(松岡) 義務ヲ
暗ニ包含ストアルモ約務ヲ暗ニ包含ストスヘシ可決ス(元尾崎)
第三者トアルハ債務者トシタシ可決ス(松岡) 不履行ト云フハ
不能トスヘシ(笑作) 不履行ト云フニテ妨ナシ(栗塚) 假令ハ
金子ヲ返還スヘキニ之ヲ返還セサルヲ云フヘシ(松岡) 其場合
ハ履行セサルト云フ中ニ包含スヘシ

第千五條 保證ハ主タル義務ノ目的ト異ナルモノヲ目的ト爲ストキ
ハ保證トシテハ無効ナリ

然レトモ保證人ハ主タル債務者ノ諾約シタル物又ハ所爲ノ對價ト
シテ不履行ヲ豫見シタル過怠金額ヲ有效ニ諾約スルコトヲ得

(松岡) 對價ト云ヘル文字ハ商法中報酬ト云フ意義ニ使用シタ
リ(元尾崎) 原案ニテ不可ナシ

第千六條 保證人ノ義務ハ主タル義務ヨリ一層大ナルコトヲ得ス又
一層重キ體様ニ服スルコトヲ得ス若シ保證人ノ義務カ一層大ナル
又ハ一層重キトキハ主タル義務ノ限度及ヒ體様ニ之ヲ減ス

(松岡) 最初ハ一層大ナルノ下「トキ」ト云フ文字アリ如何(村田)
「トキ」ヲ記入スヘシ可決ス

第千七條 前條禁止ノ規定ハ債務者ヨリ其主タル義務ノ爲メ物上擔
保ヲ供セサルトキ保證人ヨリ其從タル義務ノ物上擔保ヲ供スルコ

トチ妨ケス又保證人カ主タル債務者ヨリ一層嚴ナル執行方法ニ服スルコトヲモ妨ケス

保證人ハ亦第三者ヲ引受人トシテ己レヲ保證セシムルコトヲ得此引受人ニ對シテハ保證人ハ主タル債務者ノ資格ヲ有ス

(松岡)資格ヲ有スト云フハ嚴然威示スルカ如シ(笑作) 演

劇者ノ役割ノ如キモノトス(村田)位置ヲ有ストシテハ如何(北島)地位トシタシ(元尾崎)地位ニ在リトストシタシ(松岡)地位ヲ有ストスヘシ可決ス

第千八條 金額又ハ定マリタルモノニ制限シタル保證ハ其利息ニモ果實ニモ其他ノ附從物ニモ及フコト無シ

然レトモ主タル義務ノ無限ノ保證ハ要約シタル利息、遲延ノ利息其他右債務ノ天然上、法律上又ハ合意上ノ附從物ニ及ヒ又主タル債務者ニ對シテ爲シタル最初ノ訴ノ費用及ヒ其訴ヲ保證人ニ告知

シタル以後ノ費用ニモ及フ

(元尾崎)本條ハ假令ハ元債ノミノ保證ニ止マル旨ヲ記示セサルヲ得サルヤ(栗塚)然リ

第千九條 總テ有效ナル義務ハ之ヲ保證スルコトヲ得

無能力者ノ取消スコトヲ得ヘキ義務ト雖トモ亦有效ニ之ヲ保證スルコトヲ得其義務カ裁判上ニテ取消サレタル後ト雖トモ保證ハ其效力ヲ存ス但保證人カ其保證ノ際債務者ノ無能力ヲ知リタルトキニ限ル

其他第三者ノ自然義務ノ法定保證ノ場合ハ第五百八十八條以下ニ於テ之ヲ規定ス

(栗塚)本條末項ハ自然義務ノ議決ニ至ルマテ未定ニ附セラレタシ其議ニ決ス

第千十條 何人ニテモ將來ノ債務ヲ保證スルコトヲ得又債權者又ハ

債務者ノ方ニ於テ隨意ノ條件ニ繫ル債務ヲモ保證スルコトヲ得但
保證人ニ於テ其債務ノ性質及ヒ廣狹ヲ査定スルコトヲ得ルトキニ
限ル

(松岡) 本條ハ最初「將來」ノ下物ヲ目的トスルト云フ文字アリ如何(渡) 然リ物ヲ目的トスルト云フ文字ヲ示シ置キタシ(委員長) 將來ノ債務ヲ保證スルト云フハ向後ニ屬スル義務ヲ云フヤ(村田) 向後ノ事項ヲモ包含スヘシ

第一千一條 何人ニテモ債務者ノ委任ヲ受ケ又ハ其不知ニ於テ又其意ニ反シテモ其保證人ト爲ルコトヲ得
辨濟シタル保證人ノ其債務者ニ對スル求償ノ場合ハ第二節第二款ニ於テ之ヲ規定ス

(松岡) 佛蘭西民法ハ委任ヲ受ケ又ハ其不知ニ於テト云フ規定アルノミ(元尾崎) 其意ニ反シテモト云フハ奇怪千万ト云フヘ

シ(南部) 其意ニ反シテモト云フヲ刪除スルモ代位辨濟アルヲ以テ恰モ其意ニ反シテ保證サレタルト同一ノ結果ヲ見ルヘシ
第一千二條 有效ニ保證人ト爲ルニハ無價名義ニテ義務ヲ負擔スルノ能力ヲ有スルコトヲ要ス

然レトモ主タル契約カ有價名義ナルトキハ保證人ノ債務者ニ對スル無能力ハ債權者カ之ヲ知リタルトキニ非サレハ保證人ヨリ債權者ニ其無能力ヲ以テ對抗スルコトヲ得ス

(元尾崎) 利息付ノ貸金ハ有價名義ナルヤ(栗塚) 雙務契約ニアラスト雖トモ有價名義タルヘシ

第一千三條 債務ヲ保證スルノ意思ハ之ヲ明示セサルトキハ明ニ事情ヨリ生スルコトヲ要ス然レトモ其意思ハ契約者ノ一方ヲ他ノ一方ニ勸メ又ハ其一方ノ現在若クハ將來ノ有資力ヲ確言シタル事實ノミヨリ之ヲ推測スルコトヲ得ス

若シ證書ノ署名者中ノ一人カ共同債務者ナリヤ又ハ保證人ナリヤ
ニ付キ疑アルトキハ之ヲ保證人ト看做ス

(笑作) 第二項ノ場合ハ現今多々アリ(南部) 單ニ借用證文ニ
連名シタルトキハ皆連帶者ト視認スヘシ(清岡) 「ナリヤ」ト
云ヘルハ「ナルヤ」トスヘシ可決ス

第一千四條 保證人ノ義務ハ其相續人ノ負擔ニ歸シ又債權者ノ相續
人ノ利益ニ歸ス但反對ノ要約アルトキハ此限ニ在ラス

(松岡) 要約ハ約務トスヘシ原案ニ決ス

第一千五條 債務者カ保證人ヲ立ツ可キ合意ヲ以テ義務ヲ負ヒタル
トキハ其債務者ハ債務ノ本性及ヒ重要ニ關シ有資力ノ人ニ非サレ
ハ保證人トシ又ハ保證人ノ引受人トシテ之ヲ立ツルコトヲ得ス
若シ右ノ保證人又ハ其引受人カ無資力ト爲リタルトキハ債務者ハ
前項ト同一ノ條件ヲ具フル他ノ者ヲ立ツルコトヲ要ス

其他保證人ハ辨^済有ル可キ控訴院ノ管轄地内ニ於テ住所ヲ有シ又
ハ之ヲ選定スルコトヲ要ス

債權者ヨリ人ヲ指定シテ保證人ヲ要約シタルトキハ前記ノ條件ヲ
要セス

(栗塚) 前記ノ文字ヲ本條トシ本性ノ文字ヲ性質トスヘキニ然
ラサリシハ誤ナリ(松岡) 實際ハ本條ノ必要ナシ(元尾崎) 控
訴院ノ管轄地内ニ住居スル者ヲ保證人ニ選定スヘキモノトセハ
假令ハ東京ノ債務者ニシテ新潟人ヲ以テ保證トスルニ至ルヘシ
(栗塚) 報告委員中ニハ始審裁判所ノ管轄内トスヘシト云フモ
然カスルトキハ區域狹隘ニ失シ保證人ヲ得難シト云フニアリ(笑
作) 又ハ保證人ノ引受トシノ數字ヲ刪除スヘシ可決ス(栗塚)
保證人ノ引受人ト云フヲ明記セサルモ可ナルヘシ依テ第一項「
又ハ保證人ノ引受人トシ」第二項又ハ「其引受人」ノ數字ヲ刪

除スヘシ可決ス（委員長）重要ニ關シト云フハ妥當ナルヤ（笑作）重要ノ加減ト云フ義ナリ（委員長）重要ニ關シト云ヘルハ大小ニ應シトスヘシ可決ス

第一千十六條 債務者カ前條ノ條件ヲ具フル保證人又ハ引受人ヲ立ツルコト能ハサルトキハ裁判所ノ認可ヲ得テ物上擔保ヲ與フルコトヲ得

（笑作）「又ハ引受人」ヲ刪ルヘシ可決ス（村田）裁判所ノ認可ヲ得テト云フ文字ヲ刪ルヘシ保證人ヲ立ツルコト能ハサルトキハ裁判所ノ認可ナキモ物上擔保ヲ與フルノ外ナシ（栗塚）保證人ヲ立ツヘキ契約ニシテ物上擔保ヲ付與サレテハ迷惑ナルニアラスヤ（村田）債權者モ保證人ヲ認メサル前貸金スルト云フハ債權者ノ粗忽ト云フヘシ（栗塚）債務者ハ最初誰某ヲ以テ保證人ニ立ツヘキ契約ナルニ其契約ノ目的ナル人物ヲ保證人ニ立

テスシテ粗大ノ擔保物ヲ供與セラル、コトアルハ債權者ハ困惑ナルヘシ（村田）誰某ヲ保證人ニ立ツヘキ指定ノ意味ナシ（南部）物上擔保ノ上ニ十分ナルト云フ文字ヲ挿入スレハ可ナリ可決ス

第一千十七條 商證券ノ保證ノ特例及ヒ仲買人カ委託者ニ對シテ諾約シタル擔保ハ商法ニ於テ之ヲ規定ス

（笑作）本條「ノ特例」ノ文字ハ「擔保」ノ下ニ轉入スヘシ可決ス

第二節 保證ノ效力

第一款 保證人及ヒ債權者間ノ保證ノ效力

第一千十八條 債權者ハ債務者ニ義務履行ノ催告ヲ爲シタルモ其效果アラサリシコトノ證據ヲ保證人ニ示サスシテ之ヲ訴追スルコトヲ得ス

然レトモ債務者カ行方知レス又ハ破産ノ宣告ヲ受ケ若クハ顯然タル無資力ノ形状ニ在ルトキハ右ノ催告ヲ必要トセス

無異議

第一千九條 保證人ハ右ノ外下ノ制限及ヒ條件ニ從ヒ債權者カ豫メ債務者ノ財産ヲ檢索シテ之ヲ賣ラシムルコトヲ債權者ニ要求スルコトヲ得

無異議

第一千二十條 保證人ハ明示又ハ默示ニテ財産檢索ノ利益ヲ拋棄シ又ハ主タル債務者ト連帶シテ義務ヲ負擔シタルトキハ檢索ノ利益ヲ享ケス

總テノ場合ニ於テ保證人ハ主タル債務ノ基本ヲ爭フノ前ニ檢索ノ利益ヲ以テ債權者ニ對抗セサリシトキハ其利益ヲ失フ

(笑作) 保證人カ主タル債務者ト連帶シテ義務ヲ負擔シタルト

キハト云フハ保證人ナルカ連帶債務者ナルカ判然セス(栗塚) 最初保證人ナリシトキ半途ニ於テ連帶債務者トナルコトアルヘシ(南部) 半途ニ連帶債務者トナルニアラス保證人ト連帶債務者トノ兩資格ヲ包有スルモノナルヘシ

第一千二十一條 檢索ヲ要求スル保證人ハ債務者ノ不動産ニシテ辨濟ノ有ル可キ控訴院ノ管轄地内ニ在ルモノヲ債權者ニ指示スルコトヲ要ス

保證人ハ爭ニ係ル不動産ヲモ又他ノ債權者ニ優先ニテ抵當ト爲リタル不動産ヲモ又訴追シタル債權者ニ抵當ト爲リタル不動産ニシテ第三所持者ノ手ニ存スルモノヲモ指示スルコトヲ得ス

債務者ニ屬スル動産ニ付テハ債務者之ヲ物上擔保トシテ既ニ債權者ニ供シタルトキニ非サレハ保證人其檢索ヲ要求スルコトヲ得ス

(松岡) 檢索ハ債務者ノ取有ニ係ル動産ニ施スヲ得サルヤ(栗

塚一動産ハ轉々シ易キモノナレハ爲ス能ハス（委員長）訴追シ
タル債權者ト云ヘルハ此事柄ニ關スル債權者ナリヤ（栗塚）然
リ（清岡）動産ヲ檢索セサルハ不可ナリ（松岡）商賣ノ如キハ
不動産ヨリモ寧ロ動産ヲ有スルモノ多カルヘシ然ルチ動産ヲ檢
索セサルハ不都合ト云フヘシ（委員長）土藏ハ之ヲ檢索スルチ
得ルモ記名公債ノ如キハ之ヲ檢索スルニ差支アラス（栗塚）隠
匿スルコトヲ得サル動産ハ物上擔保ニ供シタルト云フニテ取締
ヲ附スルチ得ヘシ（松岡）報告委員ニテ修正ヲ乞ヒタシ其議ニ
決ス

第一千二十二條 債權者檢索ノ有效ナル對抗ヲ受ケ其檢索ヲ爲スコト
ヲ怠リテ債務者其後無資力ト爲リタルトキハ保證人ハ債權者ノ檢
索ニ因リ得タルコト有ル可キ金額ニ滿ツルマテ其義務ヲ免カル
無異議

民再調三ノ二二

第一千二十三條 一人ノ債務者ノ爲メ數人ノ保證人アルトキハ債務ハ
均一ニテ當然其間ニ分タル但不均一ニテ分別スルコトヲ定メ又ハ
其保證人カ或ハ債務者ト共ニ或ハ各自ノ間ニ連帶シテ義務ヲ負擔
シ若クハ其他ノ方法ニテ分別ヲ拋棄シタルトキハ此限ニ在ラス
保證ノ義務カ各別ノ證書ヨリ生スルトキト雖モ分別ノ利益ハ存在
ス

（栗塚）分割ノ文字ヲ分別トシタリ

第一千二十四條 保證人ハ檢索ノ利益ヲ用キタルト否ト分別ノ利益ヲ
享クルト否ト問ハス訴追ヲ受ケタルトキハ第一千二十九條ニ明示
シタル目的ヲ以テ債務者ヲ訴訟ニ參加セシムル爲メ基本ニ付テノ
答辯前ニ民事訴訟法ニ定メタル方式及ヒ條件ニ從ヒ延期抗辯ヲ以
テ債權者ニ對抗スルコトヲ得

（元尾崎）基本ニ付テノ答辯ト云フハ如何（栗塚）本案ニ於ケ

ル答辯ヲ云フ

第一千二十五條 保證人カ基本ニ付テ答辯スルトキハ主タル債務ノ組成又ハ其消滅ヨリ生スル抗辯又ハ不受理ノ理由ヲ以テ債權者ニ對抗スルコトヲ得

保證人ハ債務ヲ保證スルニ當リ債務者ノ無能力又ハ其承諾ノ瑕疵ヲ知ラサリシトキハ是等ノ事項ヨリ生スル無効ノ理由ヲ以テモ對抗スルコトヲ得

(笑作) 又ハ不受理ノ理由ヲ以テト云フハ必要ヲ見ス(栗塚) 即チ不受理ノ理由ト云フニ過キサレハ刪除スヘシ可決ス

第一千二十六條 右ノ抗辯ニ付キ債權者ト保證人トノ間ニ有リタル判決ハ債務者ヲ害スルコトヲ得ス然レトモ之ヲ利スルコトヲ得但其判決ノ牽連シタル箇條ハ債務者ニ利ナルモノト不利ナルモノトヲ分ツコトヲ得ス

無異議

第一千二十七條 債務者ニ對シテ時効ヲ中斷シ又ハ債務者ヲ遲滯ニ付スル行爲ハ保證人ニ對シテ同一ノ效力ヲ生ス

保證人ニ對シタル右同一ノ行爲ハ保證人カ債務者ノ委任ヲ受ケ又ハ債務者ト連帶シ義務ヲ負擔シタルトキニ非サレハ債務者ニ對シテ效力ヲ生セス

無異議

第一千二十八條 主タル債務者ノ爲シタル債務ノ自白又ハ認知及ヒ債務者ト債權者トノ間ニ爲シタル裁判外ノ宣誓又ハ其拒絕ハ保證人ヲ利シ又ハ之ヲ害ス

保證人ト債權者トノ間ニ爲シタル右同一ノ所爲ハ債務者ヲ利ス然レトモ委任又ハ連帶アル場合ニ非サレハ之ヲ害セス

(栗塚) 本條ハ裁判外ノ宣誓ト云フニ付キ最初之ヲ留保ニ付シ

タルモ未タ決セサルナリ

第二款 保證人及ヒ債務者間ノ保證ノ效力

第一千二十九條 債權者ヨリ訴追ヲ受ケタル保證人ハ第四百十九條及ヒ第一千二十四條ニ掲ケタル如ク主タル請求ニ對シ債務者ノ答辯ヲ爲サシムル爲メ擔保ノ附帶ノ請求ヲ以テ債務者ヲ訴訟ニ召喚スルコトヲ得又保證人ハ其敗訴ノ言渡ニ附隨シテ債務者ニ對シ次條ニ定メタル賠償ノ言渡ヲ求ムルコトヲ得

右擔保ノ附帶ノ請求ハ債務者ノ委任ヲ受ケテ義務ヲ負擔シタル保證人ノミニ屬ス

(栗塚) 本條ハ債務者ヲ訴訟ニ召喚スルコトヲ得ト云ヘルト債務者ニ對シ賠償ノ言渡ヲ求ムルコトヲ得ト云ヘルトノ兩義ヲ包含シタルニ舊案ニテハ債務者ヲ訴訟ニ召喚スルヲ得ト云ヘル一義ヲ有スルニ過キサルカ如シ(松岡) 本條ハ債務者ヲ召喚ス

ルト云フヲ本旨トスルニアリ擔保ノ附帶ノ請求ヲ以テト云ヘルハ即チ賠償ノ言渡ヲ求ムル爲メニアルヘシ又訴訟ニ參加セシムル爲メ附帶ノ請求ト云フコトナシ(南部) 前決議案ニ復スルヲ可トス可決ス(清岡) 第二項ハ「擔保ノ」ヲ刪ルヘシ(栗塚) 別項ハ此儘ニ附スヘシ可決ス(清岡) 第一項ハ附帶ノ請求トアル上ニ「擔保ノ」ト云ヘル三字ヲ加ヘ置クヲ可トス可決ス

第一千三十條 主タル債務ヲ辨濟シ其他自己ノ出捐ヲ以テ債務者ニ義務免除ヲ得セシメタル保證人ハ債務者ヨリ賠償ヲ受クル爲メ之ニ對シテ擔保訴權ヲ有ス但左ノ區別ニ從フ

第一 保證人カ債務者ノ委任ヲ受ケテ義務ヲ負擔シタルトキハ其債務者ニ義務免除ヲ得セシメ又ハ債務者ノ名ニテ辨濟シタル元利、其擔當シタル費用、立替ヲ爲シタル時ヨリ其利息其他損害アルトキハ其賠償ノ金額ヲ債務者ヨリ償還セシムルコ

トヲ得又此委任ノ場合ニ於テ保證人ハ其分限ヲ以テ言渡ヲ受ケタル時ハ直チニ其賠償ヲ受クル爲メ訴ヲ爲スコトヲモ得

第二 保證人カ債務者ノ不知ニテ義務ヲ負擔シタルトキハ債務者ノ義務免除ノ日ニ於テ之ニ得セシメタル有益ノ限度ニ從ヒ右ノ賠償ヲ受ク

若シ保證人カ債務者ノ意ニ反シテ義務ヲ負擔シタルトキハ保證人ノ求償ノ日ニ於テ債務者ノ爲メ存在スル有益ノ限度ニ非サレハ右ノ賠償ヲ受クルコトヲ得ス

(笑作) 自己ノ出捐ヲ以テト云フハ俗ニ所謂自腹ヲ切ルト云フカ如シ(栗塚) 義務免除トアルハ義務ヲ免レシメタルトスヘシ可決ス(清岡) 委任ヲ受ケテ義務ヲ負擔シタルト云フハ允當ニアラス囑託ヲ受クルト云フ義ナレハナリ(南部) 委任ヲ受ケト云フニテ不可ナシ

第二十三章 畜類ノ賃貸借

第一節 畜類ノ尋常ノ賃貸借

第九百九十二條 畜類ノ尋常ノ賃貸借ハ賃貸人カ牛、羊、馬其他ノ家畜ノ全群又ハ若干頭ヲ看守シ飼養シ及ヒ世話スル責ニ任スルノ賃貸借ナリ

特別ノ契約ナキトキハ賃借人ハ産子、絨毛ノ一半及ヒ乳、卵、肥料ノ全部ヲ收取シ且專ラ其畜類ヲ使役スルノ權利ヲ有ス

畜類賃借人ノ權利ハ物權ニシテ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得但反對ノ契約アルトキハ此限ニ在ラス

(栗塚) 畜類ノ賃貸借ニ付テハ嘗テ委員長ノ命令ニ依リ過日農商務省ニ出頭シ農務局長ニ質問シタレハ農務局長ハ嘗テ他府縣ヲ巡回セシメタル屬官ヲ召シ下問シタル所長野福島其他山陰道ノ諸縣ニ於テハ牛馬ニ關スル賃貸借アリト其目的ハ使用ニ供ス

ルモノアリ又ハ産子ヲ得ントスルニアリテ使用ニ供スルモノハ
期限内ト雖モ他ノ牛馬ヲ以テ之ニ換替スルヲ得ルモ産子ヲ得ン
トスルモノハ期限内ハ他ノ牛馬ヲ以テ之ニ換替スルヲ得スト此
等ハ元來佐賀縣ニ創肇スルモノナリト云ヘリ然ルニ羊ノ貸借
ト全群又ハ若干頭ヲ貸借スルトノ習慣ハ未タ本邦中ニ存在セ
サルナリト云フ（南部）畜類繁殖漸々夥多ニ至リ其使用モ愈繁
多ニ趨クトキハ是非共本則ヲ存在セシムルヲ可トス（村田）農
商務省ニ在ル類例ノ如キハ尋常ノ貸借ニ依テ以テ支配スルヲ
得ヘシ（清岡）畜類ノ貸借ノ規定ヲ民法中ニ掲ケタルニ依リ別
段民法ノ体面ヲ毀損セサルヘシ（栗塚）畜類ノ貸借本邦中ニ存
在セサレハ各別ナリト雖モ既ニ其習慣ノ存在セル以上ハ本邦ノ
規定ニシテ前來ノ習慣ニ適合スルヤ否ヤヲ^モ研究セサルヘカラス
（松岡）本法ノ畜貸借ハ從來ノ習慣ニ反スルノ結果ヲ見ルノ恐

ナキヤ（尾崎）本法畜類ニ關スル各條ハ之ヲ實際上ニ適用セン
トスルモ恐クハ能ハサルヘシ（清岡）畜貸借ノ規定ヲ全廢スル
ハ不可ナルニ依リ各條ニ付キ其可否ヲ研究スヘシ（元尾崎）此
點ハ速了ノ議決ニ附セス農商務省ニ附セス農商務省ニ此原案ヲ
送付シ意見ヲ聽キ愈之ヲ規定スヘキ必要アレハ日後特別法ヲ以
テ發布スルモ妨ケナシ（委員長）最初此點ハ如何ニ論決シタル
カ（栗塚）一時廢案ニ歸セントシタルモ尙ホ農商務省ニ質問ス
ヘシト云フニテ未決ニ附シタリシナリ（松岡）此規定ハ必ス制
文法ニ明記セサルモ其他ノ習慣上ニテ差支ヲ生シタルニ非ラサ
ル以上ハ其習慣ニ委シテ可ナリ（委員長）畜類ノ繁殖ハ隨次退
減スルカ隆盛ニ赴クカト云ヘハ必ラスヤ隆盛ニ赴クニハ相違ナ
シ故ニ一般畫一ノ規定アラサルトキハ各地其規則ヲ異ニシ又主
務省ニ於テハ其不都合ヲ感覺スルニ於テハ其權限ノ許ス限りハ

自由ニ其規程ヲ制作スヘシ（栗塚）大地主カ數多ノ小作ヲ約スルカ如ク畜類所有者ハ之ヲ小農ニ貸付スヘシ（清岡）民法中ニハ蜂蜜ニ關スル條項ヲ規定シタルニ畜類ニ關スル規定ヲ欠如スルハ奇異ナリ（委員長）此規定ヲ全刪スレハ習慣ニ依ルヲ得サルヘシ何トナレハ民法中ニ貸貸借ノ款節アルヲ以テナリ結局多數決ヲ以テ本章ヲ刪除ス

第一千三十一條 連帶又ハ不可分ニテ責ニ任スル數人ノ債務者ヨリ保證人ニ委任ヲ爲シタル場合ニ於テハ其債務者ハ第九百四十五條ニ從ヒ保證人ニ對シ連帶ノ擔保人タリ

（栗塚）保證人ハ債務者ノ擔保ト爲リ債務者ハ保證人ノ擔保ト爲ルヘシ

第一千三十二條 債務者ヲ訴訟ニ參加セシムルコトヲ怠リタル保證人ハ其債務者カ債權者ニ對抗ス可キ排訴抗辨ヲ有シタルコトヲ證明

スルトキハ第一千三十條ニ定メタル求債權ヲ有セス

若シ債務者カ債權者ニ對抗ス可キ延期抗辨ノミヲ有シタルトキハ

懈怠ノ保證人ノ求債ニ對シ之ヲ以テ對抗スルコトヲ得

（栗塚）本條ハ證明トアルヲ疏明トスヘシ（松岡）本條ハ證明ト云フヲ可トス（栗塚）證明ノ文字ハ前ニモ記載セサルニ依リ證明ノ儘ニテ可ナルト云フ精神ナレハ證スルトスヘシ可決ス（松岡）證スルト云ヒ疏明ト云フカ如キ異字同意ハ訴訟法ト一樣ニシタシ（栗塚）關係ノ文字ハ都度々々訴訟法組合へ通知セリ（委員長）只通知ノミニテハ協議ヲ得サルニ付キ能ク熟議スヘシ（笑作）懈怠ノ保證人トアルハ懈怠ナル保證人トスヘシ可決ス

第一千三十三條 保證人ハ有效ニ辨濟シタルモ債務者ニ有益ニ其旨ヲ通知スルコトヲ怠リ爲メニ債務者カ善意ニテ再ヒ辨濟シ其他有債

名義ニテ自己ノ免責ヲ得タルトキモ亦其求償權ヲ失フ

右ニ反シテ債務者カ自ラ債務ヲ消滅セシメタルコトヲ保證人ニ通知スルコトヲ怠リタルトキハ債務者ハ場合ニ從ヒ其債務ノ消滅後保證人ノ爲シタル辨濟ニ付キ責任アリトノ宣告ヲ受ケルコトアリ」孰レノ場合ニ於テモ利害ノ關係アル當事者ハ受取ルコトヲ得サルモノヲ受取リタル債權者ニ對シテ求償權ヲ有ス

（松岡）本條第二項ハ場合ニ從ヒ云々責任アリトノ宣告ヲ受ケルコト有リト云ヒシハ場合ニ從ヒ責任アリトシテハ如何（元尾崎）原案ノ儘ニシテ可ナリ（栗塚）松岡委員ノ論難ハ法意ニアラスシテ文字上ニ過キサルヘシ原案ニ可決ス

第千三十四條 委任ヲ受ケテ義務ヲ負擔シタル保證人ハ辨濟ヲ爲ス前又訴追ヲ受クル前ニテモ債務者ヨリ豫メ賠償ヲ受クル爲メ又ハ未定ノ損失ヲ擔保セシムル爲メ左ノ三箇ノ場合ニ於テ之ニ對シ訴

ヲ爲スコトヲ得

第一 債務者カ破産シ又ハ無資力ト爲リ且債權者カ清算ノ配當ニ加入セサルトキ

第二 債務ノ満期ノ到リタルトキ

第三 満期ノ不定ナル債務カ其日附ヨリ十ヶ年ヲ過キタルトキ（松岡）清算配當ノ手續ヲ破産又ハ無資力ニ適用スヘキモノト云フトキハ無資力ト云フハ商事上ノ破産ト異ナルナキヤ（栗塚）無資力ハ破産ト手續ヲ同フスルモ原因及ヒ結果ヲ同セス破産ハ既往ニ溯ル效力ヲ有スヘシト雖モ無資力ト云フトキハ否ラサルナリ（元尾崎）民法中ニハ無資力ノ手續ナシ（笑作）財産差押ヲ爲シタレハ逆無資力ニアラス自ラ破産法ノ手續ニ依ラサルヘカラス（元尾崎）第千一條ハ無資力ニ適用スル手續トナラサルカ（松岡）動産差押ハ別ニ公告ノ手續ヲ盡

スニアラサレハ之ヲ清算配當ニ加入スルヲ得ス（栗塚）起案者ノ精神ハ自己ノ財産ニ超過スル債務ヲ負フタルトキハ無資力トナリ其手續ハ破産手續ト異ナラス（箕作）訴訟法ハ差押ノ規定ニ過キス無資力處分ノ手續ニアラサレハ其方法ヲ訴訟法ニ明記セサルヘカラス（栗塚）差押ニハ先取特權ヲ有スト云ヘルコトアラサレハ差押ノ手續ハ無資力處分ノ方法タルヘシ（南部）無資力ト云フハ差押ノ結果ニシテ差押手續ヲ盡シタル后無資力ト云ヘルヲ惹起スヘシ（栗塚）無資力ト云フハ假令ハ數債權者一債務者ニ償還ヲ要ムル爲メ其債務者ノ財産差押ヲ爲シタルニ其財産數債權者ニ辨償スルヲ得サルトキハ各債權者ハ互ニ幾何ノ損分ヲ受ケサルヘカラスト云フニ至ルヘシ即チ無資力ト云フヘシ（委員長）此點ハ井上報告委員ノ主意ヲ要スヘキモノナレハ尙ホ同人ニ告知シ置クヘシ

民再調三ノ二八

第一千三十五條 債權者カ完全ノ辨濟ヲ受ケサル間ハ前條及ヒ第一千三十條ニ依リ債務者ヨリ豫メ保證人ニ供ス可キ賠償ハ債務者其債權者ニ對スル自己ノ免責ヲ保スル爲メ債權者ノ名ヲ以テ之ヲ供託シ又ハ其他ノ方法ニテ之ヲ留蓄スルコトヲ得

（栗塚）留蓄ハ留保ノ誤ナリ（渡）留保ハ留存トスヘシ可決ス
第一千三十六條 主タル債務ヲ辨濟シタル總テノ保證人ハ第一千三十二條及ヒ第一千三十三條ニ定メタル制限ニ從フニ於テハ己レノ權利ニ基キ有スル訴權ノ外債務者又ハ第三者ニ對シテ債權者ノ有シタル總テノ權利ニ付キ第五百四條第一號ニ從ヒテ代位ス

若シ債權者カ債務者ノ不動産ニ付キ先取特權又ハ抵當權ヲ有シ其記入ヲ爲シタルトキハ保證人ハ代位ヲ目的トシテ自己ノ條件付ノ債權ヲ右記入ノ縁邊ニ附記セシムルコトヲ得又讓渡ノ場合ニ於テハ其不動産ヲ所持スル第三者ハ濫除ノ爲メ債權者ノ外保證人ニ對

シテモ亦提供ヲ爲スコトヲ要ス

債權者カ有益ナル時期ニ於テ右ノ記入ヲ爲サ、リシトキハ保證人ハ第五百三十四條及ヒ第千四十五條ニ從ヒ債權者ニ對シテ自己ノ免責ヲ請求スルコトヲ得

(松岡) 附記セシムルトアルハ附記スルコトトスヘシ可決ス(松岡) 第一項ハ債務ヲ辨濟シタル保證人ハ代位訴權アルヲ示シタルニ第二項ニハ若シ債權者云々ニテハ意義連償セサルナリ(元尾崎) 第二項ハ保證人未タ辨濟セサル場合ナリト云フハ之ヲ推知スルヲ得ヘシト雖モ前項トノ脈絡貫通セサルカ如シ(松岡) 此一條ハ之ヲ兩條ニ分離シテハ如何(委員長) 意味稍明也チ欠クヘキモ別ニ利害ニ關係セサルヘケレハ原案ノ儘ニスヘシ可決ス

第千三十七條 連帶又ハ不可分ナル義務ノ數人ノ債務者アルトキハ

民再調三ノ二九

保證人ハ其中或ル者ヲ保證シ他ノ者ヲ保證セサルトキト雖モ右ノ代位ニ依リ債務者ノ各自ニ對シ全部ニ付キ求償スルコトヲ得

(元尾崎) 債務者中既ニ辨濟シタルモノアルトキ如何(南部) 連帶義務ナルヲ以テ償還セサルヲ得ス(松岡) 前條第二項若シヲ刪ルヘシ可決ス(栗塚) 右記入トアルハ別條ニアラサレハ此記入トスヘシ可決ス

第三款 共同保證人間ノ保證ノ效力

第千三十八條 一箇ノ債務ニ付キ數人ノ保證人アリテ其中ノ一人カ任意ナルト否トテ間ハス債務ノ全部ヲ辨濟シタルトキハ其保證人ハ主タル債務者ニ對スル求償ニ關シ上ニ記載シタル條件、制限及ヒ區別ニ從ヒ或ハ事務管理ノ訴權ニ因リ或ハ債權者ノ訴權ニ因リ他ノ保證人ノ各自ニ對シ均一部分ニ付キ求償スルコトヲ得

右ノ保證人カ債務ノ全部ヲ辨濟セスシテ自己ノ部分ヨリ多ク辨濟

シタルトキハ其超過額ノ爲メノ求償ハ他ノ共同保證人ノ間ニ均一ニ分タル

（栗塚）第二項均一ニ分タルト云ヘルハ均一ニ之ヲ分ツトスヘシ可決ス

第千三十九條 共同保證人中ニ無資力者アルトキハ辨濟シタル者ハ其無資力者ノ引受人ニ對シテ求償權ヲ有ス若シ引受人アラサルトキハ無資力者ノ部分ハ債務ヲ辨濟シタル者ヲ加ヘル他ノ有資力ナル共同保證人ノ間ニ於テ之ヲ分配ス

（南部）之ヲ分配スノ上「於テ」ノ文字ハ贅字ナレハ删除スヘシ可決ス（委員長）之ヲ分配ストアルハ前條ト等シク之ヲ分ツトスヘシ可決ス

第千四十條 前條ニ依リ訴ヲ受ケタル共同保證人ハ未タ主タル債務者ノ財産ノ檢索アラサルトキハ第千二十條以下ニ定メタル規則及

民再調三ノ三〇

ヒ條件ニ從ヒ豫メ主タル債務者ノ財産ノ檢索ヲ請求スルコトヲ得」右同一ノ權利ハ保證人ノ引受人ニモ屬ス

無異議

第千四十一條 連帶又ハ不可分ナル債務ノ爲メ義務ヲ負擔シタル數人ノ保證人中全部履行ニ付キ訴ヲ受ケタル者ハ本訴ニ附帶シテ共同保證人ヲ擔保ノ爲メ召喚シ之ニ對シ同一ノ判決ヲ以テ前數條ニ許サレタル言渡ヲ受シムルコトヲ得

（栗塚）受シムルコトヲ得トアルハ受ケシムルコトヲ得トスヘシ可決ス

第千四十二條 保證人ノ一人ニ對スル時効中斷又ハ付違滯ノ行爲ハ他ノ保證人ニ對シテ其效ナシ但其義務カ連帶ナルトキハ此限ニ在ラス

債權者ト保證人ノ一人トノ間ニ主タル債務ニ關シ爲サレタル判決、

自白、認知及ヒ裁判外ノ宣誓又ハ其拒絕ハ他ノ保證人ヲ利スルコトヲ得然レトモ之ヲ害スルコトヲ得ス

（栗塚）本條第二項ハ例ニ依リ未定ニ附セラレタシ（元尾崎）同一證文ニ連名スルモ之ヲ連帶トスルヲ得サルカ（村田）連帶ハ連帶ト云ヘル明記ナカラサルヘカラス

第千四十三條 保證人ノ一人又ハ數人カ無資力ト爲リタルトキハ相互ニ連帶シ又ハ債務者ト連帶シタル保證人ノ間ニ第千六十八條第千六十九條及ヒ第千七十條ヲ其各條ニ記載シタル區別ニ從ヒ適用ス

（元尾崎）本條ハ債務者ト共同保證人トノ關係ノ如キカ（栗塚）然ラス（笑作）保證人ノ間ニトアルテ保證人ノ一人又ハ數人ノ無資力ト爲リタルトキハ各保證人ノ間ニトシテハ如何（松岡）相互ニ連帶シ又ハ債務者ト連帶シタル保證人カ無資力ト爲リ

民再三ノ三一

タル者アリタルトキハ各保證人ノ間ニ第千六十八條云々トシテハ如何可決ス

第三節 保證ノ消滅

第千四十四條 保證ハ義務消滅ノ通常ノ原因ニ由リ直接ニ消滅ス保證ノ更改、免除、相殺及ヒ混同ハ第五百二十四條、第五百三十三條、第五百四十三條及ヒ第五百六十條ニ於テ之ヲ規定ス

（元尾崎）消滅スト云ヘルハ保證義務消滅スルト云フ義カ（笑作）然リ

第千四十五條 債權者カ故意又ハ懈怠ニテ保證人ノ其代位ニ因リテ取得スルコトヲ得ヘキ擔保ヲ滅シ又ハ危クシタルトキハ保證人ハ債權者ニ對シ自己ノ免責ヲ請求スルコトヲ得

總テ保證人ハ區別ナク又保證人ノ引受人ハ保證人ノ權利ニ基キ右ノ權利ヲ援用スルコトヲ得

無異議

第千四十六條 保證ハ主タル義務消滅ノ總テノ原因ニ由リ間接ニ消滅ス

債權者ト主タル債務者トノ間ニ爲シタル代物辨濟、更改、免除、相殺及ヒ混同ノ保證人ニ對スル效力ハ第四百八十二條、第五百二十三條、第五百二十八條、第五百四十三條及ヒ第五百六十條ニ於テ之ヲ規定ス

(委員長) 條順ニハ相違ナキヤ(栗塚) 條順ハ起案者ノ原案ノ儘ナリ

第四節 法律上及ヒ裁判上ノ保證ニ特別ナル規則

第千四十七條 法律ノ規定又ハ判決ニ從ヒ保證人ヲ立ツルノ責アル者ハ自ラ保證人ヲ立テント約束シタルトキト同一ニシテ第千十五條及第千十六條ニ定メタル如キ條件ヲ具フル保證人ヲ立ツルコト

ヲ要ス

法律上及ヒ裁判上ノ保證人ヲ承認スルノ手續ハ民事訴訟法ニ於テ之ヲ規定ス

(松岡) 法律上及ヒ裁判上ノ保證人ヲ承認スルノ手續ハ訴訟法ニ規定セサルヘカラス

第千四十八條 裁判所ハ法律カ裁判執行ノ爲メ保證人ヲ立テシムルノ權能ヲ付與シタル場合ニ非サレハ之カ爲メ保證人ヲ立ツ可キコトヲ命スルコトヲ得ス

無異議

第千四十九條 裁判上ノ保證人モ其引受人モ財産檢索ノ利益ヲ有スルコトヲ得ス

無異議

第千五十條 法律上及ヒ裁判上ノ保證人ハ其債務者ニ對スル擔保ノ

求償ニ關シテハ常ニ之ヲ債務者ノ代理人ト看做ス

(栗塚)債務者ノ代理人ト看做スト云フハ事務管理者ニ非ラサルヲ示セリ(笑作)前條保證人モトアルハ保證人及ヒトスヘシ可決ス

第二章 債務者間及ヒ債權者間ノ連帶總則

第千五十一條 義務ノ目的單數ナルモ主タル當事者トシテ之ニ關係スル人複數ナルトキハ其義務ハ第四百五十八條ニ指示シ且下ノ二節ニ説明スル如ク受方又ハ働方ニテ連帶タルコト有リ

(松岡)説明ト云フ文字ハ法文ニハ不都合ナラスヤ(栗塚)記載スル如クトスヘシ可決ス

第二節 債務者間ノ連帶

第一款 債務者間ノ連帶ノ性質及ヒ原因

第千五十二條 債務者間ノ連帶即チ受方連帶ハ共同債務者ヲシテ其

共通ノ利益ニ於テモ又債權者ノ利益ニ於テモ相互ニ代人タラシム此連帶ハ合意、遺言又ハ法律ノ規定ヨリ生スルコトヲ得
連帶ハ之ヲ推定セス如何ナル場合ニ於テモ明示ニテ之ヲ定ムルコトヲ要ス但不可分ニ關シ第千八十九條ニ記載シタルモノハ此限ニ在ラス

(村田)第千八十九條ト云ヘルハ最初第千九十一條トアリ(栗塚)起案者更ラニ第千九十條ト改正シ來レリ

第千五十三條 數多ノ債務者ノ連帶義務ハ同一ノ行爲ヲ以テ又同時同所ニ於テ之ヲ契約スルコトヲ要セス但其義務ノ目的及ヒ原因ハ同一ナルコトヲ要ス
又連帶債務者ハ別異及ヒ不均一ノ體様又ハ負擔ヲ以テ責ニ任スルコトヲ得

(元尾崎)別異ト云フハ如何(栗塚)利息附ト利息附ニアラサ

ルトノ別アルヲ云フ（元尾崎）斯ノ如キハ體様ニアラスヤ（栗塚）別異ノ體様ト云フ義ナリ（村田）期限附又ハ無期限ト云ヘルカ如シ

第二款 債務者間ノ連帶ノ效力

第一千五十四條 數人ノ連帶債務者ヲ有スル債權者ハ其訴追セント擇ミタル債務者ニ對シ唯一人ノ債務者ニ於ケル如ク且其債務者ヨリ檢索又ハ分別ノ利益ノ抗辯ヲ受クルコト無ク義務全部ノ履行ヲ要求スルコトヲ得

又債權者ハ皆濟ヲ受クルニ至ルマテ同時又ハ順次ニ總債務者ヲ訴追スルコトヲ得

（松岡）「利益ノ」ト云ヘル三字ハ刪除シテハ如何（南部）前ニモ檢索ノ利益トシタルヲ以テ利益ト云フ字ハ存シ置キタシ可決ス

第一千五十五條 各債務者ハ訴ヲ受ケタルト否トテ問ハス連帶債務全部ノ辨濟ヲ受取ルコトヲ債權者ニ強要スルコトヲ得

無異議

第一千五十六條 連帶債務者ニシテ債務ニ於ケル全部又ハ自己ノ部分ヨリ多額ニ付キ訴ヘラレタル者ハ共同債務者ヲ訴訟ニ召喚スル爲メ必要ナル期間ヲ請求スルコトヲ得

且附帶ノ擔保方法ヲ以テ其債務者ヲシテ答辨又ハ辨濟ヲ分擔セシムル爲メ必要ナル期間ヲ請求スルコトヲ得

共同債務者ハ亦其利益保護ノ爲メ任意ニ自費ヲ以テ訴訟ニ参加スルコトヲ得

（栗塚）本條且附帶云々ト云フテ第二項トシタルハ誤ナリ分擔セシムル爲メト云フハ一分ノ擔任ナリヤ又ハ必ス辨濟スヘキヤト云フニ付キ起案者ニ質問中ナリ（清岡）召喚シ且附帶ノト接

屬セシムヘシ（元尾崎）召喚セシムル爲メトシテハ如何（松岡）
 召喚セシムル爲メニアラス答辨若クハ辨濟ヲ分擔セシムル爲メ
 ト云フニアリ結局召喚シ附帶ノ擔保云々ト接屬セシムルニ決ス
 （元尾崎）末項「亦」ヲ除去スヘシ（村田）除去スルニ及ハス
 第一千五十七條 連帶債務ノ履行ノ爲メ訴ヲ受ケタル各債務者ハ自己
 ノ權利ニ基クト共同債務者ノ權利ニ基クトテ間ハス義務ノ組成又
 ハ消滅ヨリ生スル答辨方法ヲ以テ債務ノ全部ニ付キ債權者ニ對抗
 スルコトヲ得

右ノ外更改、免除、相殺及ヒ混同ニ關シテハ第五百二十三條、第
 五百二十八條、第五百三十一條、第五百四十三條及ヒ第五百五十
 七條ノ規定ニ從フ

（村田）權利ニ基キト云ヘルハ英文ニテハ利益ニ基キト云フ意
 味トス（栗塚）身柄ト云フ義ニシテ從前權利ト爲シ來レリ

第一千五十八條 債務者ノ一人ノ無能力又ハ承諾ノ瑕疵ニ基キタル答
 辨方法ハ其人自身ニ非サレハ之ヲ申立ツルコトヲ得ス然レトモ右
 ノ答辨方法カ一旦許容アリタル上ハ債務ニ於ケル其物ノ部分ニ付
 キ他ノ債務者ヲ利ス但他ノ債務者カ契約ノ際義務履行ニ付キ其者
 ノ分擔ヲ豫期スルコトアリタルトキニ限ル

（村田）右ノトアルヲ前例ニ從ヒ「此」トスヘシ可決ス（栗塚）
 一豫期スルコトアリテ豫期スルコト有リトスヘシ

第一千五十九條 前二條ニ規定シタル種々ノ事項ニ付キ債權者ト債務
 者ノ一人トノ間ニ爲サレタル判決、自白及ヒ裁判外ノ宣誓又ハ其
 拒絕ハ他ノ債務者ノ利害ニ於テ前二條ニ等シキ限度及ヒ區別ヲ以
 テ其效力ヲ生ス

（栗塚）宣誓ハ例ニ依リ未定ニ附セラルヘシ可決ス

第一千六十條 一人ノ債務者ノ他ノ債務者ニ於ケル連帶ノ成立ノミニ

關シテ其一人ト債權者ノ間ニ爲サレタル判決、自白及ヒ裁判外ノ
宣誓又ハ^其拒絕ハ他ノ債務者ヲ害セス又之ヲ利セス

(南部) 其一人ト債權者トノ間ニ爲サレタルトアルチ其一人ト
債權者トノ間ニ爲シタルトスヘシ(松岡) 其一人ト債權者トノ
間ニト云ヘハ冒頭一人ノ債務者ノ他ノ債務者ニ於ケルトアル文
字ハ徒冗ニアラスヤ(南部) 然ラス(箕作) 一人ノ債務者ト他
ノ債務者トノ間ニ於ケルトシタシ可決ス

第六十一條 連帶債務者ノ一人ニ對シ債權者ノ利益ニ於テ時效ヲ
中斷シ又ハ付遲滯ヲ成ス原因ハ他ノ債務者ニ對シテ同一ノ效力ヲ
有ス

債務者ノ一人ニ對シ債權者ノ利益ニ於テ存スル時效停止ノ原因ハ
他ノ債務者ノ利益ニ於テ其部分ノ爲メ時效ノ經過ヲ妨ケス
(箕作) 第二項利益ニ於テトアルニ由リ經過ヲ妨ケストアルチ

民再調三ノ三六

經過スルチ妨ケストスヘシ(村田) 經過ノ文字ハ第三百十一條
ニ於テ進行ノ文字ヲ使用シタル例ニ從ヒタシ可決ス(委員長)
時效停止ト云フハ如何ナル場合カ(村田) 幼年者若クハ婚姻等
ノ場合ヲ云フ

第六十二條 若シ連帶債務者ノ一人カ數名ノ相續人ヲ遺シテ死亡
シタルトキハ他ノ債務者ノ一人ニ關スル訴追ノ行爲、判決、自白
及ヒ宣誓又ハ其拒絕ハ其各相續人ニ對シ債務ノ全部ニ於ケル其相
續部分ノ割合ニ非サレハ效力ヲ生セス

各相續人ハ亦其相續部分ノ割合ニ非サレハ訴追セラレヌ又前記ノ
行爲ノ效力ヲ受ケス此場合ニ於テ前記ノ行爲ハ亦從來ノ債務者ノ
各自ニ對シ同一ノ限度ヲ以テ其效力ヲ生ス
債權者ト右相續人ノ一人トノ間ニ爲サレタル右同一ノ所爲ハ他ノ
相續人ニ對シテ效力ナシ

(村田) 第一項冒頭ノ「若」ハ元字ナレハ删除スヘシ可決ス(元尾崎) 數人ノ相續人アラサルニ數人ノ相續人トスルハ不可ナリ英國ノ如キハ法律上相續人ハ一人ニシテ他ハ遺言ニ依レリ(尾崎) 從來數人ノ相續人ト云フモノナシ此民法ニ於テ初テ制定セントスルニアリ(元尾崎) 相續人ニ關スルコトハ人事篇ニ於テ規定スヘキ筈ナルニ未タ人事篇ヲ議セサルニ先ンシ數人ノ相續人アリトスルハ甚タ不可ナリ(松岡) 本條ノ數名ノ相續人ト云ヘルハ人事篇ニ於テ數名ノ相續人ヲ認ムルトキハ恰當レ若シ人事篇ニ於テ數名ノ相續ヲ認メサルトキハ之ヲ通用セサルニ止マルヘシ(渡) 本條ノ數名ノ相續人ト云ヘル文字ハ最初人事篇ニ議リ置ク筈ニアラスヤ故ニ人事篇ニ於テ數名ノ相續人ト云フヲ認メサルトキハ本條ノ數名ノ相續人トアル文字ヲ删除セサルヘカラス(松岡) 人事篇ノ議定ハ未タ知ルヘカラサルニ擔保篇

ノ如キハ先ツ頒布ヲ要スヘキモノナレハ日後此文字ヲ删除スルニ不都合ナルヘシ(北島) 本條ノ數名ノ相續人ト云フ文字ハ删除シテハ如何(松岡) 數名ノ承繼人トシテハ如何(委員長) 此種ノ議論ハ屢起ルモノト雖モ最早民法ヲ制定セサル以上ハ此事實ハ認メ置クコトトセサルヘカラス從前ハ數名ノ相續人ト云フ可キ名義ナキモ其事實ナキニアラサルナリ(元尾崎) 從前ハ受遺者ナキニアラサルモ數名ノ相續人ト云フモノナシ(委員長) 從來ハ失踪者アリテ正統ノ相續人ナキトキハ親戚之ヲ分取スルカ又ハ親戚ナキトキハ町村ノ管理ニ歸スヘシ相續ト云フ名稱ハ平穩ナリトセサレハ別ニ稱謂ヲ求ムヘシ兎モ角モ數名ノ相續人ト云フモ如キモノアルヲ認メサルヘカラス(尾崎) 本條ハ先ツ此儘ニ經過シ其得失ハ人事篇ノ議ヲ待テ之ヲ決スヘシ(委員長) 此ニ數名ノ相續人ト云フ文字アルモ之ヲ口實トシテ人事篇

ヲ議スルモノニアラサルナリ（榎村）從來ノ經驗上裁判所構成
 法ヲ引キ推シ通サレタル例アレハ確カニ留保セサレハ此儘ニ
 經過スルヲ得ス（元尾崎）人事篇ヲ議スルトキ此點ニ於ケル決
 議ノ精神ヲ以テ推シ通サ、ルヲ期スヘカラス（清岡）本邦ニハ
 從來ノ習慣上相續人ノ定リアルニ此ニ數名ノ相續人ト云ヘル文
 字アルトキハ人心ヲシテ疑惑ノ巷ニ彷徨セシムヘシ（栗塚）人
 事篇ト關係ヲ有スルト云フニテ該篇ヲ議スル際ニ議ルヘシ（委
 員長）人事篇ノ議決ニ關係アルニ付キ急ニ之ヲ議決セント云フ
 ニアリトスレハ早ク人事篇ヲ議セサルヲ得ス（南部）此點ハ此
 儘ニ經過シ他日人事篇ニ於テ數名ノ相續ヲ認メスシテ自然本條
 ニ撞着ヲ生スルトキハ其際ニ當テ之ヲ刪除スルノ外ナカルヘシ
 （委員長）本條ハ相續ノ規定ヲ立ツルモノニアラス其處分法ニ
 止マルモノナレハ至重ノ關係ヲ有スルニモアラス（栗塚）相續

ト云フ上ニ財産ト云ヘル文字ヲ冠シテハ如何（松岡）財産相續
 トスルモ別ニ紛論ヲ避クルコトヲ得ス（榎村）最早數刻ヲ移シ
 タレハ可否ヲ決セラレタシ（村田）既ニ第七百三十一條ニ於テ
 數名ノ相續ト云ヘル事實ヲ認メ可決シタレハ更ラニ可否決ヲ舉
 グルノ必要ヲ見サルナリ（松岡）相續人ヲ數名トスルカ一名ト
 スルカト云フニ付キ未タ可決セス（尾崎）何レ人事篇ヲ議スル
 ニ當テ其得失ヲ決シ其場合ニ於テ本條ト牴觸ヲ生スルトキハ數
 名ノ相續人ト云ヘル文字ヲ刪ルモ可ナリ（渡）本條ノ若シノ文
 字ハ最初萬一此等ノ事實アルトキハト云ヘル意味ヲ以テ之ヲ存
 シ置キタル覺ヘアレハ之ヲ存在スヘシ（村田）若シト云フ文字
 アルハ本條ニ限ラス（渡）若シハ存スヘシ

第一千六十三條 義務ノ目的物ノ滅失其他總テ義務履行ノ不能力連帶
 債務者ノ一人ノ過失ニ因リ又ハ其付遲滯ニ生スルトキハ他ノ債務

者ハ債權者ニ對シ連帶シテ損害賠償又ハ過怠約款ノ責ニ任ス但過失アリ又ハ遲滯ニ在リシ債務者ニ對スル他ノ債務者ノ求償權ヲ妨ケス

債務者ノ一人カ死亡シタルトキハ他ノ債務者及ヒ死者ノ相續人トノ相互ノ責任ハ前條ノ規定ニ從フ

（栗塚）第二項「相續人トノ」ハ「相續人ノ」トスヘシ（松岡）
第一項其付遲滯後ニ生スルトキハト云ヘルト其付遲滯後ニ生スルコトアルモト云フ意味ニシテ一人ノ文字ヲ受クルモノナレハ生スルトキハト云フハ不可ナリ（南部）原案ノ儘ニテ妨ケナシ

第千六十四條 連帶債務者中ニテ債務ヲ辨濟シ其他自己ノ出捐ヲ以テ共同ノ免責ヲ得セシメタル者ハ他ノ債務者ニ對シ辨濟又ハ免責ノ限度ニ於テ其各自ノ負擔部分ニ付キ自己ノ權利ニ基キ求償權ヲ有ス

民再調三ノ三九

右ノ求償中ニハ會社及ヒ代理ノ規則ニ從ヒ辨償金及ヒ必要ナル出捐ノ賠償ノ外辨償以後ノ法律上ノ利息及ヒ避タルコトヲ得サリシ費用ヲ包含ス

（元尾崎）會社及ヒ代理ノ規則ニ從ヒト云フハ如何（栗塚）社員五相ノ權ト云フニアリ（尾崎）社員中當前出資スヘキ外立替金其他ノ出資ヲ爲シタルトキハ其賠償ヲ得ヘシ

第千六十五條 債務ヲ辨濟シタル債務者ハ債權者ノ實際受取リタルモノ、限度ニ於テノミ第五百四條第一號ニ從ヒ法律上ノ代位ニ因リ其債權者ノ權利及ヒ訴權ヲ行フコトヲ得

然レトモ其債務者ハ前條ニ記載シタル如ク其共同債務者ノ各自ノ間ニ於テ自己ノ訴ヲ分ツコトヲ要ス

無異議

第千六十六條 不注意ニテ辨濟シタル保證人ニ對シ第千三十二條及

ヒ第千三十三條ニ規定シタル求償ノ失權ハ訴追又ハ辨濟ヲ共同債務者ニ告知スルコトヲ怠リタル連帶債務者ニ對シ之ヲ適用ス

無異議

第千六十七條 共同債務者ノ一人カ上ニ指示シタル方法ノ一ニ因リ求償ノ行ハレタル當時ニ於テ無資力ナルトキハ無資力者ノ部分ハ辨濟シタル者ヲモ加ヘテ他ノ資力アル者ノ間ニ割合ニ應シテ之ヲ分配ス但要求者ノ責ニ歸スヘキ懈怠アリシトキハ此限ニ在ラス
(笑作) 求償ノ行ハレタルト云ヘルハ求償ヲ爲シタルトシテハ如何(栗塚) 求償ヲ爲シタルトスルヲ得ス求償アリタルトキハトシテハ如何(元尾崎) 求償ノ行ハレタルト云フハ如何(栗塚) 共同債務者ノ一人他ノ債權者ヨリ求償セラレタル場合ヲ云フ(南部) 求償ノ行ハレタルト云フヲ可トス可決ス

第千六十八條 何等ノ辨濟モ有ラサル前ニ連帶債務者ノ一人ノ無資

民再調三ノ三六

民再調三ノ四〇

力ト爲リタルトキハ債權者ハ其債權ノ全額ニ付キ清算ニ加入スルコトヲ得

此場合ニ於テ辨濟ノ殘額ハ他ノ債務者之ヲ負擔ス但其債務者ノ自己ノ部分外ニ負擔シタルモノニ對スル求償ハ其清算ニ加ハリタル他ノ債權者ヲ害スルコトヲ得ス

無異議

第千六十九條 債務者ノ一人ノ無資力ト爲リタル前ニ一分ノ辨濟アリタルトキハ債權者ハ辨濟殘額ノ爲メニ非サレハ其清算ニ加ハルコトヲ得ス又一分ノ辨濟ヲ爲シタル他ノ債務者ハ第千六十四條ニ從ヒ自己ノ受取ル可キモノヲ辨償セシムル爲メ清算ニ加ハルコトヲ得

無異議

第千七十條 何等ノ辨濟モ有ラサル前ニ總テノ連帶債務者又ハ其中

ノ數人ノ無資力ト爲リタル場合ニ於テ債權者ハ其債權ノ全額ニ付キ各清算ニ加ハルコトヲ得

然レトモ債權者カ清算ノ一ニ於テ配當金ヲ受ケタルトキハ他ノ清算ニ於テ其債權ノ全額ニ從ヒ債權者ニ充テタル新配當金ハ以前ノ配當ニ於テ未タ受取ラサルモノ、割合ニ應スルニ非サレハ之ヲ債權者ニ拂渡スコトヲ得ス

右拂渡ノ殘額ハ各清算ニ返償ス但各清算ノ辨濟シタルモノ、割合ニ從フ

無異議

第三款 債務者間ノ連帶ノ終了

第一千七十一條 債權者カ總債務者ニ對シテ連帶ヲ拋棄スルトキハ第四百五十八條第一項ニ規定シタル如ク其債務者ノ義務ハ單ニ連合ノモノトナリテ存シ其他ノ性質ヲ變スルコト無シ

(渡)連帶ヲ拋棄スルト云フコトハ如何(南部)債權者カ債務者ニ對シ連帶ヲ宥恕スルヲ云フニアリ

第一千七十二條 第五百三十二條ニ從ヒ明示又ハ默示ニテ債務者ノ一人又ハ數人ニ對シテノミ連帶ノ拋棄アリタルトキハ他ノ債務者ハ連帶ノ免除ヲ得タル者ノ部分ニ於テノミ其義務ヲ免カル

若シ連帶ノ免除ヲ得サル債務者中ニ無資力者アルトキハ債權者ハ其無資力ニ付キ連帶ノ免除ヲ得タル者ノ部分ヲ負擔ス

(松岡)第二項「若シ」ヲ存シタルハ如何(栗塚)間違ナリ

第一千七十三條 債權者カ連帶債務者ノ一人ヨリ供シタル擔保ニシテ他ノ債務者ノ辨濟シテ代位スルコトヲ得ヘキモノ、全部又ハ一分ヲ毀損シ又ハ滅失セシメタルトキハ他ノ債務者ハ其擔保ヲ供シタル者ノ部分ニ付キ連帶ノ義務ヲ免レント請求スルコトヲ得

右ノ請求ニ因リ宣告シタル免責ハ連帶ノ任意免除ト同一ノ效力ヲ

有ス

(栗塚) 免責ハ免除トス可シ可決ス(元尾崎) 本條ハ如何ナル
意義カ(南部) 債權者自カラ擔保物ヲ毀損シタルニ付毀損ノ部
分ニ於ケル損害ハ自己ニテ負擔セサルヘカラスト云フニ在リ

第四款 全部義務

第一千七十四條 第三百九十八條、第五百十九條第二項及ヒ其他法律
カ數人ノ債務者ノ義務ヲ其各自ニ對シ全部ノモノト定メタル場合
ニ於テハ相互ニ代理ニ付シタル連帶ノ效力ヲ適用スルコトヲ得ス
但其總債務者又ハ其中ノ一人カ債務ノ全部ヲ辨済スルノ旨渡ヲ受
ケタルトキモ亦同シ
然レトモ一人ノ債務者ノ爲シタル辨済ハ債權者ニ對シ他ノ債務者
ヲ免レシム又辨済シタル者ハ事務管理ノ訴權ニ依リ又ハ債權者ノ
代位訴權ニ依リ他ノ債務者ニ對シ其部分ニ付キ求債權ヲ有ス

(栗塚) 本條ハ連帶ト同義ナルカ如クナリト雖モ連帶中互相ニ
代理スルヲ得サルナリ(元尾崎) 求債權ヲ有セサルカ(松岡)
求債權ナキニアラス事務管理ノ性質ニ屬スヘシ(栗塚) 起案者
モ不十分ナル連帶ナリト云ヘリ最初ヨリ代理者ノ資格ヲ有スル
モノナシ故ニ時効ヲモ中斷スルヲ得ス又利息ヲモ附スルコトヲ
得ス(松岡) 連帶ト云フハ明示ニアラサルヘカラスト云フニア
ルヨリ其明示ナキトキハ全部義務ヲ負擔スヘシト云フニ作爲シ
タルモノナルヘシト雖モ此結果ヲ事務管理ト視認スルハ不可ナ
リ事務管理ト云フハ任意ノモノナルニ全部義務ハ必竟強制上ノ
負擔ト云フカ如キニ外ナラサレハナリ(栗塚) 單ニ全部ノ義務
ヲ辨済シタルモ連帶ノ明約アラサルニ連帶ト同效果ヲ生セシメ
テ可ナリヤ(松岡) 此種ノ如キハ連帶ト云ヘル性質ヲ生セス(栗塚)
起案者之ヲ事務管理ト視タルハ債務者互相間ニ於テセス

權利者カ求償スヘキ義務者其人ニ向テ之ヲ事務管理者ト看タルモノト云フヘシ(尾崎)訴訟ヲ受ケタル義務者ノ一人ハ此加害ハ自己一人ノ所爲ニアラサル旨主張シ他ノ共ニ加害シタルモノヲ参加セシムルヲ得サルハ如何(松岡)其参加ヲ許シタルトキハ連帶トナルヘケレハナリ尾崎参加ヲ許サ、ルトキハ訴訟ヲ受ケタル義務者ノ一人ハ頼々迷惑ナル地位ニ陷レルモノト云フヘシ求償權アリト雖モ其效ヲ見ス(元尾崎)連帶ハ合意ニアラサレハ成立セスト云フ元則アルヲ以テ此種ノ如キハ連帶トスルヲ得サルニ至レリ(栗塚)連帶ニモ法律上ノ連帶ト云フモノアルヲ以テ必ス合意アリト云フヲ要セス(元尾崎)訴訟ヲ受ケタル義務者ノ一人ハ他ノ義務者ヲ参加セシメントスルモ得ヘカラス要償スルモ他ノ義務者之ニ願セサルトキハ訴訟ヲ受ケタル義務者ハ危險極マルト云フヘシ(栗塚)第五百十九條ノ註解ヲ閱讀

民再調三ノ四三

アリタシ註解ヲ閱スレハ純然タル連帶ハ不十分ナル連帶トノ差異アルヲ覺知スヘシ(松岡)本條ハ第三百九十八條ト云ヘル文字ヲ刪除スルニ止ムヘシ該條ハ全ク連帶ノ性質ヲ具スルモノナレハナリ(尾崎)起案者ニ質問ノ上ニテ決シタシ其議ニ決ス

第二節 債權者間ノ連帶

第一款 債權者間ノ連帶ノ性質及ヒ原因

第一千七十五條 債權者間ノ連帶即チ働方連帶ハ權利ノ保存及ヒ行使ニ付キ其債權者ヲシテ互ニ代人タラシム

此連帶ハ合意又ハ遺言ヨリ生スルコトヲ得

(村田)法律ノ規定ト云フヲ刪除シタルハ如何(栗塚)法律ノ規定ノ場合何レニアリヤト云フヲ起案者ニ質問シタルニ之ヲ除去シ示セリ

第一千七十六條 數人ノ連帶債權者ニ對スル債務者ノ約務ハ同一ノ行

爲テ以テ又同時同所ニ於テ之ヲ契約スルコトヲ要セス但其義務ノ
目的及ヒ原因ハ同一ナルコトヲ要ス
又債務者ハ數人ノ債權者ニ對シ別異及ヒ不均一ノ體様又ハ負擔ヲ
以テ責ニ任スルコトヲ得

無異議

第二款 債權者間ノ連帶ノ效力

第七十七條 各連帶債權者ハ唯一人ノ債權者ナルカ如ク義務全部
ノ履行ヲ債務者ニ要求スルコトヲ得

債權者ノ一人カ訴ヲ起シタルトキハ他ノ各債權者ハ共通ノ利益及
ヒ自己ノ利益ノ保護ノ爲メ訴訟ニ參加スルコトヲ得

(村田) 第二項保護ノ爲メトアル下ニ自費ヲ以テト云ヘル文字
ヲ入レタシ第七十六條ニモ自費ノ文字アレハナリ(栗塚) 自
己ノ利益ヲ保護スルハ自己ノ利益ヲ以テスルコト言テ待タサル

ヘシ

第七十八條 債務者ハ債權者ノ一人ヨリ訴追又ハ合式ノ要求ヲ受
ケサル間ハ債務ノ全額ノ辨濟ヲ受取ルコトヲ債權者ノ各自ニ強要
スルコトヲ得此ニ反スル場合ニ於テハ要求者ニ對スルニ非サレハ
辨濟ヲ爲スコトヲ得ス

若シ同時ニ數人ノ要求者アルトキハ債務者ハ總要求者ニ對スルニ
非サレハ辨濟ヲ爲スコトヲ得ス

無異議

第七十九條 義務組成ノ瑕疵ニ基キタル抗辯ニ付キ有リタル判決
ハ債務ノ全部ニ對シ總債權者ノ利害ニ於テ其效力ヲ生ス但訴訟ニ
其名ヲ出ササリシ者ニ對シテモ亦同シ

無異議

第八十條 義務消滅ノ原因ニ基キタル抗辯ニ付キ有リタル判決ハ

左ノ區別ニ從フニ非サレハ訴訟ニ與カラサリシ債權者ニ對シテ其效ナシ

第一 第一千七十八條ニ定メタル條件ニ從ヒ債權者ノ一人ニ爲シタル辨濟ハ全部ニ付キ總債權者ニ之ヲ以テ對抗スルコトヲ得又第五百四十三條第三項ニ記載シタル如ク債權者ノ一人ニ對シ債務者ノ取得シタル相殺ニ付テモ亦同シ但相殺ノ原因カ第一千七十八條ニ從ヒ債務者ヨリ其債權者ニ有效ニ辨濟スルコトヲ得ヘキ時期ニ於テ生シタルトキニ限ル

第二 債權者ノ一人ノ行爲ヨリ生スル更改、免除及ヒ混同ハ第五百二十三條第三項第五百三十七條第一項及ヒ第五百五十七條第二項ニ從ヒ其債權者ノ部分ニ非サレハ債務ヲ消滅セシメス但右ノ行爲ハ他ノ債權者ノ訴追又ハ要求ノ前ニ在リシコトヲ要ス又右同一ノ行爲ニ關シ及ヒ辨濟又ハ相殺ニ關スル裁判外ノ宣誓

又ハ其拒絕及ヒ和解ニ付テモ亦同シ

無異議

第一千八十一條 債權者中ノ一人ノ一身ニ限ル債務者ノ抗辯ニ付キ有リタル判決ハ他ノ債權者ヲ害セス又之ヲ利セス又債權者ノ一人カ其連帶ニ於ケルノ權利ニ付債務者ト爲シタル宣誓又ハ其拒絕及ヒ和解ニ付テモ亦同シ

(粟塚)本條第四項「付」ノ下「キ」ノ字ヲ附スヘシ

第一千八十二條 債權者ノ一人カ債務者ニ對シテ時效ヲ中斷シ又ハ其債務者ヲ遲滯ニ付スルノ行爲ハ全部ニ付他ノ債權者ヲ利ス債權者ノ一人ノ利益ニ於テ法律ノ設定シタル時效ノ停止ハ債權ニ於ケル其部分ニ限り其一人ノミチ利ス

無異議

第一千八十三條 連帶債權者ノ一人カ數人ノ相續人ヲ遺シテ死亡シタ

ルトキハ債權ノ分別及ヒ前ニ指示シタル行爲ノ效力分別ハ第一千六十二條ニ記載シタル如ク受方連帶ニ於ケルト同一ノ方法ヲ以テ働方ニテ成ル

(南部)本條モ第一千六十二條ノ如ク冒頭ニ若シト云フ字ヲ附シ置クヲ可トス(栗塚)歴史アリト云フニテ若ノ文字ヲ附スヘシ可決ス(村田)效力分別ハトアルハ效力ハトスヘシ(栗塚)分別ト云フ字ハ誤入ナリ

第一千二十四條 義務ノ全部又ハ一分ノ履行ヲ得タル連帶債權者ハ他ノ債權者ノ特別ノ關係及ヒ其相互ノ部分ニ從ヒ之ニ其利益ヲ分ツコトヲ要ス

無異議

第三款 債權者間ノ連帶ノ終了

第一千八十五條 債權者間ノ連帶ハ拋棄ニ因テ止ム其拋棄ハ明示ニア

ラサレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

無異議

第一千八十六條 連帶ノ拋棄ハ債權者ノ一人若クハ數人又ハ其總員ヨリ之ヲ爲スコトヲ得

總債權者ノ働方連帶ノ拋棄ハ第一千七十一條ニ規定シタル如ク受方連帶ノ拋棄カ共同債務者ニ對シテ生セシムルト同一ノ效力ヲ其債權者間ニ生セシム
若シ債權者ノ一人又ハ數人ノミカ拋棄ヲ爲シタルトキハ他ノ債權者ハ右拋棄ヲ爲シタル者ノ部分ニ付テノミ訴ヲ爲シ又ハ辨濟ヲ受クルノ權利ヲ失フ

無異議

第一千八十七條 連帶ノ拋棄ハ債務者ノ承諾ナクシテ有效ナリ
然レトモ其拋棄ハ之ヲ債務者ニ告知セシカ又ハ債務者明確ニ之ヲ

知りタルトキニ非サレハ前ノ規定ヲ以テ債務者ニ許シタル辨濟其
他ノ行爲ニ對シテ債權者ヨリ之ヲ申立ルコトヲ得ス
債務者ハ拋棄ヲ申立ツルノ利益アルトキハ之ヲ申立ルコトヲ得又
拋棄カ其權利ノ詐害ニ於テ爲サレタルトキハ之ヲ駁棄スルコトヲ
得

(松岡)駁棄ノ文字ハ攻撃トシテハ如何(栗塚)原字ノ同シカ
ラサルカ爲ノナリ(松岡)前ノ規定ト云フハ如何(南部)前記
ノ規定トスヘシ(村田)前記トスレハ前數條ト認ムルヲ得ヘシ

第三章 任意ノ不可分

第千八十八條 債務ハ第四百六十二條及ヒ第四百六十三條ニ規定シ
タル不可分ノ外尙ホ數人ノ債務者ノ負擔又ハ數人ノ債權者ノ利益
ニ於テ不可分タルコトヲ得但第四百六十四條ニ指示シタル如ク債
務履行ノ擔保トシテ受方又ハ働方ノ連帶ニ併合シ又ハ併合セサル

コトアリ

此不可分ハ合意又ハ遺言ヲ以テ之ヲ設定スルコトヲ得之ヲ任意ノ
不可分ト云フ

任意ノ不可分ハ明示タルコトヲ要ス

(元尾崎)連帶ニ併合シ又ハ併合セサルコト有リト云フハ如何
(栗塚)不可分ト連帶ト合併スルコトアリ又併合セサルコトア
リト云フ義ナリ

第千八十九條 債務者ノ負擔又ハ債權者ノ利益ニ於テ任意ノ不可分
ヲ設定シタルトキハ之ト同一ナル性質ノ連帶ヲ暗ニ設定シタルモ
ノト看做ス但反對ノ約定アルトキハ此限ニ在ラス

(村田)約定ハ合意トシテハ如何(松岡)約定ハ最初ヨリ約定
ト爲シ來レリ(栗塚)原字ハ約款ノ意味ナリ(村田)合意トス
ヘシ可決ス

第千九十條 債務者ノ負擔ニ於テ設定シタル不可分ハ同時ニ働方タル可キコトノ明示アルニ非サレハ債權者ノ利益ニ於テ存立セス
又債權者ノ利益ニ於テ設定シタル不可分ハ同時ニ受方タル可キコトノ明示アルニ非サレハ債務者ノ負擔ニ於テ存立セス

無異議

第千九十一條受方ナルト働方ナルトヲ問ハス任意ノ不可分ヲ設定シタルトキハ受方又ハ働方ノ連帶ヲ明示ニテ阻却セサル場合ニ限り債務者又ハ債權者ノ間ニ此連帶ノ效力ヲ生セシム
其他債務者又ハ債權者ノ一人カ數人ノ相續人ヲ遺シテ死亡シタルトキハ債務者ノ各相續人ハ全部履行ノ要求ヲ受ケ又債權者ノ各相續人ハ全部履行ノ要求ヲ爲スコトヲ得但其各自ノ間ニ於テ連帶ナシ

無異議

民再調三ノ四八

第千九十二條 債務者ノ一人又ハ債權者ノ相續人ノ一人ニ對シテ時効ヲ中斷スル原因ハ總債務ニ付他ノ債務者又ハ相續人ニ對シテ中斷ヲ生ス

又債權者ノ一人又ハ債權者ノ相續人ノ一人ノ權利ヨリ生スル時効ノ中斷又ハ其停止ノ原因ハ他ノ債權者又ハ相續人ヲ利ス

（元尾崎）數名ノ相續人アル組立トシタルカ（栗塚）然リ不可分ハ大抵數名ノ相續人アル場合ニ存スルモノナリ

第千九十三條 相續人ノ一人ノ付過滯及ヒ過愆ハ他ノ相續人ヲ害セス

相續人ノ一人ニ不利ナル既判力、自白及ヒ裁判外ノ宣誓ニ付テモ亦同シ

（村田）過愆ト云フ文字ハ過失トスヘシ可決ス

第千九十四條 債權カ受方又ハ働方ニテ同時ニ連帶及ヒ不可分ナル

トキハ第五百三十二條及ヒ第千八十五條ニ記載シタル區別ニ從ヒ
明示ナルト默示ナルトヲ間ハス連帶ノ拋棄ハ亦任意不可分ノ拋棄
ヲ惹起ス

右二個ノ擔保ノ共ニ存スル場合ニ於テ不可分ノ拋棄ハ連帶ヲ存立
セシム

無異議

第千九十五條 第四百六十五條乃至第四百七十條、第五百二十三條
第四項第五百二十八條第三項第五百三十一條第一項第五百三十五
條第五百三十七條第二項第五百四十三條第四項第五百五十八條及
ヒ第五百五十九條第二項ノ規定ハ任意ノ不可分ニ適用スルコトヲ
得可キトキハ之ヲ適用ス
債權者カ不可分ニテ義務ヲ負フタル債務者ノ代位ニ得ルコト有ル
可キ擔保ヲ滅失セシメ又ハ減少セシメタルトキハ其債務者ハ債權

者ニ對シ第千七十三條ノ免責ヲ申立ルコトヲ得

無異議

第二部 物上擔保

第一章 留置權

第千九十六條 留置權ハ本法財産編及ヒ取得編ニ於テ特別ニ之ヲ規
定シタル場合ノ外債權者カ既ニ正當ノ原因ニ由リ其債務者ノ動産
又ハ不動産ヲ占有シ及ヒ其債權カ其物ノ讓渡ニ因リ或ハ其物ノ保
存ノ費用ニ因リ或ハ其物ヨリ生シタル損害賠償ニ因リ其物ニ關シ
且其占有ニ連繫シテ生シタルトキハ其占有シタルモノニ付キ債權
者ニ屬ス

委任ナクシテ他人ノ事務ヲ管理シタル者ハ必要ノ費用及ヒ保存ノ
費用ノ爲メニ非サレハ其管理シタル物ニ付キ留置權ヲ享有セス

(松岡) 第一項ハ要スルニ留置權ハ債權者ニ屬スト云フ意義ナ

ルニ仲間區々ハ股落アルモノナリ（村田）第二項享有セストアルヲ有セストスヘシ可決ス

第一千九十七條 債權者カ留置スルノ權ヲ有シタル物ノ一分ノミチ留置シタルトキ其部分ハ總債務ヲ擔保スルニ足ルニ於テハ之ヲ擔保ス

此ニ反シテ債權者又ハ其相續人ハ債務者又ハ其相續人ヨリ一分ノ辨濟ヲ受取タリト雖トモ全部ノ辨濟ヲ受取ルニ至ルマテ留置權ニ服シタル總テノ物ヲ留置スルコトヲ得

無異議

第一千九十八條 留置權ハ留置物ノ價額ニ付キ債權者ニ先取特權ヲ與ヘス

然レトモ留置物ヨリ天然又ハ法定ノ果實又ハ產出物ノ生スルトキハ留置權者ハ他ノ債權者ニ先チテ之ヲ收取スルコトヲ得但其果實

民再調三ノ五〇

又ハ產出物ハ其債權ノ利息ニ充當シ猶ホ餘分アルトキハ元本ニ充當スルコトヲ要ス

留置權者ハ其收取スルコトヲ怠リタル果實及ヒ產出物ニ付キ其實ニ任ス

（村田）第一項債權者ハト云ヘルハ即チ留置權者ナルニ付キ後ニ留置權者トアル如ク此點モ之ヲ留置權者トシテハ如何（果實）第一項ノ場合ハ未タ留置權者ト云フ名稱ヲ附スルコトヲ得サルナリ

第一千九十九條 留置權ハ債權者カ留置物ヲ讓渡シ又他ノ債權者カ之ヲ差押へ及ヒ賣却セシムルノ妨ト爲ラス

然レトモ孰レノ場合ニ於テモ取得者ハ留置權者ニ全ク辨濟セスシテ其物ヲ占有スルコトヲ得ス

無異議

第一千百條 右ノ外動産又ハ不動産ノ留置權者ハ次ノ二章ニ規定シタル如ク動産又ハ不動産ノ質取主ト同一ノ責任ニ從フ
其他動産質及ヒ不動産質ニ關スル規定ハ此章ノ規定ニ觸レサル限リハ諸項ニ付キ留置權ニ之ヲ適用ス特ニ債權者カ有意ニテ留置權ヲ行フコトヲ怠リ又ハ實際之ヲ行フコトヲ止メタルトキハ其留置權ヲ失フ

（栗塚）第一項質取主ト云ヘルハ質取債權者トシ第二項諸項ニ付キト云ヘル文字ハ誤寫ニ付刪除スヘシ可決ス

第二章 動産質

第一節 動産質契約ノ性質及ヒ組成

第一千百一條 動産質ハ債務者カ一個又ハ數個ノ動産ヲ特ニ其義務ノ擔保ニ充ツル契約ナリ

無異議

第一千百二條 動産質契約ハ債務者ノ委任ヲ受ケ又ハ好意ニテ債務者ノ爲メ擔保ヲ供スル第三者ト債權者トノ間ニモ亦之ヲ爲スコトヲ得

孰レノ場合ニ於テモ動産質ヲ供シタル第三者ハ第一千三十條及ヒ第一千三十一條ニ從ヒ保證人ノ如ク債務者ニ對シテ求償權ヲ有ス

無異議

第一千百三條 削除

第一千百四條 動産質ハ其物ヲ處分スルノ能力ヲ有スル者ニ非サレハ

有效ニ之ヲ供スルコトヲ得ス

合意上、法律上及ヒ裁判上ノ代理人及ヒ管理者ニ付テモ亦同シ是等ノ者ハ其權限ヲ除エサルコトヲ要ス

若シ債務ニ關係ナキ第三者ヨリ動産質ヲ供シタルトキハ其第三者ハ第千十二條ニ記載シタル如ク無價名義ニテ物ヲ處分スルノ能力ヲ有スルコトヲ要ス

(村田) 第二項「代理人及ヒ」ト云フヲ刪除スヘシ第百二十八條ニ記載アレハナリ可決ス

第千^百五條 動産質權ハ確定ノ日附ヲ有シ且債權及ヒ質物ヲ明ニ指定セル證書ヲ錄製シタルニ非サレハ同一ノ物ニ付キ債務者ト約定シタル第三者又ハ他ノ債權者ニ之ヲ以テ對抗スルコトヲ得ス
右質物ハ之ヲ他物ニ易フルコトヲ得サル様詳細ニ記載シ且要用アルトキハ之ヲ評價スルコトヲ要ス

民再調三ノ五二

若シ質物カ定量物ナルトキハ其種類、數量尺度ヲ以テ之ヲ指定スルコトヲ要ス

(元尾崎) 質取ヲ實取シ置カス書面ニテ取置クヲ云フヤ(栗塚)
一 質物ハ其物ノ取在チ自己ノ方ニ移シ置カサルヘカラス(松岡)
一 本條ハ確定日附ニ付最初議論アリシナリ(栗塚) 確定日附ト云フハ如何ナル方法ヲ以テスルヤト云フ點ニアリ(南部) 確定ノ日附ト云フハ證據編ノ議ニ至ルマテ未定ニ付セラレタシ(松岡) 確定日附ハ保護ノ點ニアラスシテ寧ロ收稅主義ニ出ツルモノナリ(栗塚) 確カナル日附トシテハ如何結局確定日附ト云フニ付テハ他日證據編ノ議ニ至ルマテ未定ニ附スルコトト決ス

第千百六條 法律ニ從ヒ證人ニ依リテ債權ヲ證スルコトヲ得ル場合ニ於テハ證書ノ錄製ヲ要セス此場合ニ於テハ債權ノ額及ヒ質物ノ相違ナキコト、其性質、價額ヲ或ハ併合シ或ハ各別ニ人證ヲ以テ

證スルコトヲ得

無異議

第千百七條 動産質ハ質取債權者カ有体ナル質物ヲ現實ニ且繼續シテ占有スルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニモ他ノ債權者ニモ對抗スルコトヲ得ス

然レトモ質物ハ當事者雙方カ選定シ又ハ債權者カ自己ノ責任ヲ以テ選定シタル第三者ノ手ニ之ヲ寄託スルコトヲ得

此規定ハ無記名證券ニモ之ヲ適用ス

無異議

第千百八條 質物カ記名債權タルトキハ質取債權者ハ其證券ヲ占有スルコトヲ要ス

其他記名證券ノ質ノ設定ハ債權ノ讓渡ヲ告知スル通常ノ方式ヲ以テ第三債務者ニ其設定ヲ告知シ又ハ其第三債務者カ任意ニテ之ニ

参加スルコトヲ要ス

此他第三百六十七條ノ規定ハ右ノ場合ニ之ヲ適用ス

右ハ總テ裏書ヲ以テ取引ス可キ商證券又ハ商品ノ質ニ關シ商法ニ

記載シタルモノヲ妨ケス

(村田) 第一項記名債權ト云フハ記名商券トセサレハ不可ナリ

(松岡) 債權ニ記名ト云フモノナシ(栗塚) 質物カ記名商券ノ

債權タルトキハトシテハ如何(元尾崎) 記名商券ノ質ノ設定ハ

之ヲ第三債務者ニ告知スヘシト云フハ如何(松岡) 第三債務者

ニ告知シ置カサレハ第三債務者ノ支拂ヲ受タル能ハサレハナリ

(横村) 質物カ記名債權タルトキハト云ヘルハ如何ニスルヤ(

南部) 質物カ債權ノ記名證券タルトキハトスヘシ可決ス(村田)

第二項冒頭ニ其他ト云ヘル文字ヲ冠シ第三項ノ冒頭ニ其他ト云

フ文字ヲ冠セシメシハ不都合ニアラスヤ(南部) 此儘ニ附シ置

クヘシ可決ス

第一千百九條 會社ノ記名ノ株券又ハ債券ヲ質ト爲ストキハ證券交付ノ外會社定款又ハ法律ニ於テ株券又ハ債券ノ讓渡ノ爲メニ定メタル方式ヲ以テ之ヲ會社ニ告知シ其帳簿ニ之ヲ記入スルコトヲ要ス
（村田）株券ニ記名ト無記名ノ區別アラサレハ記名株券ト云フハ不可ナリ（松岡）無記名ノ株券ナキニアラス（南部）株券ノ文字ハ刪除ス可シ株券ハ一切商法ニ讓レリ（元尾崎）株式會社ノ設立ニ付テハ商法ニ屬スヘキモノナルモ株式ノ質入ニ於ケル如キハ民法中ニ規定ヲ要スヘシ（南部）株式會社ハ商法ニ規定シ株券ノ質入ヲ民法中ニ規定スルハ不可ナリ（村田）株券ノ質入ハ皆商法ニ屬セシメ民法中ノ支配ヲ用ユルヲ得スト云フ理由ナシ（松岡）株券ト云ヘハ根元ハ之ヲ商法ニ規定シタルニ其用法ニ係ル質入ヲ民法中ニ規定スルト云フハ奇怪ナリト云フヘシ

（元尾崎）質入ハ民事上ニテ之ヲ支配スルニ差支ナシ（南部）債權ノ讓渡ノ爲メニ定メタル方式ト云フハ民法中ニ規定ナシ此規定ハ商法ニ規定シタレハ民法ヲ以テ之ヲ支配スルヲ得ス（塚）株券質入ニ關スル質入ノ方法ハ商法ニ規定スルモノニシテ本條ハ株券モ質入スルヲ得ヘシト云フ送リテ附スルニ過キサルモノト思惟スヘシ（南部）其見解ナルトキハ妨ケナシ

第一千百十條 動産質ハ當事者ノ意思ニ從ヒ働方及ヒ受方ニテ不可分タリ但反對ナル明示ノ合意アルトキハ此限ニ在ラス

動産質ハ債務者又ハ其相続人ノ一人ヨリ債務ノ一分ヲ辨済シタルトキト雖トモ元利及ヒ費用ノ皆済ニ至ルマテ質物ノ全部及ヒ各個ニ於テ存立ス

質取債權者ノ相続人ノ一人カ自己ノ部分ノ辨済ヲ受ケタルトキト雖トモ動産質ハ債權ニ於ケル他ノ相続人ノ部分ノ爲メ其相続人ノ

擔保トシテ全部ニ於テ存立ス

無異議

第二節 動産質契約ノ效力

第一千百一十一條 質取債權者ハ質物ヲ返還スルマテ其監守及ヒ保存ニ付キ善良ナル管理者ノ注意ヲ加フルノ責アリ

質取債權者ハ債務者ノ許諾ヲ受スシテ質物ヲ質貸スルコトヲ得ス又債務者ノ許諾ヲ受ケタルトキ又ハ物ノ使用力其保存ニ必要ナルトキニ非サレハ自ラ之ヲ使用スルコトヲ得ス

若シ質取債權者カ質物ヲ濫用スルトキハ其失權ノ宣告ヲ受クルコト有リ

無異議

第一千百十二條 質取債權者ハ自己ノ責任ヲ以テ質物ヲ自己ノ債權者ニ轉質ト爲スコトヲ得此場合ニ於テハ轉質ヲ爲サ、レハ生セサル

可キ意外又ハ不可抗ノ危險ニ付テモ亦其實ニ任ス

(渡)亦其實ニ任スト云ヘルハ如何(松岡)通常ノ場合ト雖モ其實アリ本條ノ場合ト雖トモ亦其實アルヘシト云フニアリ

第一千百十三條 質物カ果實又ハ產出物ヲ生スルトキハ質取債權者ハ之ニ關シ留置權者ノ爲メ第九十八條第二項ニ定メタル權利及ヒ義務アリ

質ト爲シタル債權ニ關シテハ質取債權者ハ其利息ヲ收取シ之ヲ自己ノ債權ニ充當ス然レトモ債務者ノ特別ナル委任ヲ受ケスシテ其元本ヲ受取ルコトヲ得ス但裏書ヲ以テ取引ス可キ證券ニ關スルトキハ此限ニ在ラス

無異議

第一千百十四條 質取債權者カ質物保存ノ爲メ必要ノ出費ヲ爲シタルトキハ其辨償ハ此債權者ノ爲メ其債權ニ先チ動産質ヲ以テ之ヲ擔

保ス

質物ノ隠潜ノ瑕疵ニ因リ債權者ノ受ケタル損害ノ賠償ニ付テモ亦同シ

(粟塚)本條隱潜ノト云ヘルハ例ニ從ヒ隠レタルトスヘシ

第千百十五條 質取債權者ハ動産質ノ附キタル主從ノ債務及ヒ前條ニ從ヒ受取ル可キ金額ノ皆済ニ至ルマテ債務者及ヒ其讓受人ニ對シ質物ノ占有ヲ留置スルコトヲ得

右債權者ハ其債權ノ滿期ニ至ラサル間ハ債務者ノ他ノ債權者ヨリ爲ス質物ノ差押及ヒ其競賣ニ對抗スルコトヲ得

無異議

第千百十六條 動産質ノ附キタル債務カ滿期ト爲リタルトキハ債務者履行ヲ爲サ、ルニ於テハ質取債權者又ハ其他ノ債權者ヨリ質物ノ競賣ヲ求ムルコトヲ得質取債權者ハ他ノ債權者ニ先タテ元利、

民再調三ノ五五

民再調三ノ五六

費用及ヒ第千百十四條ニ掲ケタル賠償金ノ辨濟ヲ受ク

無異議

第千百十七條 他ノ債權者ヨリ競賣ヲ求メス又ハ之ヲ實行スルコトヲ得サルトキ質取債權者ハ質物ヲ已レノ有ト爲サントスルコトニ付キ債務者ト一致セサルニ於テハ鑑定人ノ評價シタル價額ニ滿ツルマテ質物ヲ辨濟ニ充ツ可キコトヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但其請求書ヲ債務者ニ豫メ提示スルコトヲ要ス
質物ノ價額カ債務ヲ超ユル場合ニ於テハ質取債權者ハ債務者ニ其超過額ヲ辨償スルコトヲ要ス

無異議

第千百十八條 總テ動産質契約ノ約款又ハ債務滿期前ノ合意ニシテ債權者ニ其債權ノ全部又ハ一部ニ付キ辨濟ノ爲メ裁判上ノ評價ナクシテ流質ヲ許スモノハ當然無効タリ

本條ノ禁止ヲ犯ス爲メ債務者カ債權者ニ爲シタル受戻約款附ノ賣買其他ノ合意ハ之ヲ無効ト宣告スルコトヲ得

本條ニ定メタル無効ハ買取債權者ヨリ之ヲ申立ルコトヲ得スシテ債務者又ハ其承繼人ノミ之ヲ申立ツルコトヲ得

(元尾崎)流質スルコトヲ得サルヤ(栗塚)然リ(元尾崎)質商ハ如何(栗塚)質商ニ關スル規則ハ特別法ヲ以テスヘシト云フノ議決ナリ

第千百十九條 質物カ買取債權者ノ方ニ存スル事實ノミニテハ其債務ノ免責時効ノ成就ヲ停止セス

(栗塚)本條ハ最初起案者ニ質問スヘキ筈ニアリ
第千百二十條 質物ノ占有ハ常ニ容假ノ占有ニシテ其占有ノ繼續期ノ如何ニ拘ハラヌ又債務カ辨濟又ハ其他ノ方法ニテ消滅シタル後ト雖モ買取債權者ハ得取時効ヲ申立ルコトヲ得ス

民再調三ノ五七

然レトモ第百九十七條ニ定メタル二個ノ場合ニ於テハ容假タルコトハ止ム
(元尾崎)容假タルノ止ムトキハ眞占有トナルカ(村田)法定ノ占有トナルヘシ

第三章 不動産質

第一節 不動産質ノ目的性質及ヒ組成

第千百二十一條 不動産質契約ハ不動産質債權者ニ他ノ總債權者ヨリ先ニ其不動産ノ果實及ヒ入額ヲ收取スルノ權利ヲ付與ス
債務ノ期限ニ至レハ債權者抵當權アル債權者ノ權利ヲ行フ

其期限ハ三十年ヲ超過スルコトヲ得ス之ニ過クル場合ニ於テハ當然三十年ニ減縮ス

其期限ハ縱令之ヲ延期スルモ前後通算シテ三十年ヲ超過スルコトヲ得ス

（栗塚）不動産質ハ議決以來起接者更ニ改正シ來リ其改正案ト
及ヒ最初ノ議決案トニ基キ修正ヲ加ヘタルニ依リ諒知アルヘシ
（村田）其期限ハト云フハ其何タルノ分明ナルヤ（松岡）不動
産質ノ期限ヨリ外ナシ（笑作）前後通算ト云フハ如何（栗塚）
最初ノ期限ト延期後ノ期限ト云フニアリ

第千二百二十二條 不動産質ハ債務者ノ爲メ第三者ヨリ之ヲ設定スル
コトヲ得其不動産質ハ債務者ト設定者トノ間ニ於テハ動産質ノ爲
メ第千二百二條ニ定メタル效力ヲ生ス

無異議

第千二百二十三條 不動産質ハ第千二百三條及ヒ第千二百四條ニ從ヒ
抵當ト爲スコトヲ得ヘキ權利ノ上ニ非サレハ之ヲ設定スルコトヲ
得ス

其他設定者ハ質ト爲シタル物件又ハ權利ノ收益權ヲ自カラ有スル

コトヲ要ス其質ハ如何ナル場合ニ於テモ其收益權ノ繼續期ヲ超過
スルコトヲ得ス

不動産質設定ノ爲メニ要スル能力ハ第千二百十五條及ヒ第千二百
十六條ニ定メタル抵當設定ノ能力ト同一ナリ

（村田）第千二百四條ニテハ抵當ノ禁止物タリ然ルテ本條ニテ
抵當ト爲スコトヲ得ヘキト云フハ抵觸ナリ（栗塚）第千二百四
條ニ禁セシ場合ト云フ意義ナリ（南部）第千二百四條ノ裏面ヲ
指シタルモノナラン（笑作）物件ト云フ文字ハ稀珍ナリ（南部）
「件」ヲ删除スヘシ可決ス（松岡）第二項物又ハ權利ノ收益權
ト云ヘルハ物ノ收益權又ハ權利ノ收益權ト云フ義カ（笑作）然
リ（松岡）物ノ收益權ト云ヘハ權利ノ收益權ト云フハ必要ニ非
ス權利ノ收益權ト云ヘハ支分權ノ收益權ナルヘシ（栗塚）物ノ
收益權ト支分權トニ非ス物即チ權利ノ收益ト云フ義ナルヘシ（

笑作一起案者ハ虛有權ハ不動産質トスルヲ得サルトシタルニア
ラスヤ(松岡)然リ收益權アルニアラサレハ質入スルヲ得サル
ヘシ(村田)不動産質ハ所有權ヲ有セサルモ收益權ヲ有スレハ
之ヲ質スルヲ得ヘシ(松岡)物又ハ權利ノ收益權トアルハ物ノ
收益權トスヘシ(笑作)「物又ハ」ヲ刪除シテハ如何權利ノ收
益權ト云ヘハ財産ハ權利ナリト云ヘル定義ヨリ推ストキハ物ノ
意ヲモ包含スヘケレハナリ(南部)原案ヲ不可トスレハ「物又
ハ」ヲ刪除スヘシ(清岡)權利ノ收益ト云フハ不明ナリ(栗塚)
理窟上ハ權利ノ收益ト云フヲ可トス(元尾崎)設定者ト云フハ
質置主ヲ云フカ(笑作)然リ(栗塚)質ト爲シタルトアルヲ質
ト爲ストシタシ(元尾崎)質ト爲サントスルトシタシ(松岡)
物又ハ權利ト云ヘハ物ノ持主ト又ハ權利ノミチ有スル者トノ二
様ヲ云フニアリ結局質ト爲ス物又ハ權利ノ收益權トスルニ可決

ス

第一千二百二十四條 不動産質カ合意上ノモノナルトキハ其質ハ合意上
ノ抵當ノ爲メ第一千二百十一條ニ定メタル公正證書ヲ以テスルニ非
サレハ當事者ノ間ニ之ヲ設定スルコトヲ得ス
又不動産質ハ第一千二百十八條ニ從ヒ遺言上ノ抵當ノ許サ、ル場合
ニ於テハ遺言ヲ以テ之ヲ設定スルコトヲ得
不動産質ハ之ヲ證明スル證書又ハ判決書ヲ第三百六十八條第一號
及ヒ第三號ニ從ヒ登記シタル後ニ非ラサレハ之ヲ以テ第三者ニ對
抗スルコトヲ得ス

右ノ登記ハ抵當ノ順位ヲ保存スルタメ記入ニ等シキ效力ヲ有ス
(笑作)不動産質ハ當事者間ト雖トモ公正證書ヲ有シ第三者ニ
對シテハ登記スルニ非ラサレハ對抗スルヲ得スト云フニアリ(松岡)
松岡)不動産質ノ當事者間ニ在テハ公正證書ニアラサルモ私證

書ニテ足レルニアラスヤ（元尾崎）公證人ノ面前ニ於テスヘキ
ヲ要スト云ヘハ不便ノ爲メ世上ノ不融通ヲ醸成スヘシ（南部）
既ニ公正證書ヲ置カルル以上ハ不動産質ニハ公正證書ヲ要スル
モノトセサルヘカラス（栗塚）公正證書ハ事体ノ重大ナル場合
ニハ之ニ依ラシムヘシト云フニアレハ要スルニ不動産質ハ事体
ノ重大ナルモノカ否ラサルモノカト云フニアリ（松岡）不動産
質ハ事体ノ輕少ナルモノニアラス故ニ口頭契約ヲ許スハ不可ナ
リト雖モ敢テ有式契約トスルニ及ハス私證書ヲ以テ契約ヲ爲ス
コトヲ得セシムヘシ（南部）有式無式ノ契約ヲ原則トシタル以
上ハ公正證書ト云フ文字ヲ削除スルヲ得ス敢テ之ヲ削除セント
スルハ不都合モ亦甚タシト云フ可シ結局合意上ノ抵當ノ爲メ第
千二百十一條ニ定メタル公正ト云ヘル數字ヲ削除ス

第千二百二十五條 登記ス可キ證書又ハ判決書ニハ質ト爲シタル不動

産ノ精確ナル指示ノ外元利ノ債權額ヲ記載スルコトヲ要ス
右ノ指示カ不十分ナル場合ニ於テハ既ニ爲シタル登記ノ縁邊ニ補
足ノ合意ヲ附記シテ之ヲ補フ然レトモ此附記ハ其日附後ニ非サレ
ハ效力ヲ生セス

無異議

第千二百二十六條 質ト爲シタル物權カ用益權質借權又ハ永借權ナル
トキハ此權利ノ設定證書ノ登記ノ縁邊ニ其質權ヲ附記スルヲ以テ
足レリトス

（松岡）質ト爲シタルトアルハ前例ニ從ヒ質ト爲ストスヘシ（
南部）本條ハ質ト爲シタルト云フニテ可ナリ（村田）質借權ヲ
質入スルヲ得ヘキニ地上權ヲ記示セサルハ如何（栗塚）地上權
ニハ收益ト云フモノアリヤ（村田）地上權ニ收益ナシト云フヲ
得ス（栗塚）家作及ヒ樹木ハ之ヲ質入スルヲ得ヘキモ單ニ地上

權ヲ質入スル場合アリヤ其家作及ヒ其樹木ヲ質入ニ附スルトキハ地上權ハ自ラ之ニ附從スルモノナルヘシ（松岡）本條ハ制限法ニアラス其類例ヲ示シタルニ過キサレハ地上權ヲ質入セントスルトキハ之ヲ爲スニ妨ケナカルヘシ（元尾崎）質取主ハ其質物ヲ更ラニ他ニ質入スルヲ得ルヤ（南部）更ラニ質入スルヲ得ス（栗塚）物權ヲ有スルモノハ更ラニ質入スルモ妨ケナカルヘシ此點ハ起案者ニ質問スルニ決ス

第一千二百二十七條 質取債權者ハ右ノ外動產質ニ關シ第一千二百七條ニ記載シタル如ク其債權ヲ擔保スル不動產ノ現實ノ占有ヲ得且之ヲ保存スルコトヲ要ス

（松岡）本條ハ最初不動產又ハ權利ヲ現實ニ云々トシタルニ又ハ權利ノ文字ヲ刪除スルハ不可ナリ（元尾崎）又ハ權利ノ文字ナキモ可ナリ結局不動產ヲ現實ニ占有スルコトヲ要ストス

第一千二百二十八條 不動產質ハ動產質ニ關シ第一千百十條ニ記載シタル如ク働方及ヒ受方ニテ不可分タリ

無異議

第二節 不動產質ノ效力

第一千二十九條 質取債權者ハ其債權ノ擔保ノ爲メ受取リタル不動產ヲ第一千二百二十六條乃至第一千二百二十九條ニ規定シタル制限ニ從ヒ質貸スルコトヲ得但反對ノ合意アルトキハ此限ニ在ラス

又不動產質債權者ハ其不動產又ハ權利ヲ自己ノ權利ノ繼續期間ニ限り動產質ニ關シ第一千百十二條ニ記載シタル如ク自己ノ責任ヲ以テ其不動產質ヲ讓渡スルコトヲ得

（村田）不動產ヲ讓渡スルコトヲ得ト云フハ不可ナリ（栗塚）不動產ヲ交付シ置クヲ云フ（箕作）讓渡ハ讓渡スコトヲ要ストスヘシ可決ス（松岡）第一項制限ニ從ヒトアル下ニ前議決ノ如

ク質契約ノ期間ニ限リト云ヘル文字ヲ挿入セサルヲ得ス否ラサ
レハ質契約ノ期間ヲ過クル場合アルヲ以テナリ(栗塚)起案者
ト質契約後ト雖トモ管理行爲ヲ以テ質貸借ヲ繼續スルヲ得ト云
フニアリ(元尾崎)前議決ノ旨ニ從ヒタシ可決ス(栗塚)第二
項ハ其不動産又ハ權利ヲト云ヘル文字ヲ刪除スヘシ又ハ權利ノ
ミヲ刪除スル迄ニテハ文語ヲ成サ、レハナリ

第一千百三十條 質取債權者ハ租稅其他毎年ノ公課ヲ負擔ス

質取債權者ハ保持ノ修繕及ヒ必要且急迫ナル大修繕ヲ爲スノ責ニ
任ス若シ之ニ違フトキハ損害賠償ヲ負擔ス但此大修繕ノ費用ハ債
務者之ヲ償還ス

(村田)保持修繕ト云フ文字ハ皆小修繕トシタルニ付キ本條モ
小修繕トセサルヘカラス可決ス

第一千百三十一條 質カ建物宅地ニ存スルトキハ債權者ハ自ラ之ヲ領

スルト之ヲ質貸スルトヲ問ハス其借賃ヲ自己ノ債權ノ利息ニ充當
シ又超過額アルトキハ附隨ニテ又ハ債權カ利息ヲ生セサルトキハ
全部ニテ元本ニ充當ス

質カ田畑山林ニ存スルトキハ當事者ノ間ニ於テ果實ト利息トハ計
算ヲ爲サス相殺シタリト看做ス但反對ノ合意アルトキ又他ノ債權
者ニ對シ又ハ利息ノ法律上ノ制限ニ付キ顯著ナル詐害アルトキハ
此限ニ在ラス

借賃又ハ果實ヲ利息ニ充當スルニハ毎年ノ公課及ヒ保持、管理、
栽培ノ費用ヲ扣除シタル純益價額ニ付テ之ヲ爲スモノトス

(村田)之ヲ領スルト之ヲ質貸スルトヲ問ハストアル領スルノ
文字ハ質貸ト對セシムヘシ(元尾崎)最初ハ占領トナセリ(南
部)占領ト云ヘハ占有ニ紛レアルヲ以テナリ(松岡)田畑山林
ト建物トノ質入規定ヲ異ニスルハ如何(栗塚)此點ハ起案者ニ

注告シ田畑山林ハ現行法ニ反セサル様規定セシメシモ建物ノ質
入ハ現行法アラサルニ付キ個ハ佛蘭西主義ニ従フモ可ナリト云
フニアリ

第一千百三十二條 質取債權者ハ如何ナル反對ノ合意アルニ拘ハラ
常ニ已レノ爲ノ負擔重キニ過クルト見ユル收益權ヲ將來ニ向テ拋
棄シ抵當權ノミヲ存スルコトヲ得然レトモ適當ノ時期ニアラサレ
ハ之ヲ爲スコトヲ得ス

(栗塚)本條ハ起案者ニ質問中ニシテ既ニ答案モ回附アリシモ
未タ反譯ノ違アラサルニ依リ追テ報告スヘシ

第一千百三十三條 債權者ハ債務ノ皆済ニ至ルマテ質ニ取りタル不動
產ノ占有ヲ留置スルコトヲ得ス

然レトモ質取債權者ハ債務ノ満期前又満期后ニ熟議ヲ以テスルト
競賣ヲ以テスルトヲ問ハス債務者又ハ他ノ債權者ヨリ求メタル賣

却ニ故障ヲ申立ツルコトヲ得ス

又質取債權者ハ自ラ賣却ヲ申立ツルコトヲ得右ハ下ニ指示シタル
異別ノ效力ヲ生ス

(笑作)第二項満期前又満期后トアルハ満期前又ハ満期后トス
ヘシ可決ス(笑作)本條ニ留保ノ符徴アルハ如何(奥山)次條
ニハ競賣ヲ求メタルトキハ其收益權及ヒ留置權ハ消滅ストアリ
質權ノ年限ニ到ラサルニ右權消滅スルハ如何ト云フニアリテ起
案者ニ質問中ナリ(栗塚)第一千百三十二條乃至第一千百三十五條
ハ起案者ノ登案ヲ報告スヘキ際議定アリタシ其議ニ決ス

第一千百三十四條 債務者ニ對シ又ハ債務者ヨリ爲シタル賣却ノ場合
ニ於テハ質取債權者ハ其順位ニ於テ其抵當權ヲ行ヒ且其債權者カ
總テノ先取特權又ハ抵當權アル債權者ニ先タツトキハ取得者ハ質
取債權者ノ尙ホ受取ル可キモノ、爲メ第一千百二十一條ニ從ヒ質ノ

終了スヘキ時期ニ至ルマテ其留置權ヲ妨ケサルノ責アリ
然レトモ若シ不動産質債權者カ自ラ競賣ヲ求メタルトキハ其收益
權及ヒ留置權ハ消滅ス但其順位ノ如何ニ拘ハラズ先取特權又ハ抵
當ヲ有スル他ノ債權者アラサル場合ニ於テノミ賣却ニ明示シテ此
權利ヲ留保シタルトキハ此限ニ在ラス

民法草案按第三十六回修正

第一千三百三十四條 他ノ債權者ヨリ債務者ニ對シ求メタル賣却ノ場合
ニ於テハ質取債權者ハ其順位ニ於テ其抵當ヲ行ヒ且其債權者カ如
何ナル先取特權又ハ抵當權アル他ノ債權者ニモ先ンセラレサルト
キ又ハ先ンセララルトキト雖トモ他ノ債權者カ總テノ代價ヲ取り
盡サスシテ殘餘アルトキハ取得者ハ質取債權者ノ尙ホ受ク可キモ
ノ、爲メ第一千二百二十一條ニ從ヒ質ノ終了スヘキ時期ニ至ルマテ留
置權ヲ尊重スル責アリ（第二千九十一條第二項）

起案者ノ更
正ヲ猶ホ修
正ス

修正質
問スル答

先取特權若クハ抵當權アル他ノ債權者又ハ質取債權者ノ請求ニ因
リ増加競賣ノアリタル場合ニ於テモ亦同シ

第一千三百三十五條 第一千百一十一條、第一千百十四條、第一千百十五條及ヒ

第一千百十八條乃至第一千百二十條ハ不動産質ニモ之ヲ適用ス

無異議

第一千三百三十八條 先取特權ノ負擔アル物カ第三者ノ方ニテ滅失シ又ハ毀損シ第三者之カ爲メ債權者ニ賠償ヲ負擔シタルトキハ先取特權アル債權者ハ他ノ債權者ニ先チ右ノ賠償ニ於ケル債務者ノ權利ヲ行フコトヲ得但其先取特權アル債權者ハ辨濟前ニ合式ニ拂渡差留ヲ爲スコトヲ要ス

先取特權ノ負擔アル物ヲ賣却又ハ賃貸シタル場合及ヒ其物ニ關シ債務者ニ金額又ハ有價物ヲ辨濟ス可キ總テノ場合ニ於テモ亦同シ但災害ノ場合ニ於テ保險者ノ負擔スル賠償ニ關シ商法第 條ニ記載シタルモノヲ妨ケス

(元尾崎) 商法第條ニ記載シタルトアルハ商法ニ記載シトシテハ如何(村田) 差留ハ差押トナルヤ(栗塚) 然リ(渡) 商法ハ第何條ニ當ルカ(栗塚) 尙ホ調査ス可シ(笑作) 商法ニ記載ト

民再調三ノ六六

スルヲ可トス(南部) 第條ハ尙ホ詮議スヘキニ付キ此儘ニ措レタシ

第一千三百三十九條 先取特權ノ種類ハ左ノ如シ

第一 債務者ノ總動産及ヒ附隨ニテ其總不動産ニ係ル一般ノ先取特權

第二 或ル動産ニ係ル特別ノ先取特權

第三 或ル不動産ニ係ル特別ノ先取特權

無異議

第一千四十條 一般又ハ特別ノ先取特權ヲ有スル債權者ノ相互ノ順位ハ此章ノ各節ニ於テ之ヲ規定ス

不動産ニ付キ先取特權ヲ有スル債權者ハ其同一ノ不動産ニ付キ抵當權ヲ有スル債權者ニ先タツ但法律ニ於テ特別ニ規定シタル場合ハ此限ニ在ラス

同名義又ハ同順位ノ先取特權アル債權者ハ其債權額ノ割合ニ應シテ辨濟ヲ受ク

(笑作)同名義又ハ全順位ト云フ區別ハ如何(栗塚)其結果ハ遲延ナシ

第一千四十一條 本法ニ定メタル先取特權ハ各人又ハ國庫ノ爲メ商法又ハ特別法ヲ以テ規定シ又ハ規定ス可キ先取特權ノ妨ケトナラス

右ノ先取特權ハ別段ノ規定ナキ場合ニ於テハ下ニ定メタル一般ノ規則ニ從フ

(笑作)別段ノ規定ナキ場合ト云フハ民法中別段ノ規定ト云フ義カ(栗塚)民法以外商法ノ如キ特別法ヲ云フニアリ(南部)第二項右ノトアルハ其トシテハ如何(元尾崎)右商法又ハ特別法ノ先取特權ト雖トモトシテハ如何(栗塚)右商法又ハ特別ノ

先取特權ハトスヘシ可決ス

第一節 動産及ヒ不動産ニ係ル一般ノ先取特權

第一款 一般ノ先取特權ノ原因

第一千四十二條 動産及ヒ不動産ニ係ル先取特權アル債權ハ左ノ如シ但下ニ定メタル制限及ヒ條件ニ從フ

第一 訴訟費用

第二 葬式費用

第三 最后疾病費用

第四 雇人給料

第五 飲食品供給

(元尾崎)訴訟費用ノ殘餘ヲ生セサルトキハ葬式費用ヲ先取スルヲ得サルカ(栗塚)然リ

第一則 訴訟費用ノ先取特權

第一千四百三十三條 訴訟費用ノ先取特權ハ或ハ債務者ノ財産ヲ保存スル爲メ或ハ其財産ヲ清算シ之ヲ換價シ及ヒ有權者間ニ其代價ヲ配當スル爲メ各債權者ノ共同利益ニ於テ正當ニ爲セル裁判上若クハ裁判外ノ總テノ行爲ニ付キ金圓ノ立替ヲ爲シタル又ハ給料若クハ謝金ヲ受取ルヘキ債權者ニ屬ス

債權者ニ有益ナラサリシ費用ニ付テハ先取特權ハ特別ノモノニシテ其費用ノ爲メ利益ヲ得タル債權者ニ對スルニ非サレハ之ヲ以テ對抗スルコトヲ得ス

無異議

第二則 葬式費用ノ先取特權

第一千四百四十四條 債務者ノ身分ニ應シ且慣習ニ從ヒ爲シタル葬式ノ費用ハ先取特權アルモノトス

先取特權ハ債務者ノ擔當タル其同居ノ親屬ノ葬式ノ費用ニモ亦之

民再調三ノ六八

ヲ適用ス

其先取特權ハ葬式ニ連續シタル出費ニ及ハス縱令其出費カ慣習上ノモノタルモ亦同シ

無異議

第三則 最后疾病費用ノ先取特權

第一千四百四十五條 最後疾病費用ノ先取特權ハ債務者又ハ前條ニ指定シタル家屬ノ死亡前ノ疾病ニ關スル醫師、藥商、看病人及ヒ其他ノ費用ヲ包含ス但債務者ノ無資力前ノ疾病及ヒ其親屬ノ疾病ニ關スルモノモ亦同シ

長病ノ場合ニ於テハ右費用ノ先取特權ハ最後ノ一ケ年ノ費用ニ之ヲ制限ス

債務者又ハ其親屬右費用ヲ生セシメタル疾病ノ外ノ原因ノ爲メ死亡シタルトキト雖トモ先取特權ハ尙ホ存ス

(箕作)無資力ト云フ上ニ破産又ハト云フ文字ヲ加ヘタシ(栗塚)原文ニハ破産ノ文字アレハ破産又ハ無資力トスヘシ可決ス

第四則 雇人給料ノ先取特權

第千四百十六條 雇人ノ先取特權ハ債務者又ハ其同居ノ親屬ノ一身ニ附屬シ或ハ債務者ノ家屋其他ノ所有物ニ附屬シタル雇人ニ屬ス
右ノ先取特權ハ最後ノ一ケ年ノ給料ノミヲ擔保ス

無異議

第五則 飲食品供給ノ先取特權

第千四百十七條 飲食品供給ノ先取特權ハ債務者又ハ其同居ノ親屬及ヒ雇人ニ供給シタル生活ニ必要ナル飲食品ノミニ之ヲ適用ス
右ノ先取特權ハ最後ノ六個月間ノ供給ノミヲ包含ス

(松岡)生活ニ必要ナル飲食品ト云フハ生活ニ必要ナル日用品トシテハ如何(栗塚)日用品ト云フトキハ汎義ニ失スルヲ以テ

ナリ

第二款 一般ノ先取特權ノ效力及ヒ順位

第千四百十八條 一般ノ先取特權ハ先取特權アル各債權者カ動産ニ付キ配當ヲ受ケ尙ホ不足アルニ非サレハ不動産ニ付キ之ヲ行フコトヲ得ス

然レトモ若シ動産代價ノ配當ニ先タチ不動産代價ノ配當アルトキハ債權者ハ條件附ニテ不動産代價配當ニ加入スルコトヲ得但右ノ配當加入ニ於テハ日後動産代價ノ配當加入ニ於テ辨濟ヲ受ケサルモノノミヲ受ク

動産代價ノ配當ニ有益ナル時期ニ出席スルコトヲ怠リタル債權者ハ動産ニ付キ受クヘカリシモノ、限度ニ於テ不動産ニ付キ其優先權ヲ失フ

(元尾崎)受クヘカリシ限度ト云フハ受得ラル、丈ケト云フ義

カ（南部）然リ（元尾崎）優先ト先取トハ如何ナル涇渭アルヤ
（南部）合意上ノ場合ニハ優先ト云ヒ他ノ場合ニハ先取ト云フ
ト雖トモ其實ヤ同義ナリ

第千四百四十九條 一般ノ先取特權ノ互ニ競合スル場合ニ於テハ第千
百四十三條乃至第千四百四十七條ニ列記シタル相互ノ順序ニ從ヒ配
當加入ヲ定ム

右ノ數條ニ掲ケタル同名義ノ債權ハ同順位ニテ配當ニ加入ス

若シ一般ノ先取特權カ動産ニ係ル特別ノ先取特權ト競合スルトキ
ハ其順位ハ下ノ第二節ニ於テ之ヲ規定ス

不動産ニ係ル特別ノ先取特權ハ一般ノ先取特權ニ先タチ又特別ノ
抵當ハ後ノ設定ニ係ルト雖トモ詐害ナキニ於テハ一般ノ先取特權
ニ先タツ

然レトモ一般ノ先取特權ハ其發生前ノ取得ニ係ル一般ノ抵當ニモ

先タツ

一般ノ抵當ノ負擔アル總不動産ヲ同時ニ賣却シタル場合ニ於テハ
一般ノ先取特權ハ各不動産ノ賣却代價ノ割合ニ應シテ其總不動産
ニ付キ配當ニ加入ス

若シ順次ニ右ノ不動産ヲ賣却スルトキハ一般ノ先取特權ハ初ノ賣
却ニ付キ全部之ヲ充當シ又次ノ賣却ニ付キ附隨ニテ之ヲ充當ス此
先取特權ヲ負擔セシ不動産ニ付キ抵當ヲ有スル債權者ハ他ノ不動
産ヲ賣却代價ニ付キ求償權ヲ有ス

（村田）競合ト云フ文字ハ允當ナラス（栗塚）最初ハ抵觸トア
ルヲ相會スルト修正シタルニ又更ラニ競合トシタリ（清岡）出
會トスルヲ可トス（栗塚）競争トシテハ如何（榎村）競合ト云
フニテ可ナリ可決ス（元尾崎）末項ノ抵當ヲ有スルト云ヘルハ
一般ノ抵當ヲ有スルト云フ義ナリヤ（南部）然リ（元尾崎）一

般ノ抵當チ有スルトシタシ可決ス（元尾崎）附隨ニ之チ充當ス
ト云フハ次ノ賣却ニ付キ償還シタル殘額チ收得スルカ如ク意味
セラルヘシ（笑作）尙ホ附隨ニテ次ノ賣却ニ付キ之チ充當スト
シテハ如何可決ス

第一千五百十條 一般ノ先取特權ハ不動産カ債務者ニ屬スル間ハ他ノ
債權者ニ對抗スル爲メ其不動産ニ付テノ記入ヲ要セス

無異議

第二節 動産ニ係ル特別ノ先取特權

第一款 動産ニ係ル特別ノ先取特權ノ原因及ヒ目的

第一千五百十一條 上ノ第二章ニ規定シタル先取特權チ有スル動産質
取債權者ノ外下ニ指定シタル動産物ニ付キ先取特權チ有スル債權
者左ノ如シ

第一 不動産ノ賃貸人

第二 種子及ヒ肥料ノ供給者

第三 農業ノ稼人及ヒ工業ノ職工

第四 動産物ノ保存者

第五 動産物ノ賣主

第六 旅店ノ主人

第七 舟車運送營業人

第八 保證チ供スルノ義務アル公吏ノ職務上ノ所爲ニ對スル債

權者

第九 右保證金ノ貸主

（笑作）本條先取權ハ列記ノ順位ニ從フヘキヤ（栗塚）然リ

第一則 不動産賃貸人ノ先取特權

第一千五百十二條 居宅、倉庫其他ノ建築物ノ賃貸人ハ賃借人ノ使用
又ハ商工業ノ爲メ此建物内ニ備ヘタル動産物ニ付キ先取特權チ有

ス

右ノ動産物カ質借人ニ屬セヌト雖トモ先取特權ハ猶ホ存ス但質貸
人カ質貸場所ニ此動産物ノ持込ヲ知リタル當時其物ノ質借人ニ屬
セサル事實ヲ知ラス且其事實ヲ豫見スルニ足ル可キ理由アラサリ
シトキニ限ル

質貸人ノ先取特權ハ現金ニ付キ又質借人及ヒ其家屬ノ一身ノ使用
ニ供シタル金玉寶石ニ付キ又無記名ナルモ證券ニ付キ之ヲ行フコ
トヲ得ス

(笑作)前條第九ハ右保證ノ元資ノ貸主トシテハ如何可決ス

第一千百五十三條 質貸人ハ家賃ノ當期分及ヒ後ノ一期分ノ辨濟ヲ擔
保スルニ足ル可キ動産ヲ質貸シタル場所ニ備フルコトヲ質借人ニ
要求スルコトヲ得質借人之ヲ爲サス且右家賃ノ前拂又ハ之ニ相當
スル其他ノ擔保ヲ供セサルトキハ質貸人ハ質貸借ヲ銷除スルコト

ヲ得但損害アルトキハ其賠償ヲ求ムルコトヲ得

質借場所ニ備ヘタル動産ヲ質貸人ノ許諾ナクシテ取去リタルモ別
ニ詐害ナキニ於テハ質貸人ハ其擔保力不足トナリタルトキ且質借
人ニ屬スル權利ノ限度内ニ非サレハ此動産ヲ其場所ニ復セシムル
コトヲ得ス

然レトモ質貸人ノ權利ヲ詐害シテ爲シタル所爲ニ付テハ質貸人ハ
第三百六十一條以下ニ記載シタル條件及ヒ區別ニ從ヒ第三者ニ對
シテ其行爲ヲ廢罷セシムルコトヲ得

右ハ總テ第一千百三十八條ニ依リ質貸人ノ有スル權利ヲ妨ケス

(松岡)第一項但ト云フ字ハ且トスヘキ意味ニアラスヤ(笑作)
尙ホトシテハ如何可決ス

第一千百五十四條 質貸借ト永貸借トヲ問ハス田畑山林ノ質貸人ハ質
借人カ居宅竝ニ土地利用ノ建物内ニ備ヘタル動産物ニ付キ及ヒ土

地ノ利用ニ供シタル動物農具其他ノ器具ニ付キ上ト同一ノ限度ニ於テモ先取特權ヲ有ス
其他右ノ賃貸人ハ賃貸シタル土地ノ收穫物其他ノ產出物カ猶ホ土地ニ附着スルト土地ニ保存シ有ルトヲ問ハス其收穫物及ヒ產出物ニ付キ先取特權ヲ有ス
分果賃貸人ハ賃貸シタル土地ノ收穫物其他ノ產出物中ニテ自己ノ權利ヲ有スル部分カ猶ホ分果小作人ノ方ニ存スル間ハ他ノ債權者ニ先タチ直接ニ其收穫物其他ノ產出物ヲ己レノ有トシテ先取特權ヲ行フ
（村田）第一項動產物ニ付キトアルヲ動產ニ付キトシタシ可決ス
第千百五十五條 永賃借ト賃貸借ト分果小作トヲ問ハス賃借人ハ賃貸人ノ求メアルニ於テハ其擔保ノ爲メ其年ノ收穫物其他ノ產出物

ヲ保存スルノ責アリ
第千百五十三條ヲ以テ賃貸人ノ利益ニ於テ定メタル隱物ノ取戻權及ヒ賃貸借ノ解除權ハ田畑山林ノ利用ニ供シタル物ノ賃貸借ニ之ヲ適用ス

（笑作）隱物ト云フ文字ハ商法ニテハ藏匿トシタリ如何（栗塚）民法ニテハ隱物ノ文字ヲ使用シ來レリ（尾崎）賃借人收穫物ヲ保存スルノ責アリト云フハ賃借人困却スルナラン（村田）解除ハ銷除トスヘシ可決ス（清岡）隱物ハ藏匿トシタシ（村田）抑移ト云フ意味ナリ（笑作）隱匿トスヘシ可決ス

第千百五十六條 賃借人ノ讓渡又ハ轉賃ノ場合ニ於テハ賃貸人カ賃貸場所ニ備ヘアル動產物ノ讓受人又ハ轉借人ニ屬スルコトヲ知ルト雖トモ其先取特權ハ是等ノ物ニ及フ

此場合ニ於テ先取特權ハ第千百三十八條ニ從ヒ讓渡シ又ハ轉賃ノ

代價トシテ主タル賃借人ノ受ク可キ金額ニ及フ但前拂ヲ以テ賃借人ニ對抗スルコトヲ得ス

(栗塚)動産物ノハ例ニ從ヒ動産ノトスヘシ可決ス

第一千五十七條 賃借人ノ財産ノ總清算ノ場合ニ於テハ賃借人ハ土地家屋ノ借賃其他毎年ノ負擔ニ付キ前年、本年及ヒ翌年ノ分ニ非サレハ前數條ニ定メタル先取特權ヲ有セス

其他先取特權ハ賃借ヨリ先スル他ノ合意上ノ義務、前年及ヒ本年ニ於テノ賃借人ノ過失又ハ懈怠ノ爲メ賃借人ノ受ク可キ賠償及ヒ賃借人カ將來ニ向テ請求スルコト有ルヘキ銷除ニ添フタル損害賠償ヲ擔保ス

(松岡)總清算ト云フ文字ハ如何(元尾崎)總清算ト云フハ可ナリ(松岡)第一百八十條トノ照應不都合アラスヤ(栗塚)不都合ナシ

民再調三ノ七四

第一千五十八條 右清算ノ場合ニ於テ他ノ債權者ハ自己ノ利益ニ於テ賃借ノ銷除ヲ防止シ及ヒ初メヨリ轉貸又ハ讓渡ノ禁止アルニ拘ハラス其賃借權ヲ轉貸シ又ハ讓渡スルコトヲ得但賃借借殘期ノ爲メ賃借人ニ土地家屋ノ賃借其他ノ納額ヲ擔保スルコトヲ要ス

無異議

第二則 種子及ヒ肥料供給者ノ先取特權

第一千五十九條 所有者、用益者、賃借人又ハ占有者ニ種子及ヒ肥料ヲ供給シタル者ハ之ヲ用キタル年ノ果實ニ付キ先取特權ヲ有ス
蠶種及ヒ蠶ノ飼養ニ供スル桑葉ヲ供給シタル者ニ付テモ亦同シ

無異議

第三則 農業者及ヒ工業職工ノ先取特權

第一千六十條 雇人ノ外其年ノ收穫ノ爲メ勞働シタル雇人ハ其一ケ年間ノ給料ノ爲メ收穫物ニ付キ先取特權ヲ有ス

又
樹林、鑛坑、炭坑、石坑、養蠶場ニ於テ勞働シタル職工ハ其產出物ニ付キ先取特權ヲ有ス但其年ノ給料中最后ノ三ヶ月間ノ爲メノミニ限ル

(松岡)第二項ニ製造場ノ職工ト云フヲ包含セサルノ不都合アリ(委員長)本法ノ文例トシテ往々類推法ヲ用ヒ樹木ト云フニ木竹ヲ包含スルカ如キアリ(栗塚)製造場ノ職工ハ商法ニ屬スヘキニアラサルカ(松岡)之ヲ商法ニ屬セシムルモノトセハ其他ノ職工モ商法ニ屬スヘシ商法ニハ別ニ此規定ナシ(清岡)此農業工業ト云フハ小事業ノ場合ニアラスヤ(委員長)其區別ナシ(南部)第二項ハ又工業ノ職工ハトシ尙ホ起案者ニモ質問スヘシ(栗塚)其產出物トアル其ヲ割り產出物又ハ製造品ノ文字ヲ加フ可シ可決ス

第四則 動產物保存者ノ先取特權

第千六百一十一條 動產物ノ修繕又ハ保存ノ費用ニ付テノ債權者ハ第千九十六條ニ從ヒ己レニ屬スル留置權ヲ行ハサルトキト雖モ其修繕又ハ保存シタル物ニ付キ先取特權ヲ有ス
右ノ先取特權ハ金額有價物其他動產物ニ關スル人權又ハ物權ヲ債務者ノ爲メニ追認、保存又ハ實行セシメタル裁判上又ハ裁判外ノ行爲ノ費用ニ之ヲ適用ス

無異議

第五則 動產物賣主ノ先取特權

第千六百六十二條 動產物ノ賣主ハ代價辨濟ノ爲メ期限ヲ與ヘタルト否トチ問ハス其代價及ヒ利息ノ爲メ賣却物ニ付キ先取特權ヲ有ス
若シ補足額ヲ以テスル交換アリテ其補足額カ讓渡シタル物ノ價額ノ半ヲ超ユルトキハ先取特權ハ其補足額ノ爲メ交換物ニ付キ存ス
無異議

第一千六百六十三條 先取特權ハ賣却物カ用方ニ因リ又ハ不動産ニ合体スルニ因リ不動産ト爲リタルトキト雖モ猶ホ買主ノ占有ニ在リ且變形セサル間ハ存續ス但合体ノ場合ニ於テハ不動産ヲ毀損セスシテ其物ヲ分離シ得ルコトヲ要ス

無異議

第一千六百六十四條 賣主ノ先取特權ハ第六百八十四條及ヒ第七百二十一條ニ規定シタル留置及ヒ解除ノ權利ヲ妨ケス

(松岡)先取權ト解除トハ併行スルヲ得ス

第六則 旅店主人ノ先取特權

第一千六百六十五條 旅店ノ主人ハ旅客其從者及ヒ牛馬ノ宿泊料、食料ノ爲メ其旅客ノ携帶シテ尙ホ旅店ニ存スル手荷物ニ付キ先取特權ヲ有ス

無異議

民再調三ノ七六

第七則 舟車運送營業人ノ先取特權

第一千六百六十六條 舟車運送營業人ハ荷物又ハ旅客ノ運送賃ノ爲メ及ヒ關稅其他正當ナル附從ノ費用ノ爲メ自己ノ手ニ存スル運送物ニ付キ先取特權ヲ有ス

運送營業人カ運送物ノ引渡ヨリ四十八時間内ニ債務者又ハ其名ヲ以テ其物ヲ受取リタル者ニ對シ其物ヲ返還スルヤ又ハ運賃其他ノ費用ヲ辨済スルヤノ催告ヲ爲シ且其效果ヲ生セシムル爲メ短キ時間内ニ裁判上ノ請求ヲ爲シタルトキハ其先取特權ハ物ノ引渡後ト雖モ存續ス

如何ナル場合ニ於テモ第三取得者ニ對シテ物ヲ回復スルコトヲ得ス但第一千五百三十三條ニ規定シタル如ク詐害アル場合ハ此限ニ在ラス且第一千百三十八條ノ適用ヲ妨ケス

(松岡)運送營業人ニ關シテハ商法ト對照シタリヤ運送物ノ引

渡及ヒ受取ニ付テハ留置權上ノ關係ヲ生スヘケレハナリ（栗塚）
留置ニ付テハ本法留置權ノ場合ニ其規定アリ（委員長）本條ハ
尙ホ商法ト對查スヘシ其議ニ決ス

第八則 職務上ノ所爲ニ對スル債權者ノ先取特權

第一千百六十七條 保證ヲ供スルノ義務アル公吏ノ職務上ノ過失、又
ハ濫忘ヨリ生スル債權ハ其保證金ニ付キ先取特權アリ
（栗塚）其保證金トアルハ例ニ從ヒ其保證ノ元資トスヘシ可決
ス（元尾崎）濫忘ハ濫用トスヘシ（委員長）濫忘ニテモ可ナル
ヘシ可決ス

第九則 保證金貸主ノ先取特權

第一千百六十八條 前條ノ保證金ヲ貸付タル第三者ハ職務上ノ所爲ヨ
リ害ヲ受ケタル者ニ辨濟アリシ后第二位ニテ此保證金ニ付キ先取
特權ヲ有ス但第三者カ貸付ノ當時又ハ他ノ債權者ヨリ何等ノ故障

ヲモ述ヘサル前規則ニ從ヒ其權利ヲ證明シタルトキニ限ル
（栗塚）保證ノ元資トスルハ妥當ナラサレハ前條及ヒ本條ハ保
證金トシテハ如何（南部）第一千五十一條ニテハ保證ノ元資トシ
タルヲ以テ一定ナラサルヘカラス（渡）第一千五十一條ハ保證金
トスヘシ結局皆保證金トスルニ決ス

第二款 動産ニ係ル特別ノ先取特權ノ順位

第一千百六十九條 動産ニ係ル特別ノ先取特權ト一般ノ先取特權ト競
合スルトキハ優先ノ順序ヲ左ノ如ク規定ス

第一 訴訟費用ハ其費用ノ有益タリシ總債權者ニ先タツ但有益
ノ限度又ハ割合ニ從フ

第二 其他四個ノ一般ノ先取特權ハ第一千百四十二條ニ定メタル
順序ヲ以テ總テノ特別ノ先取特權ニ先タツ但特別ノ先取特權
ニ服セサル他ノ動産ノ不足ナル場合ニ限ル

(村田) 動産ノ場合ニハ特別特權ハ一般ノ先取特權ニ優勝ス
ルモ動産ノ場合ニ於テハ然ラサルカ(栗塚)然リ(委員長)四
個ト云フハ如何(村田)第千百四十二條第二以下ヲ指ス可シ(清岡)第一但割合ニ從フト云フハ記載ヲ要セス何トナレハ實際割合ヲ以テスルニアラサルヘシ(松岡)割合ニ從フモノトス例ハ甲種ノ物品ニ權利アリト云フヲ以テ其種ノ物品ヲ取去ラレタルトキハ乙種ノ物品ニ於ケルモノ、金錢ニ不足ヲ生スヘケレハナリ

第千百七十條 一個ノ動産ニ付キ特別ノ先取特權ヲ有スル諸種ノ債權競合スルトキハ其相互ノ優先權ハ下ノ順序及ヒ區別ニ從ヒ之ヲ定ム

第一ノ順位ハ先取特權ノ目的物ヲ保存シタル者ニ屬ス
若シ數人ノ債權者漸次ニ保存ヲ爲シタルトキハ優先權ハ其間ニテ

最後ノ保存者ニ屬ス

第二ノ順位ハ合意上ノ動産質ニ因リ或ハ不動産ノ質貸人、旅店ノ主人又ハ運送營業人ノ如ク默示ノ動産質ニ因リ物ヲ質ニ取リタル債權者ニ屬ス

第三ノ順位ハ物ノ賣主ニ屬ス

然レトモ質取債權者ハ動産質設定ノ時其物ノ保存費用ノ未タ支拂ナキコトヲ知ラサリシトキハ第一ノ順位ヲ得

之ニ反シテ質取債權者カ賣却代價ノ未タ支拂ナキコトヲ知リタルトキハ賣主之ニ先タツ

收穫物ニ關シテハ第一ノ順位ハ農業ノ稼人ニ第二ノ順位ハ種子及

ヒ肥料ノ供給者ニ第三ノ順位ハ土地ノ質貸人ニ屬ス

工業ノ職工ハ鑛坑、石坑、其他土地ノ採掘事業又ハ土地ノ工業ヨリ生スル產出物ニ付キ質貸人ニ先タツ

公吏ノ保證金ニ關シテハ職務上ノ所爲ニ對スル各債權者ハ相共ニ
債權ノ割合ニ應シ其債權ノ割合ニ應シ其債權ノ日附ニ關セス他ノ
債權者ニ先タチ又證金ヲ貸シタル債權者ニモ先タツ其保證金ヲ貸
シタル債權者ハ保證金ノ殘額ニ付キ第二位ニテ先取特權ヲ有ス
（元尾崎）第一ノ順位ト云フハ如何（松岡）第一ノ順位ハ目的
物ヲ保存シタル者ニ權利アリ（元尾崎）第三ハ如何（栗塚）工
業ヨリ生スル產出物又ハ製造品ニ付キ貸貸人ニ先タツトスヘシ
可決ス（委員長）第六項未タ支拂ナキコト云々トアルハ文義不
都合ニアラスヤ未タト云フ文字ハ不ノ字ノ意味トナルヘケレハ
ナリ（栗塚）俗ニ所謂「マダレ」ト云フ義ナリ故ニ未タ支拂アラ
サルコトヲ知ラサリシトキトシテハ如何可決ス

第三節 不動産ニ係ル特別ノ先取特權

第一款 不動産ニ係ル特別ノ先取特權ノ原因及ヒ目的物

第一千七百七十一條 左ノ債權者ハ下ニ定メタル債權ノ爲メ及ヒ其條件
ニ從ヒ不動産ニ付キ先取特權ヲ有ス

第一 賣買、交換其他有價ノ行爲ニ因リ又無價ニモセヨ負擔ヲ
帶ル行爲ニ因リ不動産ヲ讓渡シタル者ハ其讓渡シタル不動産
ニ付キ先取特權ヲ有ス

第二 共同分割ハ分割中ニ包含シタル不動産ニ付キ先取特權ヲ
有ス

第二 工匠技師及ヒ工事請負人ハ工事ニ因テ不動産ニ生シタル
増價ニ付キ先取特權ヲ有ス

第四 先取特權ヲ生セシムル行爲ノ當時ニ於テ讓渡人、共同分
割者、工事請負人ニ支拂ヒタル金錢ノ貸主ハ右同一ノ不動産
ニ付キ先取特權ヲ有ス

第五 死亡者ノ遺産ト相続人ノ資産トノ分離ヲ請求スル相続ノ

債權者及ヒ受遺者ハ相續ノ不動産ニ付キ先取特權ヲ有ス

(清岡)債權ノ爲メ及ヒ其條件ト云フハ如何(栗塚)債權ノ爲メ其條件ニ從ヒ不動産ニ付キ先取特權アルトノ意ナレハ「及ヒ」ヲ刪除シテハ如何可決ス(清岡)無償ニモセヨトアルハ無償ナルモノトスヘシ可決ス

第一則 讓渡人ノ先取特權

第一千七十二條 讓渡人ノ先取特權ハ左ノ各人ニ屬ス

第一 賣買ノ代價利息其他ノ負擔ニ付テハ賣主

第二 交換ノ補足額、負擔及ヒ交換物ノ追奪擔保ニ付テハ交換

者

第三 贈與ノ負擔ニ付テハ贈與者又ハ其承繼人

其他有償又ハ無償名義ノ不動産讓渡人ハ一般ニ其對價及ヒ負擔ニ付キ先取特權ヲ有ス

(南部)第一ハ賣買ノ代價トアル下ニ及ヒト云フ文字ヲ挿入ス

ヘシ可決ス(委員長)年金權ト云ヘルヲ刪除シタルハ如何(栗塚)代價利息ト云ヘハ年金權トスルハ當人ノ自由ナルヘシ(委員長)年

金トスルトキハ賣買代價ト云フヲ得可キヤ(栗塚)代價タルヘシ

第一千七十三條 賣買代價交換補足額ノ外賣買交換、贈與ノ負擔及

ヒ交換其他有償名義ノ合意ニ於ケル追奪擔保ノ未定ノ賠償ハ讓渡ノ證書又ハ日後ノ證書ヲ以テ金錢ニテ之ヲ定ムルコトヲ要ス
其他右ノ證書ハ次款ニ記載スル如ク之ヲ公示スルコトヲ要ス

(委員長)賣買交換等ノ負擔ニアラサルトキハ如何(栗塚)其他有償名義ノ合意ト云フニ入ル可シ

第一千七十四條 交換其他不動産ノ讓渡ノ對價トシテ受取リタル不動産ノ追奪擔保ノ爲メノ先取特權ハ其追奪力讓渡ノ時ヨリ十ヶ年内ニ生シ且廢罷スヘカラサル判決ヨリ一ヶ年内ニ擔保ノ請求ヲ爲

シ之ヲ公示シタルトキニ非サレハ存在セス

對價トシテ受取リタル動産ニ關シテハ擔保ノ爲メノ先取特權ハ追奪カ一ケ年内ニ生シ且廢罷ス可カラサル判決ヨリ一ケ月内ニ請求ヲ爲シ之ヲ公示シタルトキニ非サレハ存在セス

無異議

第二則 共同分割者ノ先取特權

第一千七百七十五條 相續人、社員其他ノ共有者ハ或ハ抽籤ノ方法或ハ合意上ノ指定或ハ不分物競賣ニ因レル分割ヨリ生スル左ノ債權ノ爲メ其分割ニ於テ各自ノ得タル不動産ニ付キ互ニ先取特權ヲ有ス

第一 補足額ノ爲メ又ハ配當ノ過分ノ爲メニハ之ヲ負擔セル分割者ニ歸シタル不動産ニ付キ先取特權アリ

第二 不分物競賣ノ代價ノ爲メニハ其競賣シタル不動産ニ付キ先取特權アリ

第三 分割者ノ一人カ其配當部分ノ動産又ハ不動産ニ於テ受ケ

タル追奪ノ擔保ノ爲メニハ他ノ分割者ニ歸シタル總不動産ニ付キ先取特權アリ但債務ニ於ケル各分割者ノ部分ニ限ル

無異議

第一千七百七十六條 左ノ擔保ハ亦左ノ條件ニ之ヲ適用ス

第一 相續人又ハ社員ニシテ他ノ相續人又ハ社員ニ對シ補足額又ハ不分物競賣ノ代價ヲ負擔シタル者ノ無資力

第二 分割者ノ一人ノ配當部分ニ債權ヲ充テタルトキ其債務者ノ無資力但其債務者ハ分割者タルト外人タルトテ問ハス分割ノ當時^無資力タリシコトヲ要ス

(村田)無資力ノ上ニ破産又ハノ數字ヲ要セサルヤ(栗塚)無資力ト云フ文字ニテ破産ヲモ類推スヘシ(村田)第一千百四十五條破産又ハノ文字ヲ刪除シタシ(栗塚)該條ハ原文ニ破産ニ當ル文字アレハナリ(清岡)配當部分ニ債權ヲ充テタル

トキ其債務者ノ無資力ト云フハ如何(栗塚)貸金證文アルモ
其債務者ノ無資力ナル場合ヲ云フニアリ

第千七百七十七條 第千七百七十四條ハ分割者間ノ追奪擔保ノ先取特權
ニ之ヲ適用ス

分割者タルト否トヲ問ハス債務者ノ無資力ニ關シテハ其擔保ハ元
本ニ於ケル債務ノ滿期ヨリ一ケ年内ニ請求ヲ爲シ之ヲ公示シタル
トキニ非サレハ當事者ノ間ニテモ又第三者ニ對シテモ之ヲ負擔セ
シムルコトヲ得ス

債務力無期又ハ終身ノ年金權タルトキ債務者ノ無資力カ分割ノ日
ヨリ十ケ年後ニ生スルニ於テハ其擔保ノ負擔ハ止ム

債務カ利息ヲ生スル元本ニシテ其滿期カ十ケ年以上ニ及フトキモ
亦同シ

無意識

第三則 工匠技師及ヒ工事請負人ノ先取特權

第千七百七十八條 工匠、技師及ヒ工事請負人ハ建物、堤塘若クハ堀
割ノ築造若クハ修繕ニ付キ又ハ地上ニ爲シタル排洩、灌溉、開墾、
置土、其他之ニ類似スル土工ニ付キ自己ノ指揮又ハ舉行シタル工
事ヨリ生スル債權ノ爲メ先取特權ヲ有ス

右ノ先取特權ハ鑽坑及ヒ石坑ノ開掘、利用、閉鎖又ハ廢止ニ關ス
ル地下又ハ外部ノ工事ノ爲メ工匠、技師及ヒ工事請負人ニ屬ス
(築作)本條第一項土工ニ付キトアルハ土工其物ニ對シ債權ア
ルニアラス之ヲ指揮又ハ舉行シタル工事ヨリ生スル債權ナレハ
ナリ(栗塚)修繕ノ下ニ付キテ刪リ且ツ「土工ニ付キ自己
ノ指揮又ハ舉行シタル」ト云ヘル數字ヲ刪除スヘシ可決ス

第千七百七十九條 右ノ工事ヨリ生スル先取特權ハ其工事ニ因リ土地
又ハ建物ニ加ヘタル増價ニシテ先取特權行使ノ當時猶ホ存在スル

モノノミニ付キ存ス

右ノ増加ハ裁判所ノ選定シタル鑑定人ノ作レル三個ノ調書ヲ以テ之ヲ明定スルコトヲ要ス

其第一調書ハ工事ヲ始ムル前ニ之ヲ作りテ場所ノ現状ヲ明定シ且目驗見タル工事ノ概略ヲ指示スルコトヲ要ス

其第二調書ハ工事ノ竣成ヨリ又ハ原因ノ如何ヲ問ハス其工事ノ絶止ヨリ三ヶ月内ニ之ヲ作り且其工事ヨリ現ニ生スル増價ヲ明定スルコトヲ要ス

其第三調書ハ配當加入ノ請求ノ當時之ヲ作り且右増價ノ存在スルモノヲ明定スルコトヲ要ス

無異議

第四則 金銭貸主ノ先取特權

第一千百八十條 前數條ニ掲ケタル先取特權ハ讓渡若クハ分割ノ當時

又ハ工匠、技師若クハ工事請負人トノ契約ノ當時ニ於テ賣買若クハ不分明物競賣ノ代價、交換若クハ分割ノ補足額又ハ工事ノ代金ノ辨濟ノ爲メ金銭ヲ貸付タル者ニ法律ニ依リ直接ニ屬ス但其金銭ノ貸付及ヒ使用ヲ此等ノ行爲ノ證書中ニ記載シタルトキニ限ル若シ讓渡人、分割者又ハ工事ノ爲メノ債權者ノ利益ニ於テ先取特權ノ生セシ后ニ金銭ヲ貸付ケタルトキハ貸主ハ第五百二條及ヒ第五百三條ニ定メタル條件及ヒ方式ニ從ヒ債權者又ハ債務者ヨリ合意上ノ代位ヲ得タルトキニ非サレハ先取特權ヲ取得セス孰レノ場合ニ於テモ金銭ノ貸主カ債務ノ一分ノミヲ辨濟シタルトキハ貸主ハ其辨濟シタルモノ、割合ニ應シ第五百八條ニ從ヒ原債權者ト共ニ先取特權ヲ行フ

(笑作)債權者又ハ債務者ヨリ合位上ノ代位ト云ヘルハ如何(南部)第三者債權者ニ辨濟スレハ其代位ヲ得又第三債務者ヨリ

金錢ヲ得テ其代位ヲ得ヘシト云フニアリ

第五則 資産分離ノ先取特權

第一千百八十一條 相續ノ債權者及ヒ受遺者カ死亡者ノ遺産ト相續人ノ資産トノ分離ヲ請求スルノ權利ヲ行フニ付キ服從ス可キ條件ハ相續ノ事項ニ之ヲ規定ス

(村田) 本條ハ贅條ニ屬スヘケレハ刪除シタシ(栗塚) 本條ハ次條ト連關シタルモノニ付刪否ハ次條ニテ決シタシ

第一千百八十二條 讓渡人、分割者及ヒ資産分離ヲ請求シタル債權者竝ニ受遺者ノ先取特權ハ債務者ノ所爲ニ因リ又ハ其權利ニ基キ且其費用ヲ以テ不動産ニ加ヘタル増加及ヒ改良ニ及ハス

(清岡) 資産分離ノ點ノミヲ刪リタシ(尾崎) 兩條共ニ存在スヘシ(元尾崎) 本條ノ讓渡人ト云フハ資産分離ノ讓渡人ニアラズシテ一般ノ讓渡人ナルヤ(笑作) 然ルナラン(元尾崎) 讓渡

民再調三ノ八四

人ハ一般ノ讓渡人トスレハ表題ニ恰當セス又債務者ノ所爲ニ因リ又ハ其權利ニ基キ且其費用ヲ以テ不動産ニ加ヘタル増加及ヒ改良ニ先取特權ノ及ハサルコト勿論ナリトス(笑作) 勿論ナルヤ否ハ疑問ナキニアラス(栗塚) 讓渡人分割者及ヒト云ヘル冒頭ノ文字ヲ刪リ別項ニ右ノ規定ハ不動産ノ讓渡人又分割者ノ先取特權ニ之ヲ適用ストシタシ可決ス(元尾崎) 第五則ハ全除スルヲ得サルヤ(笑作) 然カスルヲ得ス

ヒ順位

第二款 不動産ニ係ル特別ノ先取特權ノ債權者間ノ效力及

第一千百八十三條 前款ニ掲ケタル先取特權ハ下ニ定メタル方法、條件及ヒ期間ヲ以テ公示シ且保存シタルトキニ非サレハ之ヲ以テ他ノ債權者ニ對抗スルコトヲ得ス

(松岡) 此先取特權ハ注意周到ナル者ニ對シ褒賞スルト等シカ

ルヘシ（栗塚）否ナ其原因チ同フセス

第一千八百二十四條 賣買代價ノ爲メノ賣主ノ先取特權及ヒ補足額ノ爲メノ交換者ノ先取特權ハ代價又ハ補足額ノ全部又ハ一分チ未ダ辨濟セサル旨チ記シタル所有權移轉證書ノ登記チ以テ之チ保存ス又交換ニ於ケル追奪擔保ノ爲メ及ヒ賣買、交換其他所有權移轉契約ノ附從負擔ノ爲メノ先取特權ハ證書ノ登記チ以テ之チ保存ス但擔保及ヒ負擔ノ評價チ證書中ニ記載シタルトキニ限ル

無異議

第一千八百十五條 分割者ノ先取特權ハ所有權表白ノ效力アル分割ノ證書チ登記スルニ因リ之チ保存ス但其證書ニ不分物競賣代價又ハ補足額若クハ配當ノ過分及ヒ追奪擔保ノ評價其他各配當部分ノ負擔ノ評價チ記載シタルトキニ限ル

（栗塚）本條ノ表白ト云ヘル文字ハ認定トナルヘシ（笑作）認定

ノ文字ナキモ不明ニアラス（栗塚）本條ハ所有權移轉ニアラサル旨チ明ニセリ（元尾崎）所有權認定ノ效力アルト云フ文字ハ必要チ見ス（松岡）認定ト云フ字ハ表白ト云ヘル文字ヨリハ明了ナリト雖モ認定ノ效力アルト云フ數字ニ必要アリヤ（笑作）認定ノ效力アル分割ノ證書ト云ヘハ認定ノ效力ナキ分割ノ證書アルカ如シ（栗塚）認定ノ文字ハ前條ノ移轉ト對シ本條ノ分割ノ證書ト前條ノ契約トアル文字ト相對セリ（笑作）認定ノ效力アルト云ヘハ認定ノ效力ナキト云フ裏面チ表スベシ結局所有權認定ノ效力アルト云ヘル數字チ刪除ス

第一千八百十六條 右讓渡又ハ分割ノ證書ノ登記ナキ間ハ取得者又ハ分割者ノ承諾シ又ハ其權利ニ基キテ生シタル物上擔保ハ公示シタルトキト雖モ之チ以テ先取特權アル債權者又ハ其承繼人ニ對抗スルコトチ得ス但工事ヨリ生スル先取特權アル債權ハ此限ニ在ラス

然レトモ利害關係人ハ原契約者ノ承諾ヲ得スト雖モ常ニ右ノ登記
ヲ爲サシムルコトヲ得

(横村)本條ハ最初報告委員ノ再調ニ付ストアル如何(松岡)
最初報告委員ノ説明ハ原契約者ノ承諾ヲ得ル場合ニ限ルト云フ
旨ニアリト雖モ然ラスシテ此場合ニハ假令原契約者ノ承諾ナキ
モ之ヲ強制シテ登記セシムルヲ得ト云フニ思意トセリ

第千百八十七條 讓渡又ハ分割ノ證書ニ其對價物ノ全部若クハ一分
ノ未タ辨濟ナキコト又ハ負擔ノ付シアルコトヲ記載セサルトキハ
日後ノ證書ヲ以テ此遺脱ヲ補フコトヲ得且其證書ハ債權者ノ注意
ヲ以テ讓渡又ハ分割ノ證書ト共ニ之ヲ公示スルコトヲ得

右日後ノ證書ヲ讓渡又ハ分割ノ證書ノ登記ト共ニ公示セサルトキ
ハ債權者ハ何時ニテモ抵當ノ章ニ定ムル方式ニ從ヒ要旨ノ記入ヲ
以テ其證書ヲ公示スルコトヲ得但此場合ニ於テハ先取特權ハ單純

ナル法律上ノ抵當ニ變性ス

右ノ抵當ハ二個ノ公示ノ間ニ於テ債務者ノ權利ニ基キ物上擔保ヲ
取得シ且合式ニ之ヲ公示シタル債權者ニ之ヲ以テ對抗スルコトヲ
得ス

讓渡若クハ分割ノ證書ニ記シタル負擔又ハ擔保ノ評價ヲ日後ノ證
書ニ記載シタルトキモ亦同シ但其證書ノ抵當記入ハ其記入ヲ爲シ
タル日附ニ從ヒ債權者ノ順位ヲ定ム

(村田)債權者ノ注意ヲ以テトアル注意ヲ以テノ字ハ別ニ必要
ノ文字ニアラス債權者ヨリトシテハ如何(栗塚)債權者ヨリト
スレハ文体ヲ變セサルヘカラス

第千百八十八條 賣主其他讓渡人又ハ分割者ノ先取特權カ法律上ノ
抵當ニ變性シタルトキハ右抵當ノ記入前ニ讓渡又ハ分割ノ目的タ
ル不動産ニ付テノ物上擔保ヲ債務者ノ權利ニ基キテ取得シ且合式

ニ保存シタル債權者ヲ害シテ義務不履行ノ爲メノ解除訴權ヲ行フ
コトヲ得

無異議

第千百八十九條 工匠、技師又ハ工事請負人ノ先取特權ハ第千百七
十九條ニ定メタル第一第二ノ調書ノ記入ヲ以テ之ヲ保存ス

其第一調書ハ工事ヲ始ムル前ニ之ヲ記入スルコトヲ要ス

第二調書ハ其錄製ヨリ一ヶ月内ニ於テ之ヲ記入スルコトヲ要ス

第二調書ノ記入ノ效力ハ第一調書ノ日附ニ溯及シ且工事ノ前又ハ

後債務者ト約束シタル各人ニ對シ其増價ニ付テノ優先權ヲ先取特

權アル債權者ニ保有セシム

利害關係人中一人ノ爲シタル右調書ノ記入ハ委任ナキト雖モ

他ノ關係人ヲ利シ且總關係人ニ其債權ノ割合ニ應シテ辨濟ヲ受ク

ル爲メノ全一ノ順位ヲ保有セシム但總テノ者カ有益ノ時期ニ於テ

民再調三ノ八七

必要ナル證明ヲ爲スコトヲ要ス

無異議

第千百九十條 前條ニ指定シタル期間ニ二個ノ調書中其一ノ記入ヲ
爲サ、リシトキハ先取特權ハ法律上ノ抵當ニ變性シ其順位ハ左ノ
日附ヲ以テ之ヲ定ム

第一 工事ノ竣成又ハ絶止ノ時ヨリ三ヶ月内ニ第二調書ヲ錄製

シ且次月内ニ之ヲ記入シタルトキハ第一調書ノ遅延記入ノ日

附

第二 右ノ三ヶ月内ニ第二調書ヲ錄製セス又ハ三ヶ月内ニ之ヲ

錄製シタルモ次月内ニ之ヲ記入セサルトキハ其第二調書記入

ノ日附

(松岡)錄製ト云ヒ作製ト云フハ如何(村田)調書ニ付テハ皆
錄製トシタリ(委員長)前條ニ疏明ノ文字ヲ掲ケシハ本法ニモ

疏明ノ文字ヲ可ナリト云フニアリヤ（栗塚）疏明ト云フ外ナカ
ルヘシ（松岡）此文字ハ訴訟法ト對照スヘキト云フニアリ

第一千九十一條 取得、分割又ハ工事ノ爲メ初メニ金圓ヲ貸付タル
者ノ第一千八百八十條第一項ニ從ヒ有スル先取特權ハ賣主、分割者又
ハ工事請負人ニ於ケルト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ保存ス

右貸主カ後日代位ニ因リテ賣主、分割者又ハ工事請負人ニ承繼シ
タルトキ未ダ先取特權ノ公示ナキニ於テハ其貸主ハ主タル證書及
ヒ代位證書ノ登記又ハ記入ニ因リテ其公示ヲ爲サシム

若シ代位前ニ公示アリタルトキハ貸主ハ登記シタル證書ノ縁邊ニ
代位證書ノ附記ヲ請求ス可シ

又先取特權アル債權ヲ讓渡タル者ハ讓渡證書ノ附記ヲ請求ス可シ
此末ノ二個ノ場合ニ於テ附記ヲ爲サシムルコトヲ遲延シタル代位
者又ハ讓受人ハ其以前善意ニテ債務者又ハ其承繼人ト原債權者ト

ノ間ニ爲シタル辨濟其他ノ免責ノ行爲ヲ非難スルコトヲ得ス

（松岡）非難ト云フ文字ハ可ナルヤ（栗塚）曩ニ駁撃ノ文字ヲ
使用シタレハ今モ駁撃トシテハ如何可決ス

第一千九十二條 上ニ記載シタル如クニ保存シタル先取特權又ハ抵
當アル債權ニシテ利息又ハ年金ノ附キタルモノハ利息又ハ年金ノ
満期トナリタル最終ノ二ケ年分ニ非サレハ元本ト同一ノ順位ニテ
配當ニ加入スルコトヲ得ス但満期ノ利息又ハ年金ノ中ニテ二ケ年
以外ノモノ、爲メ漸次ニ特別ノ抵當記入ヲ爲ス可キ債權者ノ權利
ヲ妨ケス

（松岡）先取特權上ノ利息ハ二ケ年以上ニ出ツルコトヲ得サ
ルヲ以テ債權者意外ノ場合アルヘシ

第一千九十二條（第二） 資産分離ヲ請求スル債權者及ヒ受遺者ハ
擔保ノ爲メ留置セント欲スル財産ニ付キ相續ノ發開ヨリ六ヶ月内

ニ其債權又ハ遺贈ヲ記入スルコトヲ要ス

其記入ニハ債權又ハ遺贈ノ額ト其記入ヲ爲ス主旨トチ附記スルコトヲ要ス

相續人ノ權利ニ基キ右ノ期間ニ爲シタル記入又ハ登記ハ分離請求者ニ之ヲ以テ對抗スルコトヲ得ヌ但工事請負人ノ先取特權ニ關シ次條ニ記載スルモノハ此限ニ在ラス

(第二) (委員長) 右ノ期間ニ爲シタル記入ト云フハ如何(笑作) 相續人ノ債權者之ヲ爲スヘシ

第千百九十三條 不動産ニ付キ先取特權アル債權者間ノ相互ノ優先權ハ左ノ順序ニ從フ

第一 工匠、技師及ヒ工事請負人但其債權カ後ニ生シタルトキモ亦優先權ヲ有ス

其工事ヨリ生スル増價額カ右ノ各人ニ全ク辨済スルニ足ラサ

民再調三ノ八九

ル場合ニ於テハ債權ノ割合ニ應シ同一ノ順位ニテ其配當加入ヲ定ム

第二 讓渡人又ハ分割者

逐次ノ讓渡又ハ派分ノ場合ニ於テハ優先權ハ債權者間最モ舊キ者ニ屬ス

金錢ノ貸主ハ或ハ初メヨリ或ハ合意上ノ代位ニ因リ其金錢ニテ全部又ハ一分ノ辨済ヲ受ケタル債權者ト同一ノ順位ヲ有ス。資産ノ分離ヲ請求スル債權者及ヒ受遺者ハ死亡者ノ遺産ニ付キ其遺産カ相續人ニ歸シタル後之ニ増價ヲ與ヘタル工匠技師及ヒ工事請負人ノミニ先セラル

資産ノ分離ハ死亡者ノ債權者間及ヒ受遺者間ノ相互ノ權利ヲ變更セス

(南部) 金錢ノ貸主ハト云ヘルハ第二中ノ別項ニアラスシテ本

條第二項トナルヘキニアラスヤ（栗塚）然リ誤寫ナリ（元尾崎）
資産ノ分離ト云ヘルモ項ハ二個共ニ擡頭シ第三項第四項トスル
カ（栗塚）然リ

第一千九十四條 先取特權ノ記入及ヒ其更新、抹殺、減少ニ關スル
規則ハ先取特權及ヒ抵當權ニ共通ナリ且之ヲ次章ニ規定ス

（渡）「且之ヲ」ノ文字ハ贅文ナリ（村田）且以下ハ刪除シタ
シ（南部）共通ナリト云ヘルヲ共通ニシテト云フ接屬詞トスレ
ハ不都合ナシ可決ス

第三款 第三所持者ニ對スル不動産先取特權ノ效力

第一千九十五條 合式ニ公示シタル先取特權ハ其負擔アル不動産ニ
付キ第三所持者ノ方ニマテ追及ス

第三所持者カ下ニ定ムル方法ノ一ニ依リ先取特權アル債權者ニ辨
償セサルトキハ其債權者ハ第三所持者ニ對シ其不動産ヲ差押ヘ之

ヲ競賣ニ付スルコトヲ得

（松岡）辨償ヲ辨濟トスヘシ可決ス

第一千九十六條 一般ノ先取特權ハ第三所持者ノ取得證書ノ登記前
ニ之ヲ記入シタルトキニ非サレハ其第三所持者ニ移轉シタル不動
産ニ付キ追及權ヲ與ヘス

無異議

第一千九十七條 轉得者ノ證書ノ登記前ニ登記セサル讓渡又ハ分割
ニ因リ先取特權ヲ有スル債權者ハ其先取特權ノ生シタル證書ヲ登
記セシムルコトニ付キ轉得者ヨリ催告ヲ受ケタレトモ一ヶ月内ニ
其登記ヲ爲サシメサリシトキニ非サレハ追及權ヲ失ハス但此一ケ
月ニハ距離ニ應シ法律上ノ期間ヲ加フ

然レトモ轉得者ハ讓渡人カ十ヶ年以上不動産ニ付キ法廷ノ占有ヲ
爲シタルトキハ右ノ催告ヲ爲スノ責ナク且舊所有者ノ總テノ先取

特權ヲ免カル

(松岡)第一項證書ヲ登記セシムルコトニ付キトアルヲ登記ス
ルコトニ付キトシ其登記ヲ爲サシメサリシトアルヲ其登記ヲ爲
サ、リシトスヘシ可決ス(元尾崎)第二項譲渡人カトアルヲ讓
渡人又ハ分割者カトシテハ如何(栗塚)譲渡人ト云ハ分割者
ヲモ包含スヘキモ此場合ハ最早譲渡人ト分割者ノ區別ヲ要セス
等シク轉得者ニ對スルトキハ譲渡人タルヘケレハナリ(箕作)
譲渡人ノ上ニ其ト云フ字ヲ加フヘシ可決ス

第千九十八條 工事ニ因リ先取特權ヲ有スル債權者ハ工事ノ竣成
又ハ^其絶止ノ前ニ譲渡アリテ其證書ノ登記アリタルトキハ第一調書
ノ記入ニ依リテ追及權ヲ行フコトヲ得

工事ノ竣成シ又ハ絶止シタルトキ第二調書ノ錄製及ヒ記入ノ二個
ノ期間カ未タ経過セサルニ於テハ右ノ債權者ハ此期間ノ滿了后又

民再調三ノ九一

ハ第二調書ヲ錄製シ且記入セシムヘキ催告ヲ受ケタルモ一ヶ月ノ
期間ニ之ニ應セサリシ後ニ非サレハ先取特權ヲ失ハス

(南部)本條且記入セシムヘキトアルモ且記入スヘシトスヘシ
可決ス(元尾崎)記入ス可キ催告スルモノアリヤ實際上稀少ナ
ルヘシ

第千九十九條 追及權ヲ保存シ及ヒ之ヲ行フ爲メニ必要ナル公示
ヲ爲サ、ル先取特權アル債權者ハ第三所持者ノ負擔シタル讓受代
價ニ付キ優先權ヲ失ハス但代價ノ辨濟前又ハ順序配當手續ノ閉鎖
前ニ自ラ債權者タルコトヲ知ラシメ且其債權ヲ證明シタルトキニ
限ル

無異議

第千二百條 先取特權ニ關スル追及權其條件效力竝ニ第三所持者カ所
有權徵收ヲ避クルノ方法及ヒ先取特權消滅ノ原因ハ次章ノ第三節

第五節乃至第七節ノ規定ニ從フ但先取特權ノ固有ノ規則ニ及スルモノハ此限ニ在ラス

(栗塚)報告委員ニテ抵當ノ章末ニ附録ト云フモノアルヲ刪リ本條ヲ修正セリ可決ス

第五章 抵當

第一節 抵當ノ性質及目的物

第一千二百一條 抵當ハ法律又ハ人意ニ因リ或ル義務ヲ他ノ義務ニ先チテ辨償スル爲メニ充テタル不動産ノ上ノ物權ナリ但其不動産ヲ質入スルコトヲ要セス

(松岡)質入スルコトヲ要セストアルハ握有ヲ要セスト云ヘルヲ可トス(元尾崎)不動産ノ上ノ物權ナリト云ヘルハ不動産上ノ物權ナリトシタシ(栗塚)質入ト云ヘル文字ヲ使用シタルハ債權者ノ方ニ付テ云ハス債務者ノ方ヨリ云ヒシモノナレハナリ(尾崎)質入ト云フ字ハ握有トシタシ(笑作)但以下ハ記載シ置クノ必要ナシ(栗塚)質ト抵當トノ區別ヲ顯ハサン爲メナリ(南部)質入スルヲ要セスト云ヘルハ抵當上ノ一條件ナレハ存立シタシ(松岡)但以下ヲ刪除スルヲ可トス可決ス

第一千二百二條 抵當ハ動産質及ヒ不動産質ニ付キ記載シタル如ク働方及ヒ受方ニテ不可分タリ但反對ノ合意アルトキハ此限ニ在ラス無異議

第一千二百三條 抵當ハ不動産ノ完全所有權ノ上ノミナラス父母ノ法律上ノ用益權ヲ除クノ外ノ用益權、質借權、永借權及ヒ地上權ノ上ニモ又此等ノ權利ヲ支分シタル所有權ノ上ニモ之ヲ設定スルコトヲ得

然レトモ完全ノ所有權ヲ有スル者ハ虛有權又ハ用益權ノミヲ分離シテ之ヲ抵當ト爲スコトヲ得ス又土地及ヒ建物ヲ所有スル者ハ土地ヲ分離シテ建物ノミヲ抵當ト爲シ又ハ建物ヲ分離シテ土地ノミヲ抵當ト爲スコトヲ得ス

此ニ反シテ右ノ所有者ハ其不動産ノ限界ニ因リ定マリタル部分又ハ其不分ノ幾部分ヲ抵當ト爲スコトヲ得

又以下修正
復舊ノ建議

地役ハ要役地ヨリ分離シテ之ヲ抵當ト爲スコトヲ得ス又用方ニ因ル不動産ハ其附着スル不動産ヨリ分離シテ之ヲ抵當ト爲スコトヲ得ス

(笑作)本條ノ又以下修正復舊ノ建議トアルハ如何(栗塚)例令ハ地所ト家屋トヲ合セ金千圓ノ價值アルモノヲ五百圓ノ債務ニ對シ其地所ト家屋トヲ抵當トシタルトキハ更ラニ五百圓ノ債務ヲ起サントスル場合ニハ前抵當物ヲ再抵當ト爲シ前抵當物ハ第一抵當トシ後抵當ハ第二抵當トスルヲ得ヘシ故ニ地所ト家屋トハ之ヲ分離セサルヲ便利ナリトスヘシ(松岡)地所ト家屋トヲ合併ノ抵當トセス分離セシムルヲ可トス元來地所ト家屋トハ性質上之ヲ分離スルヲ得ヘキモノナルニ何ニ依リ之ヲ合併セサルヲ得サルヤ(栗塚)物權ハ分離シテ價值ヲ減少シ合併シテ價值ヲ増加スルコトアリ果シテ然ルトキハ債務者ノ爲メニハ利益

ナルニアラスヤ（元尾崎）又以下復舊ノ説ハ非ナリ删除スヘシ
 可決ス（栗塚）此ニ反シテノ下「右ノ」ト云ヘル二字ヲ删除ス
 可シ可決ス（清岡）前項又以下ヲ删除スル以上ハ後項ノ此ニ反
 シテト云フ必要ナシ（南部）此ニ反シテト云フニ妨ケナシ
 第一千二百四條 左ニ掲ケタルモノハ之ヲ抵當ト爲スコトヲ得ス
 使用權、住居權、其他讓渡スコトヲ得ス又ハ差押フルコトヲ得サ
 ル財産

第十一條第二號及ヒ第三號ニ掲ケタル如キ不動産債權
 同第十一條第四號ニ掲ケタル如キ不動産ト爲シタル債權但之ヲ不
 動產ト爲スコトヲ許可スル法律カ其抵當ヲ許サ、ルトキニ限ル
 船舶ノ抵當ニ付テハ特別法ノ規定ニ從フ
 （笑作）特別法トアルハ商法トスヘシ（南部）第二項冒頭「同」
 ノ字ハ贅ナリ（委員長）特別法トアルヲ商法トスルハ可ナリヤ

民再調三ノ九四

若シ商法以外ニ船舶ノ抵當アルトキハ不都合ナリ（南部）特別
 法ト云ヘハ過ナシ（笑作）商法トシテ過ナシ可決ス（南部）「
 同」ノ字ヲ除去スルハ如何删除ニ決ス
 第一千二百五條 此章ノ規定ハ商法其他特別法ニ於テ異例ヲ設ケサル
 限リハ此等ノ法律ヲ以テ設定シタル抵當ニ之ヲ適用ス

無異議

第一千二百六條 抵當ハ漸積地ノ如キ意外及ヒ無償ノ原因ニ由リ或ハ
 建造、栽植其他ノ工作ノ如キ債務者ノ所爲及ヒ費用ニ因リ不動産
 ニ生スルコト有ル可キ増加又ハ改良ニ當然及フモノトス但他ノ債
 權者ニ對シテ詐害ナキコトヲ要シ且前章ニ規定シタル如キ工匠、
 技師及ヒ工事請負人先取特權ヲ妨ケス
 抵當ハ債務者カ縱令無償ニテ取得シタルモノタリトモ其隣接地ニ
 及ハサルモノトス但新圍障ノ設立又ハ舊圍障ノ廢棄ニ因リ隣接地

チ抵當不動産ニ合体シタルトキモ亦内シ

(元尾崎)且前章以下ハ其必要ヲ見ス(笑作)且以下ハ存在スルチ可トス(松岡)増加改良トアル區域明瞭ナラス結局原案ニ決ス

第一千二百七條 意外若クハ不可抗ノ原因又ハ第三者ノ所爲ニ出テタル抵當財産ノ滅失、減少又ハ毀損ハ債權者ノ損失タリ但先取特權ニ關シ第一千三百三十八條ニ記載シタル如ク債權者ノ賠償ヲ受ク可キ場合ニ於テハ其權利ヲ妨ケス

若シ抵當財産カ債務者ノ所爲ニ因リ又ハ保持ヲ爲サ、ルニ因リ減少又ハ毀損ヲ受ケ之カ爲メ債權者ノ擔保力不十分ト爲リタルトキハ債務者ハ抵當ノ補充ヲ與フルノ責ニ任ス
其補充ヲ與フルコト能ハサル場合ニ於テハ債務者ハ擔保ノ不十分ト爲リタル限度ニ應シ滿期前ト雖モ債務ヲ辨済スルノ責ニ任ス

(松岡)第三者ノ所爲ニテト云ヘル文字ハ第一千三百三十八條ニハ第三者ノ方ニテトアリ如何(南部)本條ハ其場合同シカラサレハ第三者ノ所爲ニテト云ヘルモ可ナリ

第一千二百八條 抵當財産ノ差押ナキ間ハ債務者ハ第一百二十六條及ヒ第一百二十七條ニ定メタル期間中其不動産ヲ質貸スルコトヲ得又其果實及ヒ產出物ヲ讓渡シ及ヒ管理ノ總テノ行爲ヲ爲スコトヲ得
無異議

第二節 抵當ノ種類

第一千二百九條 抵當ハ法律上、合意上又ハ遺言上ノモノタリ

(栗塚)裁判上ノ抵當ハ伊白蘭清國ノ如キハ既ニ之ヲ廢シタレハ日本ニ於テモ之ヲ認メサルチ可トス(松岡)裁判上ノ抵當ハ世上ノ便利アルニアラスヤ(栗塚)裁判上ノ抵當ヲ許ストキハ他ノ抵當債權者ヲ害スヘシ(南部)裁判上ノ抵當ハ平同主義ニ

反スヘシ若シ裁判上ノ抵當ヲ許ストキハ差押債權者ニ質權ノ生
スルト云フモ可ナルニ至ルヘシ

第一款 法律上ノ抵當

第一千二百十條 左ノ抵當ハ總テノ要約ニ關セス當然成立ス

第一 婦カ其夫ニ對シテ有スルコト有ル可キ總債權ノ爲メ婚姻
ノ日現ニ夫ニ屬スルト後日之ニ屬ス可キトテ問ハス其夫總不
動產ニ付キ婦ノ有スル抵當但夫ノ未成年タルトキモ亦同シ

第二 未成年者及ヒ禁治產者カ其后見人ニ對シテ有スル總テノ
債權ノ爲メ現在ニ屬スルト將來ニ得ルトテ問ハス後見人ノ總
不動產ニ付キ有スル抵當

第三 國府縣市町村及ヒ公設所カ行政法ノ定メタル限度ト條件
トニ從ヒ會計吏員ノ管理ノ爲メ其不動產ニ付キ有スル抵當

又第一千八百七條及ヒ第一千百九十條ニ從ヒ變性シタル先取特權ヨ

リ生スル抵當ハ之ヲ法律上ノ抵當ト看做ス

(元尾崎)婦カ夫ニ對シテ抵當權ヲ有スルコトアリヤ(箕作)
本法ニテ之ヲ設ケントスルニアリ(松岡)准禁治產者ト云フモ
ノアリヤ(栗塚)准禁治產者ヲ認メス(松岡)人事篇ニハ准禁
治產者ノ認メアリ(栗塚)他日人事篇議事ノ際其認否ヲ決スヘ
シ

第二款 合意上ノ抵當

第一千二百十一條 合意上ノ抵當ハ公正證書ノ方式ニ從ヒ公證人ノ面
前ニテ爲シタル合意ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ設クルコトヲ得ス
之ニ違フトキハ全ク無効ナリ

代理人ヲ以テ抵當ヲ設定スルノ委任ハ特別ニシテ右ニ同シタ公證
人ノ面前ニテ之ヲ與フルコトヲ要ス又委任ノ要旨ヲ抵當ノ合意中
ニ掲クルコトヲ要ス

（元尾崎）合意上ノ抵當ハ公證人ノ面前ニテ爲シタル合意ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ設クルコトヲ得ストアルハ義ニ公證人ノ面前ニ於テスル要件ヲ廢止シタルニ付キ不都合ニアラスヤ（栗塚）公證人ノ面前ニ於テスルト云フ手續ハ簡易ナラサルカ如キモ公正證書ハ執行力ヲ有スヘキ性質ヲ有スルニ依リ公正證書ハ裁判上ノ手續ヲ省略スルノ簡便アリ蓋シ公證人ハ裁判所ノ數ヨリ多カルヘケレハ裁判所ノ設置多カラサル國ニ於テハ此方法ハ肝要ナルヘシ（元尾崎）公證人ノ面前ニ於テスルヲ便利ナリト勸考スルトキハ敢テ法律ヲ以テ之ヲ驅逐セサルモ水ノ下ニ就クカ如ク自カラ其手續ヲ求ムヘシ（村田）公證人ノ制ハ争ヒテ絶ツト云フニアリ世間争ヒノ多キハ争ノ少ナキニ如カサレハ訴訟ニ至ルノ結果ヲ見ルヨリハ訴訟ナキニ止ムノ途ヲ取ラサルヘカラス（松岡）現今登記法ノ手續スラ民間ニハ手數ノ繁雜ニ苦ノ

リ然ルチ此上ニモ公證人ノ手續ヲ要セシムルトスルハ不便ヲ重ルモノト云フヘシ又契約上ノ證明力ハ既ニ登記ノ效ニ依テ多ナリ敢テ公證人手續ヲ略マシムルノ必要アランヤ（村田）公證人手續ヲ經ルトキハ登記官吏モ安心ニ登記スルヲ得ヘキモ公證ナキトキハ登記官吏ハ登記スヘキ事件ノ元由ニ付キ大ニ吟味ヲ盡サ、ルヘカラス（松岡）公證人手續ハ非ナリト云フニアラス只之ヲ強制セス任意ノ法トスルヲ可トス（南部）義ニ議決シタル旨意ヲ取消シ本條ノ精神ニ決セラレンコトヲ希望ス（渡）從來ノ慣行上ニハ異ナルモ不動産ノ抵當ニ付テハ完備ノ手續ヲ盡ササルヘカラス（南部）證明事件ニ付テハ従前區戸長役場ニ於テ之ヲ管司シタル場合ハ非常ノ錯誤混雜ヲ生シ登記所へ引繼ノ後大ニ其錯雜ヲ免レタルモ然レトモ未タ絶無トスルヲ得ス故ニ公證人ノ手續ヲ要スルトキハ其錯雜ヲ避クヘキモノナレハ之ニ依

ラシメサルヘカラス（委員長）伊國民法ノ如ク公正證書又ハ私署證書ヲ以テスルニ非サレハトシテハ如何（松岡）然ルヘシ第一千二百二十四條ト共ニ同一ニ之ヲ修正ス可シ可決ス（箕作）之ニ違フトキハ全ク無効ナリト云フハ删除スヘシ可決ス（尾崎）第二項ハ如何スヘキヤ（元尾崎）代理人ヲ以テ抵當ヲ設定スルトキハ委任ノ要旨ヲ抵當ノ合意中ニ掲クルコトヲ要ストスヘシ可決ス

第一千一百十二條 日本ニ存在スル財産ニ付キ外國ニ於テ爲シタル抵當ノ合意ハ此種類ノ行爲ノ爲メ外國ニ於テ用ユル方式ニ從ヒ之ヲ爲シタルトキハ其效ヲ生スルコトヲ得然レトモ第一千二百十九條及ヒ第一千二百二十四條以下ニ規定シタル條件ニ從フニ非サレハ此合意ニ依リ日本ニ於テ記入ヲ爲スコトヲ得ス

（北島）日本ト云フ文字ハ本邦トシテハ如何（南部）本邦ト云フハ不可ナリ（松岡）第一千二百二十四條ト云ヘルハ最初起案者

民再調三ノ九八

第一千二百二十五條トシタルニアラスヤ（栗塚）然リ（委員長）日本ト云ヘル文字ハ本邦トシテハ如何可決ス

第一千二百十三條 抵當設定ノ證書ニハ義務ノ擔保ニ充テタル不動産ヲ其性質及ヒ所在ヲ以テ特ニ指示スルコトヲ要ス

若シ抵當ノ設定カ債務者ノ現在ノ各不動産ヲ特ニ指示セスシテ其全部又ハ一分ヲ包含スルトキハ債務者ノ請求ニ因リ債權ノ擔保ニ必要ナルモノニ其抵當ヲ減少スルコトヲ得

債務者ノ將來ノ財産ニ付テノ一般又ハ特別ノ抵當ノ設定ハ無効タリ

（箕作）全部又ハ一分ヲ包含スルトキト云ヘル包含ハ總當ナリヤ（栗塚）全部又ハ一部ニ係ルトシテハ如何（南部）包含ト云フチ妥當ナリトス委員長不動産ヲ其性質及ヒ所在ヲ以テ特ニ指示スルコトヲ要スト云ヘルハ文體妥當ナリヤ（栗塚）外ニ好文